

対象コース／専門／学年： ピアノ専門／4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概論 これまで学んできた時代様式に沿った演奏法について確認し、より理解を深め、その中から自分に適したテーマを決定する。

到達目標 自己を見つめ直し、これまでの学びを振り返り、大学生としての集大成となるテーマを見つける。

授業計画		
第 1 回	学習計画	事前 これまでの学習とレパートリーの確認。 事後 学習計画により、今後の方向性を確認する。135 分
第 2 回	時代様式の確認（ 1 ）バロック 形式を中心に	事前 フーガ、舞曲等の作品を聴く。135 分 事後 バロック作品を分析する。135 分
第 3 回	時代様式の確認（ 2 ）バロック 奏法を中心に	事前 アーティキュレーション、装飾音等の作品特徴を研究する。135 分 事後 作品を分析し、奏法の可能性を考える。135 分
第 4 回	時代様式の確認（ 3 ）古典派 形式を中心に	事前 ソナタ形式や、和声進行について確認する。135 分 事後 古典派の作品を分析する。135 分
第 5 回	時代様式の確認（ 4 ）古典派 奏法を中心に	事前 古典派の作品の音色について考える。135 分 事後 タッチ、ペダル、アーティキュレーション等、表現方法の見直し。135 分
第 6 回	時代様式の確認（ 5 ）ロマン派 様式観を中心に	事前 ロマン派の作品の特徴について考える。135 分 事後 音楽以外の分野との関係について考える。135 分
第 7 回	時代様式の確認（ 6 ）ロマン派 奏法を中心に	事前 ロマン派の作品の音色について考える。135 分 事後 ペダル、響きのつくり方の研究と楽器の発達について考える。135 分
第 8 回	時代様式の確認（ 7 ）近現代 音色、響きの研究	事前 近現代作品の作曲家について調べる。135 分 事後 それぞれの作曲家の求める響きについて考える。135 分
第 9 回	時代様式の確認（ 8 ）近現代 奏法を中心に	事前 ピアノという楽器の可能性について考える。135 分 事後 タッチやペダルの使い方の新たな可能性について考える。135 分
第 10 回	研究テーマを考える① 自己分析	事前 自分の過去のレパートリーを検証する。135 分 事後 自分を見つめ、合う作品、音楽的興味の傾向を探る。135 分
第 11 回	研究テーマを考える② 時代様式の観点から	事前 様々な時代の作品を聴く。135 分 事後 それぞれの時代様式と自己と接点を探る。135 分
第 12 回	研究テーマを考える③ 作曲家の観点から	事前 様々な作曲家の作品を聴く。135 分 事後 それぞれの作曲家の響き、世界観を追及する。135 分
第 13 回	研究テーマを考える④ 作品形式の観点から	事前 様々な形式により書かれた作品を比較する。135 分 事後 様々な形式の特徴を理解する。135 分
第 14 回	研究テーマを考える⑤ 技術的観点から	事前 これまでのレパートリーを分析し、自分の技術について分析する。135 分 事後 自分の得意な技術、不得意な技術を確認する。135 分
第 15 回	研究テーマを決定する	事前 これまでの学習のまとめと自己分析。135 分 事後 自分に適した研究テーマを決め、確認する。135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行う。

成績評価 課題への取り組み方（50%）、授業態度（50%）

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

卒業演習-2（ピアノ）	
各実技担当教員	科目コード： IND402
対象コース／専門／学年： ピアノ専門／4 年次	
形態： 演習	単位数： 2 単位
概論	前期に決定した研究テーマを様々な角度から考察し、論文にまとめ上げるための能力を身につける。
到達目標	
卒業演奏試験で取り組む曲について多角的に研究し、卒業演奏論文としてまとめ上げる。	

授業計画			
第 1 回	研究テーマに合致した、卒業演奏試験曲目を選ぶ	事前 研究テーマに則した作品をいくつか考える。 事後 選んだ曲について資料を集める。	135 分 135 分
第 2 回	卒業演奏試験曲目の考察① 時代様式	事前 作品の成り立ちと時代背景について調べる。 事後 同時代の他の作品を聴く。	135 分 135 分
第 3 回	卒業演奏試験曲目の考察② 作曲家	事前 作曲家の生涯や音楽的考え方について調べる。 事後 作曲家のその他の曲を聴く。	135 分 135 分
第 4 回	卒業演奏試験曲目の考察③ 楽曲分析	事前 テーマやモチーフ、リズム、和声について考える。 事後 校正や形式について確認する。	135 分 135 分
第 5 回	卒業演奏試験曲目の考察④ 技術面	事前 指使いを考察する。 事後 困難な箇所の練習方法について考える。	135 分 135 分
第 6 回	卒業演奏試験曲目の考察⑤ 作品全体像の確認	事前 楽譜の読み込み。 事後 楽曲を複数のピアニストによる演奏で聴いてみる。	135 分 135 分
第 7 回	論文の書き方について学ぶ	事前 過去に書かれた論文を読む。 事後 論文の形式について確認。	135 分 135 分
第 8 回	資料研究① 文献を集める	事前 関係するキーワードを考える。 事後 文献を検索する。	135 分 135 分
第 9 回	資料研究② 文献の理解	事前 関連する文献を読み込む。 事後 文献以外の資料の調査。	135 分 135 分
第 10 回	構成を考える	事前 方向性の決定。 事後 文献の整理。	135 分 135 分
第 11 回	構成を決定する	事前 目次案の作成。 事後 目次と引用文献の確認。	135 分 135 分
第 12 回	作成① 概要	事前 草稿を作成する。 事後 草稿を推敲する。	135 分 135 分
第 13 回	作成② 要旨作成	事前 要旨を再考し、まとめる。 事後 原稿を作成する。	135 分 135 分
第 14 回	校正	事前 原稿の読み込み。 事後 多角的に原稿を確認し、問題点を考える。	135 分 135 分
第 15 回	まとめ	事前 自己評価をして、問題点を修正する。 事後 清書する	135 分 135 分
フィードバック	卒業演奏試験後に講評する。		

成績評価 卒業演奏試験に研究した内容が反映されているか。評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□	□

卒業演習-1（弦楽器）	
各実技担当教員	科目コード：IND401
対象コース／専門／学年：弦楽器専門／4 年次	
形態：演習	単位数：2 単位
概論	卒業演奏試験（小論文含む）にむけて、音楽の解釈力と表現力を養う。

到達目標 自らの解釈をもって、説得力のある演奏や論文執筆ができる。

授業計画															
この単位は半期 15 回、各人 60 分の個人指導 専門実技Ⅳ・Ⅰ および（演）専門実技Ⅳ・Ⅰ に付随する。															
第 1 回	学習計画をたてる														
第 2 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（1）														
第 3 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（2）														
第 4 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（3）														
第 5 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（4）														
第 6 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（5）														
第 7 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（6）														
第 8 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（7）														
第 9 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（1）あるいは課題曲 A（バロック期）（1）を学ぶ														
第 10 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（2）あるいは課題曲 A（バロック期）（2）を学ぶ														
第 11 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（3）あるいは課題曲 A（バロック期）（3）を学ぶ														
第 12 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（4）あるいは課題曲 B（古典派）（1）を学ぶ														
第 13 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（5）あるいは課題曲 B（古典派）（2）を学ぶ														
第 14 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（6）あるいは課題曲 B（古典派）（3）を学ぶ														
第 15 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（7）あるいは課題曲 A、B を学ぶ														

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われた、実技試験後には講評を行う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

卒業演習-2（弦楽器）	
各実技担当教員	科目コード： IND402
対象コース／専門／学年： 弦楽器専門／4 年次	
形態： 演習	単位数： 2 単位
概論	卒業演奏試験（小論文含む）にむけて、音楽の解釈力と表現力を養う。

到達目標 自らの解釈をもって、説得力のある演奏や論文執筆ができる。

授業計画	この単位は半期 15 回、各人 60 分の個人指導 専門実技Ⅳ-2 および（演）専門実技Ⅳ-2 に付随する。		
第 1 回	学習計画をたてる、あるいは課題曲 C（ロマン派小品）（1）を学ぶ	事前 小品のキャラクターをとらえる力を養う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 2 回	課題曲Ⅲ（小品）（1）あるいは課題曲 C（ロマン派小品）（2）を学ぶ	事前 新たな作品の背景や形式をとらえる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 3 回	課題曲Ⅲ（小品）（2）あるいは課題曲 C（ロマン派小品）（3）を学ぶ	事前 新たな奏法へのアプローチを試みる 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 4 回	課題曲Ⅲ（小品）（3）あるいは課題曲 D（ロマン派協奏曲）（1）を学ぶ	事前 楽曲の全体像を俯瞰できるようにする。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 5 回	卒業演奏試験へのアプローチあるいは課題曲 D（ロマン派協奏曲）（2）を学ぶ	事前 卒業試験をみすえて、ペース配分を再考する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 6 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（1）あるいは課題曲 D（ロマン派協奏曲）（3）を学ぶ	事前 作曲家の意図をくみとる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 7 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（2）あるいは課題曲 E（近現代）（1）を学ぶ	事前 多彩な語彙力を養う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 8 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（3）あるいは課題曲 E（近現代）（2）を学ぶ	事前 より自由な発想をもつ。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 9 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（4）あるいは課題曲 E（近現代）（3）を学ぶ	事前 論理的思考をつちかう。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 10 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（5）あるいはリサイタルプログラム（1）を学ぶ	事前 自身の演奏を客観的にとらえ、プレゼンテーションを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 11 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（6）あるいはリサイタルプログラム（2）を学ぶ	事前 より伝わる演奏をするためのアプローチを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 12 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（7）あるいはリサイタルプログラム（3）を学ぶ	事前 小論文の準備について確認する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 13 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（8）あるいはリサイタルプログラム（4）を学ぶ	事前 ピアノとの緻密なアンサンブルを構築する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 14 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（9）あるいはリサイタルプログラム（5）を学ぶ	事前 ホールリハーサルの実感をいかして演奏準備にあたる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 15 回	卒業演習試験の反省	事前 集大成となる舞台にむけて準備する。 事後 4 年間の学びをふりかえり	135 分 135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われた、実技試験後には講評を行う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

各実技担当教員

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年：器楽コース・演奏家コース／管打楽器専門／4 年次生

形態：演習

单位数：2 单位

概要 卒業試験に向けて準備する。

到達目標 4年間の集大成として十分な内容を披露することを目標とする。

授業計画

第1回	3年次までに取り上げた曲を振り返り、奏法・表現について反省する。	事前 前年度までの学修を確認する。	135分
		事後 反省から展望へとつなげる。	135分
第2回	卒業試験の曲目について候補を上げる。	事前 候補曲について考える。	135分
		事後 さらに候補曲がないか確かめる。	135分
第3回	卒業試験の曲目を決定する。	事前 候補曲の中から希望する曲目を考える。	135分
		事後 楽譜の手配	135分
第4回	練習の方針について確認する。	事前 譜読みを始める。	135分
		事後 問題個所の確認と練習。	135分
第5回	曲目の様式を学ぶ。	事前 様式について予習する。	135分
		事後 様式について復習する。	135分
第6回	①曲目の内容について分析する。	事前 内容の分析について予習する。	135分
		事後 内容の分析について復習する。	135分
第7回	②曲目の内容について分析する。	事前 内容の分析について予習する。	135分
		事後 内容の分析について復習する。	135分
第8回	③曲目の内容について分析する。	事前 内容の分析について予習する。	135分
		事後 内容の分析について復習する。	135分
第9回	①奏法について	事前 表現について取り組む。	135分
		事後 表現について学んだことを身に付ける。	135分
第10回	②奏法について	事前 さらに深く奏法について取り組む。	135分
		事後 奏法について復習する	135分
第11回	③奏法について	事前 さらに深く奏法について取り組む。	135分
		事後 奏法について復習する	135分
第12回	表現の工夫	事前 表現に取り組む	135分
		事後 復習して身に付ける。	135分
第13回	表現の掘り下げ	事前 全般的に確認する	135分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。	135分
第14回	前期の仕上げ	事前 前期の仕上げを目指す	135分
		事後 問題個所を確認し、是正する。	135分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の問題点について振り返る。	135分
		事後 前期の問題点について振り返り、問題点を是正する。	135分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われまた、実技試験後には講評する。

成績評価 実技試験で評価する。

なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒

卒業演習-1 (声楽)

各実技担当教員

科目コード: MUS401

対象コース／専門／学年：声楽・演奏家コース／声楽専門／4年次

形態：実技

单位数：2 单位

概要	卒業に際して、4年間の成果をひとつのプログラムとして構築し演奏する。 卒業演奏で演奏した曲目について自分の言葉で解説した小論文を作成する。
----	--

到達目標	4年間の学習、研究を振り返る。 自分の声の質、特質を理解する。 自分の声に合ったレパートリーを身に付ける。
------	--

授業計画	声楽コース：15 回。週 60 分の個人指導。 演奏家コース：15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。
------	--

第1回	ガイダンス これまで学習してきたレパートリーを確認する	事前	3年間での学修を確認し学習計画を練る	140分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	130分
第2回	レパートリーを確認したうえで、卒業演奏の曲目を考える	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第3回	外国歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第4回	外国歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第5回	日本歌曲 楽譜を読み込む① 和声感、様式感を中心に	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第6回	日本歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第7回	オペラ、オラトリオ等のアリア 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第8回	オペラ、オラトリオ等のアリア 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第9回	外国歌曲の紋り込み	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第10回	外国歌曲の紋り込みと確認	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第11回	日本歌曲の紋り込み	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第12回	日本歌曲の紋り込みと確認	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第13回	オペラ、オラトリオ等のアリアの紋り込み	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第14回	オペラ、オラトリオ等のアリアの紋り込みと確認	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第15回	プログラムを組み試演する	事前	次のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分

フィードバック 試演後、個人面談の形で振り返り問題点を洗い出す

成績評価 試演後、担当教員による評価

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐		☐			☐

卒業演習-2 (声楽)

各実技担当教員

科目コード：MUS402

対象コース／専門／学年：声楽・演奏家コース／声楽専門／4年次

形態：実技

概要	卒業に際して、4年間の成果をひとつのプログラムとして構築し演奏する。 卒業演奏で演奏した曲目について自分の言葉で解説した小論文を作成する。
----	--

到達目標	4年間の学習、研究を振り返る。 自分の声の質、特質を理解する。 自分の声に合ったレパートリーを身に付ける。 小論文を作成し提出する。
------	--

授業計画 声楽コース：15 回。週 60 分の個人指導。
演奏家コース：15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。

第1回	プログラムの試演と確認	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第2回	プログラムの確立	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第3回	小論文の為の資料を集める① 選択した楽曲の正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第4回	小論文の為の資料を集める② 演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第5回	小論文の為の資料を集める③ 演奏上の問題点の認識とその解決をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第6回	小論文作成① ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第7回	小論文作成② ピアノ伴奏とともに演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第8回	小論文作成③ ピアノ伴奏とともに演奏上の問題点の認識とその解決をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第9回	小論文作成④ 暗譜の確認	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第10回	小論文作成⑤ 暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第11回	小論文の確認 暗譜の上、表現、演奏の充実、さらなる向上をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第12回	小論文の修正① 暗譜で演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第13回	小論文の修正② 暗譜で演奏の完成度を高める	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第14回	小論文修正後の再確認 卒業演奏の予行演習をする	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分
第15回	小論文の完成 演奏の問題点の再確認とその解決をはかる	事前	次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする	140分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	130分

フィードバック 卒業演奏、並びに小論文提出後に個人面談の形で振り返り、成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

卒業演習-1

教授 山内雅子

科目コード : MUS401

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／4 年次

形態： 通年 単位数： 2 単位

概論 卒業論文執筆に向け、3 年次の「演習（音楽教育 A）」での学修を基に、具体的な論文執筆に入り 12 月中に書きあげて提出する。7 月には中間発表会、1 月には論文審査の口頭試問、3 月には大学内外に向けて、卒業論文口述発表会を行う。

到達目標 音楽教育の研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文の形にまとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。文献調査と整理の基本的スキルを身に付けると共に、教育実践の現場から学び、また課題を読み取る能力を養い、それらを基に自己の考えをまとめ、プレゼンテーションする能力を鍛錬する。

授業計画【AL】 3 年次に行ってきた基礎研究と作成した教材・学習指導案を生かして検証授業を行うことが前期の中心となる学修課題となる。

第 1 回	各自の論文のプロットと序章の確認	事前 事後	プロットと序章を仕上げてくる 指導助言を生かして必要に応じて加筆・修正する。	130 分 140 分
第 2 回	基礎研究の執筆と修正	事前 事後	第 1 章の基礎研究を書き上げてくる。 指導助言を生かして必要に応じて加筆・修正する。	130 分 140 分
第 3 回	基礎研究と先行研究の執筆 1	事前 事後	自身の卒業論文の先行研究を明確に示し、書き上げてくる。 指導助言を生かして必要に応じて加筆・修正する。	130 分 140 分
第 4 回	基礎研究・先行研究の執筆 2	事前 事後	研究の中心になる部分を書き進める。インタビュー、教材作成、指導案作成等 指導助言を生かして必要に応じて加筆・修正する。	130 分 140 分
第 5 回	調査研究・教材作成 1	事前 事後	研究の中心になる部分を書き進める。インタビュー。教材作成、指導案作成等。 指導助言を生かして必要に応じて加筆・修正する。	130 分 140 分
第 6 回	調査研究・教材作成 2	事前 事後	研究の中心になる部分を書き進める、インタビュー、教材作成、指導案作成等。 指導助言を生かして必要に応じて加筆・修正する。	130 分 140 分
第 7 回	教育実習の中で、自己の研究との関連を考える	事前 事後	研究への課題意識をもって教育実習に臨む。 教育実習を通して、自身の卒業研究の意義を考える。	130 分 140 分
第 8 回	教育実習の中で、自己の研究との関連を考える	事前 事後	研究への課題意識をもって教育実習に臨む。 教育実習を通して、自身の卒業研究の意義を考える。	130 分 140 分
第 9 回	教育実習の中で、自己の研究との関連を考える	事前 事後	研究への課題意識をもって教育実習に臨む。 教育実習を通して、自身の卒業研究の意義を考える。	130 分 140 分
第 10 回	卒業論文中間発表会の資料作成	事前 事後	卒論中間発表に向けて、資料を作成する。 指導助言を生かして修正する。	130 分 140 分
第 11 回	卒論中間発表会の発表資料作成	事前 事後	卒論中間発表に向けて、資料を作成する。 指導助言を生かして修正する。	130 分 140 分
第 12 回	卒論中間発表会のリハーサル	事前 事後	発表資料を整える。 リハーサルを生かして修正する。	130 分 140 分
第 13 回	卒論中間発表会	事前 事後	発表資料を整える。 自身の卒業論文について得た客観的な評価と助言を振り返る。	130 分 140 分
第 14 回	今後の研究計画の検討	事前 事後	中間発表会を通して得られた指導助言を生かして、今後の研究計画を立てる。 指導助言を生かして修正すると共に、各自の研究課題を進めていく。	130 分 140 分
第 15 回	各自の研究課題を進める。	事前 事後	各自の研究課題を追求する。 指導助言を生かして、各自の研究課題を追求し、執筆していく。	130 分 140 分

フィードバック 学生が事前に執筆してきた内容を授業内で発表し全員で検討する形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。

成績評価 日々の取り組み内容と、卒業論文中間発表会によって評価する。

- テキスト
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年
 - ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 平成 30 年
 - ・先行研究の論文等、適宜提示 検索

オフィスアワー 疑問・質問は授業後随時対応する。また Email での論文添削も随時行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	□	□	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	□	☒	☒	□	☒

卒業演習-2

教授 山内雅子		科目コード：MUS402	
対象コース／専門／学年：GLA コース／音楽教育専門／4 年次			
形態：演習		単位数：2 単位	
概論	前期の研究と中間発表会での指導助言を生かして、論文を書き進める。毎週の授業でそれぞれの学生が発表した内容について、ゼミ生全員で検討し、学び合い高め合えるようにする。12 月初旬に書きあげて提出し、1 月の論文審査の口頭試問を経て修正した上で、最終提出を行い、卒業論文口述発表会で発表する。		
到達目標	音楽教育の研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文の形にまとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。文献調査と整理の基本的スキルを身に付けると共に、教育実践の現場から学び、また課題を読み取る能力を養い、それらを基に自己の考えをまとめ、プレゼンテーションする能力を鍛錬する。		
授業計画	これまでの基礎研究と実践研究をもとに、研究仮説を検証し、論文として書き上げる。個別指導ではあるがゼミ生全員で学び合い高め合えるようにする。		
【AL】			
第 1 回	夏期休業中の研究成果を発表し、検討を通して軌道修正を行う。	事前 前期の研究と中間発表会での指導助言を生かして、書き進めてくる。 事後 指導助言を受けて、修正しつつ書き進めていく。	130 分 140 分
第 2 回	各自取り組んだ内容を発表し、検討する。	事前 更に、理論研究が必要となった部分に関しての文献研究を行い、検討資料を作成する。 事後 授業内の検討を受けて、更なる課題を明確にし、他の文献も検索し、入手する。	130 分 140 分
第 3 回	各自取り組んだ内容を発表し、検討する。	事前 各自が課題を追究し、文章に表してくる。 事後 指導助言を生かして、修正しつつ書き進める。	130 分 140 分
第 4 回	各自取り組んだ内容を発表し、検討する。	事前 論文の完成に向けて、序章から第 1 章を見直し、加筆修正を行う。 事後 講義を受けて、序章と第 1 章を更に加筆・修正して仕上げる。	130 分 140 分
第 5 回	各自取り組んだ内容を発表し、検討する。	事前 論文の完成に向けて、第 2 章を見直し、加筆修正を行う。 事後 基礎研究、検証授業を振り返り、第 2 章の加筆修正を行う。	130 分 140 分
第 6 回	各自取り組んだ内容を発表し、検討する。	事前 検証授業のビデオを再度視聴し、改めて仮説が実証されたかを分析する。 事後 授業内の再検討を受けて、丁寧に 3 つの視点で授業分析する。	130 分 140 分
第 7 回	各自取り組んだ内容を発表し、検討する。	事前 3 つの視点で授業分析した結果を文章で端的に表現する。 事後 授業分析の結果と生徒アンケートの結果をすり合わせる。	130 分 140 分
第 8 回	研究の結果と今後の課題の執筆と検討を行う。	事前 研究の結果と今後の課題を執筆してくる、 事後 指導助言を生かして、修正する。	130 分 140 分
第 9 回	主要参考文献等の執筆と検討を行う。	事前 脚注、引用文献、主要参考文献を書き上げてくる。 事後 指導助言を受けて、修正する。	130 分 140 分
第 10 回	論文全体と脚注の点検と検討を行う。	事前 論文全体と特に脚注の点検をしてくる。 事後 指導助言を受けて、修正する。	130 分 140 分
第 11 回	論文要旨作成と全体的見直しを行う。	事前 論文の要旨を作成する。 事後 講義を受けて、論文の要旨を修正する。	130 分 140 分
第 12 回	論文を完成しプリントアウトをして提出する。	事前 始めから最後まで丁寧に読み直し、完成させてくる。 事後 完成論文をプリントアウトし、規定の表紙をつけて提出する。	130 分 140 分
第 13 回	口頭試問に向けて準備をする。	事前 10 分間で、各自の卒業論文の内容を発表する準備をしてくる。 事後 指導助言を受けて、修正する。	130 分 140 分
第 14 回	口頭試問に向けて準備をする。	事前 発表原稿を作成すると共に、想定質問を考え答えを準備する。 事後 指導助言を生かして、更に発表内容を	130 分 140 分
第 15 回	口頭試問を受けて、論文の修正を行う。	事前 口頭試問で指導・助言を受けた内容について修正する。 事後 指導教官とのやりとりの中で完成させ、提出する。	120 分 140 分
成績評価	論文執筆に取り組む日々の姿勢、完成した卒業論文、卒業論文口頭試問によって総合的に評価する。		
テキスト	・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年 ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 平成 30 年		
オフィスアワー	疑問・質問は授業後随時対応する。また Email での論文添削も随時行う。		
備考	正規の演習時間外に演習の時間を設定する場合がある。		

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	

科目コード：MUS401

形態：演習	単位数：2単位
概要	個々の学生の研究テーマに沿って、先行研究、研究方法、調査内容、執筆内容などの確認を随時行う。必要に応じて、調査方法、関連する研究などの情報提供を行う。各回は、学生自身の研究状況報告を主とする。

到達目標	研究を通じて、社会人に必要とされるスキルを身につける。スキルとは具体的には以下を指す。①コミュニケーション能力（報告・連絡・相談）、意見交換の際の言葉遣いや身振り、教室における挨拶や謝罪などの基本的マナー、研究に協力してくれた方への礼節、②研究方法における論理性、合理性、客観性、③論文執筆における文章力強化、社会常識に即した文章表現（差別的言動の回避など）。
------	--

フィードバック 各回に口頭で研究状況についての助言や批判を行う。

成績評価 各回の取り組みの姿勢 10%、卒業論文 90%（執筆内容および口頭試問）

テキスト 随時指示する。

オフィスアワー 水曜日 11:00-12:00 日本音楽史研究所

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐		☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐		☐	☐	☐

准教授 櫻井利佳 科目コード: MUS402

形態：演習

到達目標	研究を通じて、社会人に必要とされるスキルを身につける。スキルとは具体的には以下を指す。①コミュニケーション能力（報告・連絡・相談）、意見交換の際の言葉遣いや身振り、教室における挨拶や謝罪などの基本的マナー、研究に協力してくれた方への礼節、②研究方法における論理性、合理性、客観性、③論文執筆における文章力強化、社会常識に即した文章表現（差別的言動の回避など）。
------	---

[illegible]

テキスト 随時指示する。

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験、多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐		☒	☒		☐	☐	☐		☐	☐	☐

形態：講義	単位数：2 単位
概要	各自が選んだテーマを元に、論文を完成させるための指導をおこなう。論文執筆の進度に応じてグループおよび個人指導の形態で実施する。アートマネジメント研究領域の動きを概観しながら、各自の選んだテーマの位置づけを先行研究リサーチから明らかにし、現場における実践から得たデータを分析し、論文の形にまとめる。
到達目標	論文に必要な「問い」、各自が取り組む「課題」、先行研究の調査およびそこから見えてくる「仮説」と各自のリサーチの「オリジナリティ」、実践や現場調査、制作プロジェクトを通して得たデータの「分析」と「論拠」の構成をしっかりと明確に意識しながら執筆することを目標とする。中間発表、口頭発表などを通してプレゼンテーションスキルも養う。

授業計画				
第 1 回	各自の卒業論文の研究テーマについて、昨年度提出の研究計画書のディスカッションと見直し	事前	3 年次演習で提出した研究計画書の見直し作業をおこなう	100 分
		事後	指定教科書の 3 年演習時に扱った部分を復習する	170 分
第 2 回	各自の卒業論文の研究テーマについて、前回の演習でのディスカッションに基づいて修正したものを持参し、研究の方向性を決定する。	事前	フィードバックを踏まえて修正をおこなう	100 分
		事後	論文の研究テーマについて構成要素にしたがってあらすじを書く	170 分
第 3 回	論文の構成を考える。 構成項目のあらすじを作成する。アートマネジメント研究領域の分野を明確にする	事前	論文の研究テーマについて構成要素にしたがってあらすじを書く	100 分
		事後	講義で合意した研究分野の先行研究を Google Scholar, CiNii で調査する。	170 分
第 4 回	データの分析方法 信頼性と妥当性／トライアンギュレーション	事前	テキストの Step3-15, 16 を読んでおく	100 分
		事後	講義を受けて、数本の論文を深く読み、結論を整理する。(レビュー)	170 分
第 5 回	データの分析方法 グラウンデッド・セオリー・アプローチ／エスノグラフィー／KJ 法	事前	テキストの Step3-17, 18, 19 を読んでおく	100 分
		事後	自身の調査の位置づけを考え、どのような結論を想定するか検討する	170 分
第 6 回	データの分析方法 絶えざる比較法／KH Coder による分析	事前	テキストの Step3-20, 21 を読んでおく	100 分
		事後	研究テーマの仮説を立て、なぜオリジナリティがあるのか論拠を立てる	170 分
第 7 回	質的研究の論文執筆と発表 研究論文の進め方	事前	テキストの Step4-22, 23, 24 を読んでおく	100 分
		事後	仮説の論拠としての事例や制作実習は適切か、検討する	170 分
第 8 回	質的研究の論文執筆と発表 査読をクリアするための秘訣／プレゼンテーションの留意点と秘訣	事前	テキストの Step4-25, 26 を読んでおく	100 分
		事後	データ分析手法の種類をリサーチし、適切な方法を選択する	170 分
第 9 回	第 1 章の執筆	事前	これまでの学習内容を第 1 章で落とし込みながら執筆する	100 分
		事後	講義を受けて、加筆修正をおこなう	170 分
第 10 回	第 1 章の加筆修正	事前	引き続き加筆修正をおこなう	100 分
		事後	第 1 章を完成させる、先行事例の部分執筆する	170 分
第 11 回	先行事例の部分の執筆	事前	引き続き執筆する	100 分
		事後	講義を受けて、加筆修正をおこなう	170 分
第 12 回	先行事例の部分の加筆修正	事前	引き続き加筆修正をおこなう	100 分
		事後	先行事例部分を完成させる。	170 分
第 13 回	これまでの研究のまとめ	事前	中間報告会に向けて、これまでの研究をまとめ、発表内容の原案を作成する。	100 分
		事後	講義を受けて、発表内容を修正する。	170 分
第 14 回	中間報告：レジュメ作成	事前	中間発表のレジュメを作成する。	100 分
		事後	講義を受けて、中間発表のレジュメを修正する。	170 分
第 15 回	中間報告：口頭発表	事前	口頭発表の発表原稿を作成する。	100 分
		事後	発表会で受けた質問や課題を受け止め、足りない部分を補足する。	170 分

フィードバック	学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。
成績評価	7 月上旬に卒業論文の中間報告が義務づけられる。中間報告までの取組と内容（70%）、中間報告会での発表内容やプレゼンテーション、質疑応答などのパフォーマンス（30%）を含めて評価する。
テキスト	中蔦洋「初学者のための質的研究 26 の教え」（2015）医学書院 ISBN 978-4-260-02405-1

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 正規の演習時間外に個別指導等の時間を設定する場合がある。メールで添削する場合もある。

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年：GLA コース／文化創造マネジメント専門／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	各自が選んだテーマを元に、論文を完成させるための指導をおこなう。論文執筆の進度に応じてグループおよび個人指導の形態で実施する。アートマネジメント研究領域の動きを概観しながら、各自の選んだテーマの位置づけを先行研究リサーチから明らかにし、現場における実践から得たデータを分析し、論文の形にまとめる。
到達目標	論文に必要な「問い」、各自が取り組む「課題」、先行研究の調査およびそこから見えてくる「仮説」と各自のリサーチの「オリジナリティ」、実践や現場調査、制作プロジェクトを通して得たデータの「分析」と「論拠」の構成をしっかりと明確に意識しながら執筆することを目標とする。中間発表、口頭発表などを通してプレゼンテーションスキルも養う。

第 1 回	新たな課題の提起：構成の修正	事前 中間発表でのコメントを整理し、軌道修正を行い修正案を作成する。	100 分
第 2 回	各自のフィールドワーク、制作実践（広報宣伝・当日運営体制・運営ボランティアの確認）	事後 講義を受けて、今後の研究の方向を明らかにする。	170 分
第 3 回	各自のフィールドワーク、制作実践（ゲネプロ実施）	事前 フィールドワーク・制作実践の準備	100 分
第 4 回	各自のフィールドワーク、制作実践（本番実施）	事後 フィールドワーク・制作実践の準備	170 分
第 5 回	各自のフィールドワークの振り返り、整理	事前 フィールドワーク・制作実践の準備	100 分
第 6 回	フィールドワークおよび制作実践で得たデータの分析	事後 フィールドワーク・制作実践の準備	170 分
第 7 回	フィールドワーク部分の執筆	事前 これまでのフィールドワークの整理をおこなう	100 分
第 8 回	フィールドワーク部分の加筆修正	事後 講義を受けて、フィールドワークのストーリーを確定する。	170 分
第 9 回	これまでの執筆部分を論文に構成し、過不足部分を捉え、さらに執筆	事前 データの詳細を分析する	100 分
第 10 回	脚注・引用・参考文献のチェック	事後 論文使用のためにデータをビジュアル化する	170 分
第 11 回	論文要旨作成・全体の見直し	事前 フィールドワーク内容を執筆する	100 分
第 12 回	発表レジュメ作成と全体の見直し	事後 講義を受けて、加筆修正を行う。	170 分
第 13 回	論文発表・演習レポート準備	事前 フィールドワーク内容の加筆修正を行う。	100 分
第 14 回	論文・演習レポート発表	事後 講義を受けて、さらに加筆修正を行い、確定させる	170 分
第 15 回	まとめ	事前 論文の構成に従ってこれまで書き溜めたテキストを再構成する	100 分
		事後 講義を受けてブラッシュアップ	170 分
		事前 脚注・引用・参考文献の頁を執筆する。	100 分
		事後 講義を受けて、脚注・引用・参考文献について加筆修正する。	170 分
		事前 論文・演習レポートの要旨を見直す。	100 分
		事後 講義を受けて、論文演習レポートの要旨を修正する。	170 分
		事前 発表のレジュメを作成する。	100 分
		事後 講義を受けて、レジュメの修正を行う。	170 分
		事前 論文発表に向けて、パワーポイントを作成する。	100 分
		事後 講義を受けて、パワーポイントを修正する。	170 分
		事前 発表原稿を作成する。	100 分
		事後 卒業論文審査での指導助言を受けて、要旨、並びに論文を修正する。	170 分
		事前 論文、並びに要旨を仕上げ、提出する。	100 分
		事後 卒業後の新しい仕事の中で、研究したことを生かしていく課題意識を明確にする。	170 分

フィードバック	学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。
成績評価	卒業論文・制作および口頭試問によって評価する（70％）。具体的には、論文の形式、目的、方法、内容、参考文献の記載方法等が適切であるかを評価する。卒業論文完成までの取組と内容（30％）も考慮に入れる。
テキスト	中島洋「初学者のための質的研究 26 の教え」（2015）医学書院 ISBN 978-4-260-02405-1

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball0000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 正規の演習時間外に個別指導や制作実践指導などの時間を設定する場合がある。メールで添削する場合もある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	☑	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□

専門実技Ⅳ-1（ピアノ）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	これまで様々な時代の作品に取り組んできた学びの集大成として、学びを振り返り、自由曲を決定し基礎的研究を行う。

到達目標	時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。 前期はこれまでの学びをより一層確実なものにし、レパートリーを広げる。後期は 4 年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。
------	---

授業計画	半期 15 回、各人 60 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	学習の計画 プログラムの検討	事前 自己分析。 事後 集大成に相応しいテーマと課題を設定する。	320 分 520 分
第 2 回	基礎技術の確認	事前 基礎技術教材を使って反復練習。 事後 反復練習。	320 分 520 分
第 3 回	練習曲(正確な打鍵)	事前 正しいフォームを意識して反復練習。 事後 苦手な指を意識して反復練習。	320 分 520 分
第 4 回	練習曲(様々な音型)	事前 反復練習。 事後 手指の柔軟性と強化を意識して反復練習。	320 分 520 分
第 5 回	J.S.バッハを学ぶ	事前 バッハ作品読譜。 事後 バロックの様式を意識して練習。	320 分 520 分
第 6 回	音色、響きの追求	事前 様々な奏法による響きの違いを確認。 事後 音、響きを聴きながら効果的、理想的な身体、手腕の使い方を追求。	320 分 520 分
第 7 回	自由曲(構成の理解)	事前 形式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。 事後 それぞれ形式、音楽の構造を明確にしながら演奏。	320 分 520 分
第 8 回	自由曲(表現法)	事前 様式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。 事後 拍子感、リズム、色彩、テンポルパート等、様々な表現を追求する。	320 分 520 分
第 9 回	技術課題の取り組み方	事前 得手不得手を自己分析。 事後 問題点を判断する視点、練習法、留意点を整理する。	320 分 520 分
第 10 回	まとめ	事前 異なる様式の作品に取り組む。 事後 技術、表現、理解度を確認。	320 分 520 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	事前 構造を読み取り整理する。 事後 各声部の弾き分け、コントロールを徹底練習。	320 分 520 分
第 12 回	楽曲分析	事前 和声進行と構造を整理。 事後 整理された演奏を追求。	320 分 520 分
第 13 回	装飾音について	事前 様々な装飾音を調べる。 事後 装飾音の入れ方、演奏の技術の習得。	320 分 520 分
第 14 回	声部の弾き分け	事前 作品の横ラインを確認。 事後 耳、指のコントロールを徹底して訓練。	320 分 520 分
第 15 回	諸要素の徹底	事前 音楽理解と演奏を総合的に自己分析する。 事後 課題を自覚して取り組む。	320 分 520 分

フィードバック	各教員から学生へのフィードバックは必要に応じて行う。
---------	----------------------------

成績評価	課題への取り組み方（50%）、授業態度（50%）
------	--------------------------

テキスト	自由曲は各自の進度に合わせ適宜選定する。卒業試験課題曲は 7 月の発表掲示を参照のこと。
------	--

オフィスアワー	レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。
---------	------------------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（ピアノ）

各実技担当教員

科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	これまで様々な時代の作品に取り組んできた学びの集大成として、卒業試験に向けて課題曲と自由曲に取り組み、まとめ上げる。

到達目標	時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。 前期はこれまでの学びをより一層確実なものにし、レパートリーを広げる。後期は 4 年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。
------	---

授業計画 半期 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	卒業試験の選定とアプローチについて	事前 事後	学習の成果を基に選曲。 担当教員のアドバイスを基に組みの計画を立てる。	320 分 520 分
第 2 回	時代背景と様式	事前 事後	作曲家の時代、人物、作品について幅広く学ぶ。 作品とその演奏法についてビジョンを明確にする。	320 分 520 分
第 3 回	楽曲分析	事前 事後	作品の構造を調べる。 分析を通して表現、演奏法のイメージを明確にする。	320 分 520 分
第 4 回	読譜の注意	事前 事後	楽譜を細部まで読む。 作曲家の指示や行間の意味を読み取る。	320 分 520 分
第 5 回	技術的課題の練習法	事前 事後	技術的問題点の自覚。 原因追究、理想を基に効果的な解決法を工夫する。	320 分 520 分
第 6 回	作品全体の構成と内容理解	事前 事後	楽曲分析の徹底。 形式、様式を読み取り、魅力的な演奏表現に結びつける。	320 分 520 分
第 7 回	コントラスト(音色、強弱、ハーモニー感など)	事前 事後	音楽の様々な変化を意識して練習。 それぞれの变化、違いをどう表現するか。	320 分 520 分
第 8 回	表現の工夫	事前 事後	作品に相応しい表現、魅力を整理する。 様式、作品に相応しく、奏者の心を通した表現の探求。	320 分 520 分
第 9 回	拍子感、リズム、テンポの確認	事前 事後	作品の様式、形式、性格、内容を確認する。 拍子感、リズム、テンポが相応しく音楽が生きているか追求。	320 分 520 分
第 10 回	演奏技術の練習	事前 事後	作品の総理解を深める。 演奏、表現に適した技術の確認と練習。	320 分 520 分
第 11 回	ホール演奏を踏まえた表現、バランス	事前 事後	ホールの広さをイメージして練習。 客観的な耳、深い呼吸、伸びやかな身体などのチェック。	320 分 520 分
第 12 回	ペダルの確認	事前 事後	ペダル操作の確認、耳の訓練。 美しい響きの追求。	320 分 520 分
第 13 回	表現の正確さ、自在さ	事前 事後	作品演奏のイメージを明確にする。 作品に共感しイメージ通り弾けているか、技術的問題を解決しているか、自己分析と練習。	320 分 520 分
第 14 回	全体バランスの調整	事前 事後	細部、全体まんべんなく練習。 自己分析と反復練習。	320 分 520 分
第 15 回	演奏への最終確認	事前 事後	イメージ、表現、技術の再確認。 仕上げ。	320 分 520 分

フィードバック 卒業試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 卒業試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 自由曲は各自の進度に合わせ適宜選定する。卒業試験課題曲は 7 月の発表掲示を参照のこと。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（管楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画		
第 1 回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる 420 分 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①の確認	事前 練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 練習曲①、曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	事前 練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む 420 分 事後 練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける 420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲①仕上げの演奏	事前 練習曲①定着、曲①の表現の工夫 420 分 事後 練習曲②問題箇所を確認し、曲①のまとめを行う 420 分
第 7 回	練習曲②定着、曲②確認	事前 練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 練習曲②のまとめ。曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 8 回	練習曲③確認、曲②表現の工夫	事前 練習曲③の譜読みと準備。曲②の表現に取り組む 420 分 事後 練習曲③の問題箇所を確認し、曲②の表現を身に付ける 420 分
第 9 回	練習曲③定着、曲②仕上げの演奏	事前 練習曲③の習熟、曲②の完成を目指す 420 分 事後 練習曲③、曲②のまとめを行う 420 分
第 10 回	自由曲、確認	事前 自由曲の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 11 回	自由曲、奏法を中心に	事前 自由曲の奏法について予習する 420 分 事後 自由曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 12 回	自由曲、表現の工夫	事前 自由曲の表現に取り組む 420 分 事後 自由曲の表現を更に身に付ける 420 分
第 13 回	自由曲、表現の掘り下げ	事前 自由曲について、全般的に確認する 420 分 事後 自由曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 14 回	自由曲、仕上げの演奏	事前 自由曲の仕上げを目指す 420 分 事後 自由曲の問題箇所を確認する 420 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期の取り組みの問題点を確認する 420 分 事後 後期に向けての課題に取り組む 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（管楽器）

各実技担当教員

科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画		
第 1 回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる 420 分 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 4 回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 5 回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③表現の工夫に取り組む 420 分 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける 420 分
第 6 回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 420 分 事後 練習曲⑤問題箇所を確認し是正に取り組む。曲③のまとめ 420 分
第 7 回	練習曲⑤定着、卒業試験曲、確認 1	事前 練習曲⑤の習熟。卒業試験曲の譜読みと準備に取り組む。 420 分 事後 練習曲⑤のまとめ、卒業試験曲の問題個所の是正に取り組む 420 分
第 8 回	卒業試験曲、確認 2	事前 引き続き、卒業試験曲の問題個所の是正に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し是正に取り組む 420 分
第 9 回	卒業試験曲の様式を学ぶ	事前 卒業試験曲の様式について予習する 420 分 事後 卒業試験曲の様式についてさらに理解する 420 分
第 10 回	卒業試験曲、奏法を中心に 1	事前 卒業試験曲の奏法について予習する 420 分 事後 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 11 回	卒業試験曲、奏法を中心に 2	事前 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分 事後 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 12 回	卒業試験曲、表現の工夫	事前 卒業試験曲の表現に取り組む 420 分 事後 卒業試験曲の表現を更に身に付ける 420 分
第 13 回	卒業試験曲、表現の掘り下げ	事前 卒業試験曲について、全般的に確認する 420 分 事後 卒業試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 14 回	卒業試験曲、仕上げの演奏	事前 卒業試験曲の仕上げを目指す 420 分 事後 卒業試験曲の問題箇所を確認する 420 分
第 15 回	4 年間のまとめ	事前 4 年間の取り組みを振り返る 420 分 事後 卒業後に向けて展望する 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：器楽コース／打楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	3 年次までに修得したものをふまえて総合的に学ぶ。

到達目標	各打楽器の基本奏法に立ち返り、卒業試験曲を検討する。
------	----------------------------

授業計画				
第 1 回	小太鼓の基本奏法とマリンバで音階を演奏。 小物楽器：タンブリンについて学ぶ。	事前	小太鼓とマリンバの基本奏法を練習しておく。	420 分
		事後	手の動かし方を復習する。	420 分
第 2 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 小物楽器：トライアングルについて学ぶ。	事前	小太鼓とマリンバの練習曲を用意しておく。	420 分
		事後	トライアングルの手の動きを復習する。	420 分
第 3 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 小物楽器：カステネットについて学ぶ。	事前	卒業試験の候補曲を探しておく。	420 分
		事後	カステネットの手の動きを復習する。	420 分
第 4 回	小太鼓で 2 つ打ちとロールを演奏。 大物楽器：太太鼓について学ぶ。	事前	さまざまな表情のロールを研究しておく。	420 分
		事後	太太鼓のレパートリーを聴いておく。	420 分
第 5 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 大物楽器：シンバルについて学ぶ。	事前	マリンバのマレットを追加しておく。	420 分
		事後	シンバルの合わせ方を研究しておく。	420 分
第 6 回	小太鼓、マリンバの練習曲を演奏。	事前	メトロノームを使って練習する。	420 分
		事後	スティックの動きとマレットの動きの違いを復習する。	420 分
第 7 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールを演奏。 大物楽器：タムタムについて学ぶ。	事前	基本奏法を練習しておく。	420 分
		事後	音の長さと左手の関係を復習しておく。	420 分
第 8 回	ティンパニの練習曲を演奏。	事前	ティンパニを予め調整しておく。	420 分
		事後	腕の動きを復習しておく。	420 分
第 9 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 卒業試験曲の選定について相談する。	事前	試験曲を図書館を活用して探す。	420 分
		事後	楽曲の規模と形態を検討しておく。	420 分
第 10 回	ヴィヴラフォンの練習曲を演奏。	事前	ヴィヴラフォンのマレットを用意しておく。	420 分
		事後	手順とペダリングを復習しておく。	420 分
第 11 回	小太鼓で 2 つ打ちとマリンバの練習曲を演奏。 ブロッケンシュピールについて学ぶ。	事前	ティンパニのマレットを追加しておく。	420 分
		事後	マレットの扱いを復習する。	420 分
第 12 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 シロフォンについて学ぶ。	事前	シロフォンのマレットを用意しておく。	420 分
		事後	マリンバとの打ち方の共通点と違いを確認する。	420 分
第 13 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 卒業試験曲の候補を絞る。	事前	基本奏法の練習をしておく。	420 分
		事後	伴奏者の選定をする。	420 分
第 14 回	小太鼓、マリンバの練習曲を演奏。 チューブラーベルについて学ぶ。	事前	チューブラーベルを清掃しておく。	420 分
		事後	手順など復習しておく。	420 分
第 15 回	小太鼓、ティンパニの練習曲を演奏。	事前	メトロノームを使って練習する。	420 分
		事後	卒業試験曲の楽譜を探しておく。	420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスをを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。
（参照資料）

テキスト N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	□	□	□	☒	□	□	□	□	☒	☒	☒	☒	□	□

専門実技Ⅳ-2（打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND404

対象コース／専門／学年：器楽コース／打楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	各打楽器の基本奏法を演奏に生かす体験をする。

到達目標 4 年間の集大成である卒業試験を成功させる。

授業計画				
第 1 回	小太鼓の 1 つ打ちの分解練習とマリンバで音階を演奏。 卒業試験曲を決定する。	事前	試験曲の候補を絞っておく。	420 分
		事後	卒業試験曲の楽譜を購入しておく。	420 分
第 2 回	小太鼓で 2 つ打ちとロールを演奏。 試験曲の楽譜作成とセッティングを検討する。	事前	基本奏法を練習しておく。	420 分
		事後	試験曲の楽譜を完成させる。	420 分
第 3 回	マリンバの練習曲と音階を演奏。 楽器の清掃と調整について学ぶ。	事前	試験曲の譜読みを進める。	420 分
		事後	練習室の楽器を整頓しておく。	420 分
第 4 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 試験曲の研究：フレーズ分けと譜読みを進める。	事前	基本奏法をメトロノームを使って練習する。	420 分
		事後	試験曲で使う楽器を選んでおく。	420 分
第 5 回	小太鼓での 1 つ打ちの分解練習とロールを演奏。 試験曲の譜読みと手順を決定する。	事前	選んだ楽器とチューニング、清掃をする。	420 分
		事後	試験曲の伴奏者を探す。	420 分
第 6 回	試験曲のフレーズやリズムの演奏法を解説する。	事前	フレーズ分けをしておく。	420 分
		事後	フレーズの取り方を確認する。	420 分
第 7 回	試験曲の譜読み。	事前	試験曲の作曲家や曲について調べておく。	420 分
		事後	伴奏者と試験曲を合わせておく。	420 分
第 8 回	セッティングと楽譜再確認。	事前	セッティング表を完成させる。	420 分
		事後	セッティング表に直しを加え、導線など再確認する。	420 分
第 9 回	試験曲を伴奏者と演奏する。	事前	腕の動きを再確認する。	420 分
		事後	伴奏者とのバランスと位置を検討する。	420 分
第 10 回	セッティングを再確認する。 伴奏者とのバランスを調整する。	事前	伴奏者との練習方法を考える。	420 分
		事後	フレーズの再検討できるところを探す。	420 分
第 11 回	卒業試験曲を通して演奏する。	事前	出来ないところをゆっくりなテンポでさらしておく。	420 分
		事後	クライマックスの表現を検討しておく。	420 分
第 12 回	試験曲を試験会場に近い会場で演奏。	事前	演奏の録音を準備しておく。	420 分
		事後	会場の響きを録音を聴いて確認する。	420 分
第 13 回	試験曲の通し練習。	事前	曲を止めずに通し、問題点を出しておく。	420 分
		事後	録音を聴いて演奏のコンセプトが表現できているか確認する。	420 分
第 14 回	試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。	事前	改めて譜読みを行い、全体的に復習しておく。	420 分
		事後	練習方法を研究しておく。	420 分
第 15 回	卒業試験曲の仕上げ。	事前	伴奏者とバランスなど再確認しておく。	420 分
		事後	本番の演奏をシミュレーションしておく。	420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。
(参照資料)

テキスト N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	□	□	□	☒	□	□	□	□	☒	☒	☒	☒	□	□

専門実技Ⅳ-1（オルガン・古楽）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3 年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）
------	---

第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 学内演奏会、専門実技 III-2 の試験結果をふりかえっておく。	300 分
第 2 回	前期試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	300 分
		事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 3 回	前期試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 4 回	前期試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 5 回	前期試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 6 回	前期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 7 回	前期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。	300 分
		事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	300 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 12 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 1（技術的な課題）	事前 1 時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 13 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 2（表現力）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 14 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 3（総合）	事前 録音の準備をする。	300 分
		事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをとに、自分の理想に近づける。	300 分
		事後 録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	300 分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（オルガン・古楽）

各実技担当教員

科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3 年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）
------	---

第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 前期試験の反省。改善方法を探る。	300 分
		事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	300 分
第 2 回	卒業試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 3 回	卒業試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 4 回	卒業試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 5 回	卒業試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 6 回	卒業試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 7 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 1（技術的な課題）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 8 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 2（より高度な技術的課題）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 9 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 3（表現力）	事前 1 時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 10 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 4（総合）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 11 回	卒業試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 録音の準備をする。	300 分
		事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300 分
第 12 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。	300 分
		事後 録音したものと、自分の想定ギャップを埋める。	300 分
第 13 回	試験結果を踏まえ、今後の方向について	事前 試験結果の自己評価を作成	300 分
		事後 未達成の事項の整理	300 分
第 14 回	定期的なレッスなくなかったときの練習方法について	事前 未達成の事項への取り組み方を考えておく。	300 分
		事後 アドヴァイスをもとに今後の勉強方法を作成する。	300 分
第 15 回	練習の時間計画の立て方	事前 未達成の事項への取り組み方を考えておく。	300 分
		事後 アドヴァイスをもとに今後の勉強方法を作成する。	300 分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（声楽）

各実技担当教員

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：声楽コース／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。 最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める
------	---

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	3 年次の学修を確認し学習計画を練る	210 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する(前期分)	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（前期分）	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（前期分）	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる（前期分）	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（前期分）	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする（前期分）	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる（前期分）	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 15 回	試演会の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の是正をはかる	210 分

フィードバック 前期試演会後に個人面談の形で振り返り、成果、及び問題点を洗い出す。

成績評価 実技試験による評価

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（声楽）

各実技担当教員

科目コード：IND404

対象コース／専門／学年：声楽コース／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。 最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける		
第 1 回	前期の成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 事後	前期の学修を確認し学習計画を練る レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究①	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 事後	自分の声に合うオペラのレパートリーを考える レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前 事後	事前にピアニストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする（後期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 15 回	卒業試験の予行演習をする	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分

フィードバック 卒業試験後に個人面談の形で振り返り、4 年間の成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 卒業演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発憤力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

各実技担当教員 科目コード：IND403

形態：実技

到達目標	プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。
------	-----------------------------------

第1回	実技演習(1) 年間の目標、学習計画を立てる	事前	年間の目標と、学習計画案を考える	630分
		事後	目標と学習計画を確認し、必要な準備をする	630分
第2回	実技演習(2) リサイタルプログラムを練る	事前	これまでのレポートリを確認し、今後のプログラムを考える	630分
		事後	リサイタルプログラムをつくる	630分
第3回	実技演習(3) 自由曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	事前	時代背景、様式を考察し、読譜、練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第4回	実技演習(4) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	事前	楽譜を細部まで読み込み、練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第5回	実技演習(5) 自由曲を学ぶ(3) 連指法やベダリングの確認	事前	連指やベダリングに留意して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第6回	実技演習(6) 自由曲を学ぶ(4) 奏法を中心に	事前	音色、タッチ、アーティキュレーションに留意して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第7回	実技演習(7) 自由曲を学ぶ(5) ポリフォニーについて	事前	ポリフォニーの要素を考慮して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第8回	実技演習(8) 自由曲を学ぶ(6) 問題点の解決、練習方法について	事前	技術的に難しいところを確認し、工夫して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第9回	実技演習(9) 自由曲を学ぶ(7) 和声感について	事前	調性や和声に留意して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第10回	実技演習(10) 自由曲を学ぶ(8) 強弱法について	事前	強弱や表現記号に留意して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第11回	実技演習(11) 自由曲を学ぶ(9) 様式感、曲の性格について	事前	曲の様式やキャラクターにふさわしい演奏を目指して練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第12回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(10) 表現を掘り下げる	事前	全体をまとめて、暗譜で練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第13回	実技演習(13) 各人の進路やコンクール等の相談	事前	前期までの進捗状況を確認し、今後の課題を考える	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第14回	実技演習(14) 協奏曲を学ぶ(1) 読譜、連指法の確認	事前	連指やベダリングに留意しながら読譜する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分
第15回	実技演習(15) 協奏曲を学ぶ(2) 形式、奏法について	事前	形式、奏法を考慮しながら練習する	630分
		事後	レッスン内容の復習	630分

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発奮力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

各実技担当教員

科目コード: IND404

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／4年次

到達目標 プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。

第1回	実技演習(1)	協奏曲を学ぶ(1)	表現法を中心に	事前	楽譜に書かれている表現記号に留意して練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第2回	実技演習(2)	協奏曲を学ぶ(2)	オーケストラパートの研究	事前	オーケストラパートを読譜し、ソロパートとの関わりを考察する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第3回	実技演習(3)	協奏曲を学ぶ(3)	アンサンブルを学ぶ	事前	ソリストとしてオーケストラとのアンサンブルを考慮して練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第4回	実技演習(4)	協奏曲を学ぶ(4)	奏法上の問題を解決する	事前	技術面で難しいところを確認し、対策を考える	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第5回	実技演習(5)	協奏曲を学ぶ(5)	表現力を高める	事前	ソリストとしての幅広い表現力を高めるための練習をする	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第6回	実技演習(6)	協奏曲を学ぶ(6)	2台ピアノで合わせる	事前	2台ピアノで合わせる練習をする	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第7回	実技演習(7)	協奏曲を学ぶ(7)	2台ピアノのバランス感覚を養う	事前	2台ピアノでオーケストラパートとの調和をふまえて練習をする	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第8回	実技演習(8)	協奏曲を学ぶ(8)	ソロパートの確認	事前	2台ピアノで合わせた上で生じた問題点について考察し、練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第9回	実技演習(9)	協奏曲を学ぶ(9)	全体の構成を考える	事前	全体をまとめて、暗譜で練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第10回	実技演習(10)	試験に向けてペース配分を考える		事前	全てのプログラムを確認し、練習の計画を立てる	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第11回	実技演習(11)	プログラム全体を通して演奏する		事前	暗譜の確認と、それぞれの曲の問題点と対策を考えて練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第12回	実技演習(12)	1か月前課題(1)	読譜の確認	事前	課題曲を読譜する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第13回	実技演習(13)	1か月前課題(2)	技術、表現の確認	事前	課題曲をより深めて練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第14回	実技演習(14)	自由曲・協奏曲の掘り下げ		事前	全体をまとめて、通して練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分
第15回	実技演習(15)	仕上げとまとめ		事前	これまでの注意点に留意しながら練習する	630分
				事後	レッスン内容の復習	630分

フィードバック 卒業試験の結果を多面的に評価し、演奏会への出演などに推薦してフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-1 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数 4 単位
概要	音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標	バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。 そして楽器を通した説得力のある表現ができる。
------	--

授業計画	半期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。
------	---

第 1 回	各個人の学習計画を立てる	事前 三年次の学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。	630 分
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	630 分
		事前 楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。	630 分
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題に対し、形式や和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
第 6 回	エチュード、曲 様式感を学ぶ	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	630 分
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 ピアノとの合わせを行っておく。	630 分
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。	630 分
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事後 反省と、次回の課題を確認する。	630 分
		事前 課題曲 A に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題曲 A に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題曲 A に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題曲 B に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題曲 B に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題曲 B に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
第 15 回	演奏上の問題点から課題を探る	事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
		事前 課題曲 A と課題曲 B を、暗譜で演奏できるように練習する。	630 分
		事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発想力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-2 (弦楽器)

各実技担当教員

科目コード： IND402

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数 4 単位
概要	音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標	バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。 そして楽器を通した説得力のある表現ができる。
------	--

授業計画	半期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。
------	---

第 1 回	課題曲 C ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 C に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 2 回	課題曲 C ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 C に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 3 回	課題曲 C ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 C に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 4 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 D に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 5 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 D に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 6 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 D に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 7 回	課題曲 E 近現代 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 E に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 8 回	課題曲 E 近現代 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 E に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 9 回	課題曲 E 近現代 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 E に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成	事前 問題点を意識し、各自の音楽的特徴を把握し、リサイタルプログラムの候補曲を考えておく。	630 分
		事後 選曲に対し、楽譜を緻密に読み込み、総譜からアプローチを試みる。	630 分
第 11 回	リサイタルプログラム 表現力を深める	事前 様式感からテンション感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 12 回	リサイタルプログラム 効果的な演奏について学ぶ	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 13 回	リサイタルプログラム ベース配分を学ぶ	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	630 分
		事後 試験曲目すべてを、続けて演奏できるよう、練習する。	630 分
第 14 回	リサイタルプログラム アンサンブルの問題点を解決	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	630 分
		事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	事前 暗譜の確認。	630 分
		事後 卒業演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	630 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	---

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において
---------	-----------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

演奏法

教授 山崎紫乃／准教授 干野宜大／特任教授 植田克己

科目コード：IND405

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	【山崎】ピアノのダンパーペダルの可能性について、様々な方面から考える。 【干野】楽譜に記された音楽的文法、表記を読み解きながら、様々な作品の時代様式と伝統を学び演奏できるように考えていく。

到達目標 時代様式や作曲家固有のスタイルを学ぶことにより、より深く楽譜を読み取る力を養い、演奏につなげていくことを目標とする。

授業計画		
第 1 回	【山崎】ピアノの歴史から見たダンパーペダル	事前 110 分 事後 170 分
第 2 回	【山崎】ピアノの構造から見たダンパーペダル	事前 110 分 事後 170 分
第 3 回	【山崎】作曲家の残したペダル記号とその概念	事前 110 分 事後 170 分
第 4 回	【干野】バロック、古典作品を題材に楽譜を読み解き基礎的な読解力を養う①	事前 110 分 事後 170 分
第 5 回	【干野】バロック、古典作品を題材に楽譜を読み解き基礎的な読解力を養う②	事前 110 分 事後 170 分
第 6 回	【干野】ショパンやリスト、シューマンなどのロマン派作品を題材に、さらなる応用と発想の拡大を試みる①	事前 110 分 事後 170 分
第 7 回	【干野】ショパンやリスト、シューマンなどのロマン派作品を題材に、さらなる応用と発想の拡大を試みる②	事前 110 分 事後 170 分
第 8 回	レッスン形式（植田克己特任教授）	事前 分 事後 分
第 9 回	レッスン形式（植田克己特任教授）	事前 分 事後 分
第 10 回	レッスン形式（植田克己特任教授）	事前 分 事後 分
第 11 回	レッスン形式（植田克己特任教授）	事前 分 事後 分
第 12 回	レッスン形式（外部講師）	事前 分 事後 分
第 13 回	レッスン形式（外部講師）	事前 分 事後 分
第 14 回	レッスン形式（外部講師）	事前 分 事後 分
第 15 回	レッスン形式（外部講師）	事前 分 事後 分

フィードバック 授業内でのレポートについて、他学生にも大変参考となるものは読み上げ、コメントする。
個人レッスン時、レポート内容を踏まえて対応できるものはする。

成績評価 複数教員による総合評価
授業への取り組み方、授業態度等による

テキスト

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☐	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☑	☐	☐

弦楽合奏Ⅳ-1

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 池田雄彦／
准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤三千代

科目コード： ENS405

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティに耳をひらくことが求められる。そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 弦楽合奏コンサートを開催。

第 1 回	弦楽合奏の目標と授業の進め方について	事前 昨年度の反省を踏まえ、個人的に課題を見つけておく 事後 学修計画を確認し、次回に必要な楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 2 回	課題曲Ⅰ（バロック） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅰ（バロック）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 3 回	課題曲Ⅰ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 4 回	課題曲Ⅰ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 バロック期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 5 回	課題曲Ⅰ 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。 事後 課題曲Ⅰの反省、および、次回課題曲Ⅱ（古典）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 6 回	課題曲Ⅱ（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅱ（古典）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 7 回	課題曲Ⅱ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 8 回	課題曲Ⅱ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 古典期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 9 回	課題曲Ⅱ 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。 事後 課題曲Ⅱの反省、および、次回課題曲Ⅲ（古典）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 10 回	課題曲Ⅲ（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅲ（古典）の音源を聴き、読譜をする。同じ古典期でも作曲家によって、スタイルが異なることを感じる。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 11 回	課題曲Ⅲ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 12 回	課題曲Ⅲ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 古典期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 13 回	課題曲Ⅲ 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。 事後 課題曲Ⅲの反省。	50 分 50 分
第 14 回	和声感や、ボーイングの付け方、奏法の選択など、アンサンブルをする上で、身につける必要のある基礎知識の確認	事前 アンサンブル法の文献を読み、アンサンブルを円滑に進めるためにどうすればよいか、個々に考えておく。 事後 アンサンブル法の再確認。および、次回課題曲（ロマン派）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 15 回	課題曲Ⅳ（ロマン派） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅳ（ロマン派）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
准教授 佐藤まどか（ship61@mail.uenogakuen.ac.jp）
教授 緒方恵（box-057@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 池田雄彦（grape0000053@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 櫻井茂（ssakurai@uenogakuen.ac.jp）
非常勤講師 須藤三千代（wind_60000158@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

弦楽合奏Ⅳ-2

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 池田雄彦／
准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤三千代

科目コード： ENS406

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティに耳をひらくことが求められる。
そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 弦楽合奏コンサートを開催。

第 1 回	課題曲Ⅳ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 2 回	課題曲Ⅳ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 ロマン派の音のイメージを再確認し、次の仕上げに向けて、練習する	50 分
第 3 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。	50 分
		事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
第 4 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。	50 分
		事後 課題曲Ⅳの反省、および、次回課題曲Ⅴ（近現代）の楽譜を準備する。	50 分
第 5 回	課題曲Ⅴ（近・現代） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅴ（近現代）の音源を聴き、読譜をする。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分
第 6 回	課題曲Ⅴ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 7 回	課題曲Ⅴ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 古典期の音のイメージを再確認し、次の仕上げに向けて、練習する	50 分
第 8 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。	50 分
		事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
第 9 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。	50 分
		事後 課題曲Ⅳの反省。	50 分
第 10 回	演奏会の準備練習 1	事前 課題曲Ⅰ、Ⅱの問題点を確認し、再度、練習しておく。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分
第 11 回	演奏会の準備練習 2	事前 課題曲Ⅲ、Ⅳの問題点を確認し、再度、練習しておく。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分
第 12 回	演奏会の準備練習 3	事前 課題曲Ⅴの問題点を確認し、再度、練習しておく。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分
第 13 回	演奏会に向けたリハーサルⅠ	事前 技術的に問題がある箇所を、個々に練習しておく。	50 分
		事後 ホールの響きを意識して、演奏できるよう、音色をイメージしておく。	50 分
第 14 回	演奏会に向けたリハーサルⅡ	事前 アインザッツの確認、リレーションの確認を各自行っておく。	50 分
		事後 立体的な表現につながるよう、曲のイメージを明確にしておく。	50 分
第 15 回	演奏会	事前 リハーサルに備え、並び方等、協力しながら準備する。	50 分
		事後 演奏会の反省と来年度の課題を確認する。	50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
准教授 佐藤まどか（ship61@mail.uenogakuen.ac.jp）
教授 緒方恵（box-057@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 池田雄彦（grape0000053@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 櫻井茂（ssakurai@uenogakuen.ac.jp）
非常勤講師 須藤三千代（wind_60000158@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽コース／クラリネット専門／4年次

形態：実習	単位数：1単位
概要	対象は大学4年次生クラリネット専攻生である。これまでの3年間で培ったアンサンブル力をさらに発展させることを目標とする。

到達目標 作品の構成を把握することを主眼とする。アンサンブルの各パートを通じて主に和声を感じ、フレーズを捉えることを目標とする。

授業計画 合奏の基礎を見直し、主に古典の作品に取り組む。その目的は和声と律動を体感することである。

第1回	バッハ／コラール集	事前 各パートのみならず全パートを把握しておく 事後 パートを入れ替え、響きの体感を実習しておく	30分 60分
第2回	バッハ／小フーガ ト短調	事前 すべてのパートに目を通しておく 事後 パートを入れ替え、実習しておく	40分 60分
第3回	モーツァルト／ディベルティメント 第1番より1, 2, 3	事前 オリジナルのバセットトリオの響きを音源などを通じておく 事後 各声部の役割りを復習しておく	30分 30分
第4回	モーツァルト／ディベルティメント 第1番より4, 5 同第3番より1, 2	事前 各パートを練習しておく 事後 相互のパートの役割を把握する	30分 30分
第5回	モーツァルト／ディベルティメント 第3番より3, 4, 5	事前 各声部を練習しておく 事後 ディベルティメントの音楽としての特性を把握する	30分 30分
第6回	演奏会実習 教材はモーツァルト／ディベルティメント第4番（全曲）	事前 第5回事後を生かすべく各人準備する 事後 ディベルティメントの音楽性を表出できていたか反省する	30分 60分
第7回	モーツァルト／魔笛（クラリネットトリオ版）	事前 オリジナルのオペラの演奏を聴いておく 事後 ハルモニウムジークの特性を生かしていたか反省する	30分 60分
第8回	モーツァルト／アダージオ	事前 各人が各声部を把握しておく 事後 遅いテンポを守れていたか復習する	30分 30分
第9回	スベアース／ブラチナム・ブロムナード	事前 最適なテンポを探り出しておく 事後 曲の軽快さが出ていたか省みる	15分 30分
第10回	演奏会実習 モーツァルト／魔笛	事前 第7回の反省点をまとめておく 事後 ハルモニウムジークとして演奏効果があったかを省みる	30分 30分
第11回	ゴードン・ジェイコブ／スケルツェット、パパーヌとゴバック	事前 各パートをスコアを通して把握する 事後 曲の魅力を表せたか反省する	30分 15分
第12回	ノーマン・ハイム／セレブレイション組曲	事前 スコアをチェックし、各曲の適性テンポを探しておく 事後 各曲の特徴が表わせられるよう練習しておく	15分 40分
第13回	トンブソン／都市の情景	事前 スイングのリズムを体得しておく 事後 拍節を強く意識したうえでの演奏表現を心がける	30分 60分
第14回	グランドマン／カプリス	事前 各人が曲の表現方法を探しておく 事後 曲の特徴を捉えた演奏をさらに追及する	30分 40分
第15回	前期のまとめ<演奏会実習>	事前 学生が自発的に前期の学習したものをから選び一つのコンサートを行う 事後 各人が反省し、後期に繋げる材料とする	60分 30分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへの取り組みを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽コース／クラリネット専門／4 年次／

形態：実習

単位数：1 単位

概要 後期授業としては、管楽器の魅力を伝える近・現代作品を取り上げる。

到達目標 和声、構成的に複雑な作品に取り組むことによって、より自発的な音楽の発露を求める。
また、1 人 1 人がアンサンブル実践上のリーダーとなれるよう指導していく。

授業計画 毎回アンサンブルリーダーを選出し、まとめあげる実習を行なう。

第 1 回	デボルト／フランス組曲より 1, 2, 3	事前 各人がよく譜読みをしておく 事後 曲の性格が浮き彫りになるように演奏する	30 分 30 分
第 2 回	デボルト／フランス組曲より 4, 5, 6	事前 パート別に精読しておく 事後 リズムに特に気を付けて演奏する	30 分 40 分
第 3 回	デボルト／イタリア組曲より 1, 2	事前 スコアの中で個々のパートの役割を把握しておく 事後 表題が表わすところが出来ているかを確認する	40 分 40 分
第 4 回	デボルト／イタリア組曲より 3, 4	事前 曲の特徴をよく捉えておく 事後 複雑なリズム体系を再確認する	40 分 40 分
第 5 回	ダマーズ／4 対 4 より 1, 2	事前 技術的に難しい箇所を事前に学習しておく 事後 ハーモニーの美しさを再確認する	40 分 60 分
第 6 回	ダマーズ／4 対 4 より 3, 4	事前 作品の特徴であるリズムを確認しておく 事後 ハーモニーとリズムの両立を追求する	60 分 50 分
第 7 回	ドボルザーク／スラブ舞曲	事前 オーケストラの演奏を聴いておく 事後 リズムとフレーズをよく表現できるよう努める	60 分 30 分
第 8 回	イエッテル／主題と変奏より テーマと第 1～5 変奏	事前 各パートをよく読み込んでおく 事後 構成が難しい作品なので再確認する	30 分 60 分
第 9 回	イエッテル／主題と変奏より テーマと第 6～10 変奏	事前 各パートをよく練習しておく 事後 リズムが複雑なので再確認する	60 分 60 分
第 10 回	カルル／プレリュードとダンス	事前 拍節に注意しながら譜面に当たる 事後 拍節重視の演奏を心掛ける	60 分 60 分
第 11 回	ドンディエヌ／小田園組曲	事前 フランス作品のエスプリを研究しておく 事後 作品の特徴を表わせられているか確認する	60 分 60 分
第 12 回	ウール／ディベルティメントより 1	事前 スコアと照らし合わせてパートを読んでおく 事後 ハーモニー重視で演奏	30 分 30 分
第 13 回	ウール／ディベルティメントより 2	事前 スコアと照らし合わせ各パートの役割を把握しておく 事後 ハーモニー重視で演奏	30 分 30 分
第 14 回	ウール／ディベルティメントより 3	事前 個々人がパートの役割を把握しておく 事後 曲の構成を重視した演奏になっているか再確認する	30 分 40 分
第 15 回	演奏会実習	事前 1 年間のまとめとして学習した作品から選び、プログラムを作成する 事後 各曲間でコントラストのついた演奏が出来たかを確認	60 分 60 分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへの取り組みを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐		☐	☒	☒	☐	☐	☒

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／サクソフォン専門／4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	サクソフォンにとってもっとも一般的な演奏形態である、ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの四種類のサクソフォンを使用したサクソフォン四重奏曲を中心に学習してゆく。

到達目標

それぞれの楽器の奏法上の特質を理解し、実際の演奏に反映させる技術を養うと同時に、他者の音楽を聴きながら四重奏の中での自身の役割を認識し、自身の音楽を他者の音楽に同期させる能力を養うことを目標とする。

授業計画

履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

第 1 回	音楽とは何か（変化する要素について）	事前 変化する要素とは何か、自分なりに項目を挙げ考えておく 事後 各要素と音楽の関係を具体的に考察する	50 分 50 分
第 2 回	エントロピーと音楽の関係	事前 一般的にエントロピーとはどのようなことか予習しておく 事後 エントロピーと音楽との関連性について考察を深める	50 分 50 分
第 3 回	サクソフォンにおける室内楽の特徴	事前 室内楽におけるサクソフォンについて予習しておく 事後 実際の録音などを聴き実感する	50 分 50 分
第 4 回	奏法概論 1 アンブシュア（音を生み出す仕組み）	事前 アンブシュアとは何か、自分なり考察する 事後 授業の内容を自分に応用する	30 分 70 分
第 5 回	奏法概論 2 タングینگ（発音とは何か）	事前 タングینگとは何か自分なりに考察する 事後 タングینگと発音の関係を明確にする	30 分 70 分
第 6 回	奏法概論 3 音量のコントロール（響きと力）	事前 音量とは、響きとは何かを考察しておく 事後 音量、響き、力の関係性を明確にする	30 分 70 分
第 7 回	奏法概論 4 ヴィブラート（方法と用い方）	事前 ヴィブラートのかけ方を自分なりに説明できるようにしておく 事後 ヴィブラートのかけ方とその用い方を習得する	30 分 70 分
第 8 回	奏法概論 5 ブレス	事前 呼吸法について予習しておくこと 事後 腹式呼吸を使えるように訓練すること	30 分 70 分
第 9 回	奏法概論 6 運指	事前 自分の指の使い方はどのようなになっているか観察しておくこと 事後 効率的に指を使う訓練をすること	30 分 70 分
第 10 回	奏法概論 7 チューニング	事前 チューニングは何のために行うのか、考察しておくこと 事後 チューニングの訓練をすること	30 分 70 分
第 11 回	奏法概論 8 集中力の認識とその移動について	事前 演奏に必要な集中力とはどのようなことか考察しておくこと 事後 効率的に集中力を移動させる訓練をすること	30 分 70 分
第 12 回	演奏に必要な道具の選び方（マウスピース、リード、ストラップ等）	事前 自分の道具には何があるか確認しておくこと 事後 道具を選び、メンテナンスを行うこと	50 分 50 分
第 13 回	ソプラノ・サクソフォンの奏法について	事前 ソプラノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 ソプラノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分 50 分
第 14 回	アルト・サクソフォンの奏法について	事前 アルト・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 アルト・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分 50 分
第 15 回	テナー・サクソフォンの奏法について	事前 テナー・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 テナー・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分 50 分

フィードバック

各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価

最終的に体得した能力（50％） 普段の授業での取り組み方（50％）

テキスト

La veillee de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー

E-mail: apple_0000435@mail.uenogakuen.ac.jp

備考

グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／サクソフォン専門／4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 演奏会での演目を踏まえ、様々な編成での演奏法を学んで行く。特に履修者全員でのアンサンブルにも時間を使う。

到達目標 より多人数での演奏技術を学ぶ。また、コンサートで聴衆を納得させることができる演奏を目指す。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

第 1 回	バリトン・サクソフォンの奏法について	事前	バリトン・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	バリトン・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 2 回	ソプラニーノ・サクソフォンの奏法について	事前	ソプラニーノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	ソプラニーノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 3 回	バス・サクソフォンの奏法について	事前	バス・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	バス・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 4 回	音程の認識とコントロール	事前	音程とは何かを予習しておくこと	30 分
		事後	音程の聞き方とコントロールの仕方を訓練すること	70 分
第 5 回	演奏における基本的ルール 1（音価の違いによる音量のコントロール）	事前	音価による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30 分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみること	70 分
第 6 回	演奏における基本的ルール 2（音の高低の違いによる音量のコントロール）	事前	音の高低による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30 分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみること	70 分
第 7 回	主旋律と対旋律（一般論と例外について）	事前	主旋律と対旋律について調べておくこと	30 分
		事後	実際に意識しながら実践すること	70 分
第 8 回	演奏における自我と無我の考察（感覚の置換）	事前	演奏時における集中力とは何を指すか考えておくこと	30 分
		事後	授業をふまえ、集中力を動かす訓練すること	70 分
第 9 回	演奏行為とは何か	事前	演奏行為とは何かを考えてくること	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 10 回	バランスの認識とコントロール	事前	演奏表現におけるバランスとは何を指すか考えておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 11 回	ラージ（多人数）アンサンブルの実践 1（音程のコントロール）	事前	楽譜通りの音程で演奏できるように練習をしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 12 回	ラージアンサンブルの実践 2（パートごとの特徴について）	事前	楽譜通りに演奏できるように各パートごとに練習をしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 13 回	ラージアンサンブルの実践 3（バランスのコントロール）	事前	曲の場面ごとのバランスをイメージしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 14 回	コンサートのプログラミング	事前	過去のコンサートのプログラムを調べておくこと	30 分
		事後	実際にプログラムを考えること	70 分
第 15 回	サクソフォンの室内楽指導法	事前	自分なりに指導方法を考えておくこと	50 分
		事後	授業をふまえて実践してみること	50 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力（50％） 普段の授業での取り組み方（50％）

テキスト La veillee de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail: apple_0000435@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

管楽合奏Ⅳ-1(金管)

非常勤講師 今込治／非常勤講師 萩原顕彰／非常勤講師 本間雅智

科目コード： ENS407

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／金管楽器専門／4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。実際の演奏に必要な純正律や和声などの理解を深められるよう、理論的な解説を行い、個人では出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。

到達目標	合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。
------	---

授業計画	第 1～2 回では純正律を知り、ハーモニーの基本を学ぶ。第 3～10 回では二奏曲～四声コーラル等（Da oane Zumma、コーラル名曲集、J.S.Bach:22 のコーラル集）を教材にしてハーモニーの成立を実践し、音程感覚、バランス感覚を養う。第 10 回からは三重奏～十重奏の楽曲に取り組む予定。その他、オケストラ曲の中から、金管セクションとして知っておきたい部分、体験しておきたい部分を抜粋して取り上げ、オケストラ、アンサンブル等での合奏の基本を演習していく。
------	---

第 1 回	オリエンテーション、コピー譜の製本法の学習、及び純正律ハーモニーの理解。	事前 自己紹介の内容を考えておく。	20 分
		事後 配られた純正律表を学習しておく。Bach のコーラル譜を製本する。	80 分
第 2 回	ハーモニーの基本である長 3 度、短 3 度の合わせ方。Da oane Summà No.37 を教材に、和音感覚を実習。	事前 純正律表で長 3 度、短 3 度のプラス、マイナスのセント値を理解しておく。	50 分
		事後 No.37 を学生同士で合わせる練習をしてみること。	50 分
第 3 回	J.S.Bach：22 のコーラル集を No.1 からスタート。ハーモニー上のキーとなる音の見極めと、音程の取り方を学ぶ。	事前 コーラル集 No.1 のハーモニー上のキーとなる音をチェックしておくこと。	50 分
		事後 No.1 をパートを替えて他の学生ともハーモニーをトレーニングしてみる。	50 分
第 4 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.2,No.3。ハーモニーを演習。	事前 No.2,No.3 を練習しておく。	50 分
		事後 No.2,No.3 をパートを替えてもハーモニーが成立するかを確かめる。	50 分
第 5 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.4,No.5。ハーモニーを演習。	事前 No.4,No.5 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後 No.4,No.5 をパートを替えて練習をしてみること。	50 分
第 6 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No6,No.7。ハーモニーを演習。	事前 No6,No.7 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後 No6,No.7 のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認すること。	50 分
第 7 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.8,No.9。ハーモニーを演習。	事前 No.8,No.9 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後 No.8,No.9 のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認する。	50 分
第 8 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.10,No.11。ハーモニーを演習。	事前 No.10,No.11 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後 No.10,No.11 のパートを替えて、ハーモニー練習をすること。	50 分
第 9 回	コーラル名曲集 inC 譜を教材とした移調読みの対応を学ぶ。	事前 B 管、F 管でも inC 譜が読めるように練習しておく。	50 分
		事後 パートを替えても演奏が出来るかを確認する。	50 分
第 10 回	コーラル名曲集及び Bach：「22 のコーラル集」、No.12。ハーモニー及び音楽の進行(起承転結)を学ぶ。	事前 ハーモニーと共に、音楽の成り立ちを考えておく。	50 分
		事後 パートを替えてもやってみておくこと。	50 分
第 11 回	コーラル名曲集及び Bach：「22 のコーラル集」、No.13。ハーモニー及び音楽進行を学ぶ。	事前 ハーモニーのチェックと音楽進行を考えておく。	50 分
		事後 パートを替えてもやってみる。	50 分
第 12 回	コーラル名曲集及び Bach：「22 のコーラル集」、No.14。ハーモニー及び和音に対する感性を学ぶ取る。	事前 移調読み、音楽進行など、トータルでの演奏練習をしておく。	50 分
		事後 パートを替えてもやってみる。	50 分
第 13 回	授業内発表会曲目の練習開始	事前 授業内発表会曲目の音源を探し、聴いておく。	50 分
		事後 自分のパートをよく練習しておく。	50 分
第 14 回	授業内発表会曲目の練習	事前 授業内発表会曲目での自分のパートの役割などを考え、演奏に備える。	50 分
		事後 楽曲のハーモニー構成から自分のパートの音程の取り方をチェック。	50 分
第 15 回	授業内発表会	事前 自分のパート以外も実際に演奏してみたり、ピアノで弾いてみたりしておく。	50 分
		事後 ハーモニー的に、しっかりとしない点などチェックする。	50 分

フィードバック	学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。
---------	--------------------------------------

成績評価	授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。
------	------------------------

テキスト	J. S. BACH 『22 のコーラル集』 他
------	--------------------------

オフィスアワー	授業の前後に受け付ける。
---------	--------------

アクティブ・ラーニング	授業内発表会について、選曲・手段・発表の方法を、ディスカッションにより主体的に導き出し、実践させる。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／金管楽器専門／4 年次	
形態：実習	単位数：1 単位
概要	金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。実際の演奏に必要な純正律や和声などの理解を深められるよう、理論的な解説を行い、個人では出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。

到達目標	合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。
------	---

授業計画	前期に習得した純正律による音程の取り方を基に、第1回から第3回はボルカを題材に音楽の楽しさを体感する。第4回から第8回ではG.F.ヘンデルの楽曲を取り上げ、「アリア」ではテクニカルなフレーズの中での音程感覚を、「メサイア」ではバランス感覚を養い、第9回と第10回の「アヴェ・ヴェルム・コルプス」では歌詞の内容と合わせた音楽表現を考察する。第11回以降は、学生達による主体的な学修を促し、授業内発表会の実施を計画、実行させる。			
第1回	J.シュトラウスを中心にワルツ、ボルカなどのウィーン情緒を知る。	事前	過去のニューイヤー・コンサートなどを聴いておく。	50分
		事後	ニューイヤー・コンサートに出演した多くの名指揮者たちへの知識も深めたい。	50分
第2回	J.シュトラウス：「ピチカート・ボルカ」の練習と仕上げ。	事前	ウィナーワルツ、ボルカなどを聴いておく。	50分
		事後	演奏した物と、ウィーンフィルなどの演奏とを比較してみる。	50分
第3回	J.シュトラウス：「アンネン・ボルカ」の練習と仕上げ。	事前	譜読みをしておく。	50分
		事後	ウィーン情緒とは何か...を考える。	50分
第4回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏）の譜読み。 Bach：22のコーラル、No.15.	事前	オリジナル曲（室内合奏曲）を聴いておく。	50分
		事後	難曲であるので、練習を重ねる。	50分
第5回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏）の練習。 Bach：22のコーラル集、No.16.	事前	更に練習を進めておく。	50分
		事後	エムパイア・プラスの演奏を聴いておく。	50分
第6回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏）の演奏発表。 Bach：22のコーラル集、No.17. 五重奏ごとの演奏発表。	事前	軽やかなタッチの演奏を目指して練習をする。	50分
		事後	反省点の練習をすること。	50分
第7回	G.F.ヘンデル：「メサイア」より合唱曲の練習。 Bach：22のコーラル集、No.18.	事前	練習をしておくこと。オリジナル曲（合唱曲）を聴いておく。	50分
		事後	練習時の問題点を探り、修正をする。	50分
第8回	G.F.ヘンデル：「メサイア」より合唱曲の演奏発表。 Bach：22のコーラル集、No.19.	事前	テクニカルな問題点の改善に努める。	50分
		事後	オリジナル曲を聴き直すこと。	50分
第9回	W.A.モーツァルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の練習。 Bach：22のコーラル集、No.20.	事前	オリジナルの演奏を聴いておく。歌詞の意味を調べておく。	50分
		事後	曲の意味を表現できたか、改めてオリジナル曲を聴き直す。	50分
第10回	W.A.モーツァルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の演奏発表。 Bach：22のコーラル集、No.21.	事前	コード進行に着目してより深く解析する。	50分
		事後	F.リスト、P.チャイコフスキーなどによる編曲作品にも触れる。	50分
第11回	後期授業内発表会曲目の選曲と練習開始 Bach：22のコーラル集、No.22.	事前	授業内発表会で演奏する曲目案を作る。	50分
		事後	自分のパートをよく練習する。	50分
第12回	後期授業内発表会曲目の練習	事前	テクニカルな問題点を解決する。	50分
		事後	改善すべき点を確認する。	50分
第13回	後期授業内発表会	事前	演奏だけでなく、心や体の準備をする。	50分
		事後	今後の課題を確認する。	50分
第14回	クリスマス・キャロル集。	事前	キャロル、コーラル共に練習しておくこと。	50分
		事後	純正律表を今一度見直し、授業の理解を確認する。	50分
第15回	ペーパーテスト及び演奏テスト。	事前	試験に向けての準備をする。	50分
		事後	一年間を振り返り、反省点を基に、次年度への課題を明確にする。	50分

フィードバック	学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。
---------	--------------------------------------

成績評価	授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。
------	------------------------

テキスト	J. S. BACH 『22 のコラール集』 他
------	--------------------------

オフィスアワー	授業の前後に受け付ける。
---------	--------------

アクティブ・ラーニング	授業内発表会について、選曲・手段・発表の方法を、ディスカッションにより主体的に導き出し、実践させる。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力									意欲・経験・多様性						
知識・技能・理解	知識・技能の活用														
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバル視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

打楽器合奏Ⅳ-1

客員教授 岡田全弘

科目コード： ENS409

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／打楽器専門／4 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏ⅠおよびⅡにおいては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏Ⅳでは、Ⅲを踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドバイスを与え時間をかけて取り組む。

到達目標 トリオやデュエットのような最少人数の作品から初めて、他のメンバーに演奏でタイミングやテンポを正しく伝える方法を会得する。

授業計画				
第 1 回	小太鼓によるデュエットの曲を演奏。	事前	Modern School for Snare Drum から練習曲をさらしておく。	50 分
		事後	練習曲の構造を理解し復習する。	50 分
第 2 回	マリンバによるデュエットを演奏。	事前	Modern School for Xylophone and Marimba から Bach をさらしておく。	50 分
		事後	練習曲の構造を理解し復習する。	50 分
第 3 回	デュエットの仕上げる演奏。	事前	本番のつもりで練習しておく。	50 分
		事後	録音し聞き直す。	50 分
第 4 回	オーケストラの授業で取り上げられる作品の打楽器パートを演奏。	事前	同時に演奏するメロディがどの楽器なのか確認しておく。	50 分
		事後	リズムの演奏法を確認しておく。	50 分
第 5 回	さまざまな打楽器を使うトリオ作品を演奏。 譜読み、フレーズの取り方を確認する。	事前	楽譜を準備しスコアを読み込んでおく。	50 分
		事後	3 人での練習方法を検討する。	50 分
第 6 回	楽器のチューニングとセッティングを確認する。 手順の確認。	事前	チューニングキーなど用意する。	50 分
		事後	3 人で練習方法を検討する。	50 分
第 7 回	テンポやダイナミックスの違いによるリズムや奏法の違いを解説。 トリオの仕上げる演奏。	事前	技術的に難しい部分を取り出しておく。	50 分
		事後	手の動かし方について再検討する。	50 分
第 8 回	オーケストラ・スタディ。 授業で取り上げられる曲を主に演奏する。	事前	オーケストラの授業での問題点をはっきりさせておく。	50 分
		事後	次の授業のシュミレーションをしておく。	50 分
第 9 回	打楽器のカルテットを演奏。	事前	楽譜に工夫がでないかを検討しておく。	50 分
		事後	練習方法の検討をする。	50 分
第 10 回	カルテットの譜読み。 楽器の調整とセッティングを解説。	事前	楽器の調整、セッティングを考えておく。	50 分
		事後	復習と 4 人での練習方法を検討する。	50 分
第 11 回	メロディラインを取り出して演奏。 ベースラインを取り出して演奏。構造を分解して理解を深める。	事前	構造を 4 人で理解しておく。	50 分
		事後	4 人での練習方法を検討する。	50 分
第 12 回	オーケストラ・スタディ。 セッティングを決める。	事前	セッティングを考えておく。	50 分
		事後	オーケストラの授業予定を確認しておく。	50 分
第 13 回	マリンバのカルテットの譜読み。	事前	楽譜の作成。	50 分
		事後	4 人で意見交換をする。	50 分
第 14 回	個人練習と分奏について解説。	事前	メトロノームを使って練習する。	50 分
		事後	練習方法を検討する。	50 分
第 15 回	バランスについて解説する。	事前	メロディラインの推移を確認しておく。	50 分
		事後	テンポの出し方について確認。	50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後や後になって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 授業への取り組みによる。

テキスト (参照資料)
A.Cirone Four by Four
Per Andreasson Tinplay
Ruediger Pawassar Sculpture in Wood
P.Creston Ceremonial
A.Jolivet Ceremonial
F.Dupin Courtes pieces Album No.5
C.Chavez Toccata
Thomas Gauger Gainsborough
A.Jolivet Flute Concerto No.2

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

打楽器合奏Ⅳ-2

客員教授 岡田全弘

科目コード： ENS410

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／打楽器専門／4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏ⅠおよびⅡにおいては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏Ⅳでは、Ⅲを踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドバイスを与え時間をかけて取り組む。

到達目標 前期よりも大きな編成の作品に取組み、他のメンバーとどのように議論し、どのような練習を重ねて本番を迎えるのかを学ぶ。

授業計画		
第 1 回	マリンバのカルテットの仕上げる演奏。	事前 録音して研究しておく。 事後 セッティング表を書き反省点を出しておく。 50 分 50 分
第 2 回	オーケストラ・スタディ。 大太鼓とシンバルのバランスについて解説。	事前 楽器の選定をしておく。 50 分 事後 指揮者の見方について確認。 50 分
第 3 回	オーケストラ・スタディ。 その他の小物楽器について解説。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 楽器の特性について確認しておく。 50 分
第 4 回	任意の編成のアンサンブル曲を譜読み。	事前 楽譜を作成しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 5 回	技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 メトロノームを使って練習する。 50 分 事後 練習方法を検討する。 50 分
第 6 回	任意の編成のアンサンブル曲の仕上げ。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 反省点を出しておく。 50 分
第 7 回	オーケストラ・スタディ。 指揮の読み方について解説。	事前 作品をよく聞いておく。 50 分 事後 反応の仕方について再確認。 50 分
第 8 回	ティンパニの調整について解説。	事前 チューニングをしておく。 50 分 事後 他の楽器の動きを再確認。 50 分
第 9 回	デュエットの作品を演奏。	事前 曲の構造を理解しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 10 回	別の組でデュエットの作品を演奏。	事前 構造とクライマックスの設定。 50 分 事後 メトロノームを使って練習する。 50 分
第 11 回	デュエットの作品の仕上げる演奏。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 伝えたいところを明確にしておく。 50 分
第 12 回	別の組、デュエットの作品の仕上げる演奏	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 メロディラインの推移を確認しておく。 50 分
第 13 回	オーケストラ・スタディ。聞こえる音の出し方について解説。	事前 聞こえる音と聞こえない音について検討。 50 分 事後 アンサンブルの根幹について再検討。 50 分
第 14 回	ウィンドアンサンブルの曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 バランスを再検討する。 50 分
第 15 回	任意の編成のアンサンブル曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 反省点など整理。 50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後や後になって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 授業への取り組みによる。

テキスト	(参照資料) A.Cirone Four by Four Per Andreasson Tinplay Ruediger Pawassar Sculpture in Wood P.Creston Ceremonial A.Jolivet Ceremonial F.Dupin Courtes pieces Album No.5 C.Chavez Toccata Thomas Gauger Gainsborough A.Jolivet Flute Concerto No.2
------	--

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	ドイツ及びイタリアのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画		
第 1 回	ドイツの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50 分
第 2 回	ドイツの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50 分
第 3 回	ドイツの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50 分
第 4 回	ドイツの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 5 回	ドイツの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 前半で問題のある個所を練習する。 50 分
第 6 回	ドイツの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 7 回	ドイツの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50 分
第 8 回	イタリアの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50 分
第 9 回	イタリアの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50 分
第 10 回	イタリアの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50 分
第 11 回	イタリアの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 12 回	イタリアの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある個所を練習する。 50 分
第 13 回	イタリアの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 14 回	イタリアの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50 分
第 15 回	既習曲の発表（ドイツ、イタリア）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。 50 分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。
課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	フランス及びイギリスのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画		
第 1 回	フランスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50 分
第 2 回	フランスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50 分
第 3 回	フランスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50 分
第 4 回	フランスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 5 回	フランスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある個所を練習する。 50 分
第 6 回	フランスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 7 回	フランスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50 分
第 8 回	イギリスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50 分
第 9 回	イギリスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50 分
第 10 回	イギリスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50 分
第 11 回	イギリスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 12 回	イギリスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある個所を練習する。 50 分
第 13 回	イギリスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 14 回	イギリスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50 分
第 15 回	既習曲の発表（フランス、イギリス）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。 50 分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。
課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／リコーダー専門／4 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 前期 15 回 各人 20 分の個人指導

第 1 回	通奏低音奏法 I-1 の復習①	事前	昨年使用したテキストを復習	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 2 回	通奏低音奏法 I-1 の復習②	事前	昨年使用したテキストを復習	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 3 回	基本位置 1（密集）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	基本位置 2（開離）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	第一転回 1（密集）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	第一転回 2（オクターヴ）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	第一転回 3（省略）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	第一転回 4（連続して現れる第一転回）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	第二転回 1（終止）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 10 回	第二転回 2（刺繍和音）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 11 回	繋留 1（最上声部に現れるもの）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 12 回	繋留 2（内声に現れるもの）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 13 回	7 の和音基本位置 1（5 度音を含むもの）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 14 回	7 の和音基本位置 2（5 度音を省略できる場合）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 15 回	7 の和音第一転回 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 課題や授業への積極的な取り組みにより総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

通奏低音奏法Ⅱ-2	
非常勤講師 戸崎廣乃	科目コード：IND204
対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／リコーダー専門／4 年次	
形態：実技	単位数：1 単位
概要	バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。
到達目標	
バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。	

授業計画 後期 15 回 各人 20 分の個人指導

第 1 回	7 の和音第一転回 2（第 7 音の扱い方）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 2 回	7 の和音第二、三転回 1（43 の和音）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 3 回	7 の和音第二、三転回 2（42 の和音）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	長および短九度、減七 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	長および短九度、減七 2（特殊な用法）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	その他の半音階的和音 1（ナポリの 6）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	その他の半音階的和音 2（その他）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	二重繁留	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	実際の楽曲への応用 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 10 回	実際の楽曲への応用 2（配置を変えてみる）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 11 回	実際の楽曲への応用 3（省略できる音を検討する）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 12 回	アンサンブルでの実践 1（後期バロック）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 13 回	アンサンブルでの実践 2（前期バロック）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 14 回	アンサンブルでの実践 3（数字がついていない場合）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 15 回	アンサンブルでの実践 4（総合的実践）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 課題や授業への積極的な取り組みにより総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

合唱Ⅰ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS116／ENS216
ENS316／ENS413

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習	単位数：1単位
概要	履修生がひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標	合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを選び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目指す。
------	--

授業計画	全15回 90分×2コマ＝180分 各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。
------	---

第1回	ガイダンス／春の演奏会リハーサル 「声種分け」	事前 自分の声が混声合唱のどのパートが相応しく望ましいかを検討する	0分
		事後 選曲の意図を探る	0分
第2回	春の演奏会リハーサル 「みんなで声を出すことは？」	事前 自分の声の基本的性質を調べる	0分
		事後 音が混ざることとはどういうことなのか思考する	0分
第3回	春の演奏会リハーサル 「パートの役割、ハーモニーとは？」	事前 和声の基本を知っておく	0分
		事後 連結の重要性をおさらいする	0分
第4回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（基礎）」	事前 ホールで演奏することを想定する	0分
		事後 暗譜を目指す	0分
第5回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 本番を想定する（舞台の歩き方、衣装、楽譜の有無、メイク）	0分
		事後 全体的に譜面を見直す	0分
第6回	春の演奏会の反省 定期演奏会リハーサル	事前 演奏会を振り返る	0分
		事後 選曲の意図を探る	0分
第7回	秋の演奏会リハーサル 「ピアニストの役割」	事前 すべての教材のピアノパート楽譜を眺める	0分
		事後 自分がピアニストだったらと想像する	0分
第8回	秋の演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（基礎）」	事前 ハンドサインとは何かを調べる	0分
		事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0分
第9回	秋の演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（応用）」	事前 階名唱の利点を考える	0分
		事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0分
第10回	秋の演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（基礎）」	事前 ハミングの仕組みを研究する	0分
		事後 口からの呼吸と鼻からの呼吸についておさらいする	0分
第11回	秋の演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（応用）」	事前 音声の支えとは何かを考える	0分
		事後 やわらかい息を習得する	0分
第12回	秋の演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（基礎）」	事前 音律の基本を知っておく	0分
		事後 ペンタトニックや旋法を知っておく	0分
第13回	秋の演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（応用）」	事前 平均律とは何かを知っておく	0分
		事後 大全音と小全音を知っておく	0分
第14回	秋の演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（基礎）」	事前 イントネーションのない状態を想定する	0分
		事後 講義で取り上げたルールがほかにも当てはまるか調べ探す	0分
第15回	秋の演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（応用）」	事前 イントネーションのない状態を想定する	0分
		事後 テキスト・和音・旋律・リズムそれぞれのイントネーションを知る	0分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	

合唱Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS117／ENS217
ENS317／ENS414

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／全学年

形態：実習 単位数：1単位

概要 履修生がひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標 合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを学び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目指す。

授業計画 全15回 90分×2コマ＝180分
各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。

第1回	秋の演奏会リハーサル	「輪唱から合唱へ（基礎）」	事前 かえるのうたのカノンがなぜハモるのかを考える 事後 ポリフォニー作品を聴く	0分 0分
第2回	秋の演奏会リハーサル	「輪唱から合唱へ（応用）」	事前 ハンドサインの復習をする 事後 階名唱の利点を考える	0分 0分
第3回	秋の演奏会リハーサル	「演奏会運営、マネジメント（基礎）」	事前 演奏会には演奏以外に何が必要か想定する 事後 演奏会には演奏者以外に誰が必要か想定する	0分 0分
第4回	秋の演奏会リハーサル	「演奏会運営、マネジメント（応用）」	事前 演奏のために何をしたいか考える 事後 演奏のために何ができるか考える	0分 0分
第5回	秋の演奏会リハーサル	「近年の合唱（趣味）の傾向」	事前 大型楽譜店で合唱楽譜の出版状況を見る 事後 自分の考えをまとめる	0分 0分
第6回	秋の演奏会リハーサル	「近年の合唱（教育）の傾向」	事前 幼保・小中高で合唱がどのような役割化を考える 事後 自分の考えをまとめる	0分 0分
第7回	秋の演奏会リハーサル	「近年の合唱（楽譜）の傾向」	事前 著作権・出版権について学ぶ 事後 10年後を見通す	0分 0分
第8回	秋の演奏会リハーサル	「近年の合唱（IT化）の傾向」	事前 著作権・出版権について学ぶ 事後 10年後を見通す	0分 0分
第9回	秋の演奏会リハーサル	「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 全体的に譜面を見直す	0分 0分
第10回	秋の演奏会リハーサル	「隊列の重要性（基礎）」	事前 空間を音で満たすためにどのような並び方がいいか考える 事後 講義で指摘された箇所を練習する	0分 0分
第11回	秋の演奏会リハーサル	「隊列の重要性（応用）」	事前 オーディエンスが満足する並び方を考える 事後 講義で指摘された箇所を練習する	0分 0分
第12回	秋の演奏会の反省	／合唱指揮法・指導法「選曲の重要性（基礎）」	事前 演奏会を振り返る 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第13回	合唱指揮法・指導法	「選曲の重要性（応用）」	事前 選曲を間違うとどうなるかを考える 事後 演奏家視点の選曲の長所と短所を挙げる	0分 0分
第14回	合唱指揮法・指導法	「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（概論）」	事前 聴き手視点の選曲の長所と短所を挙げる 事後 全体のバランスを見る	0分 0分
第15回	合唱指揮法・指導法	「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（実践）」	事前 指揮法が重要である理由を考える 事後 課題曲を練習する	0分 0分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	☒	□	☒	□	□	□	□	☒	☒	□	□	□	☒

(演) 室内楽Ⅳ

教授 緒方恵

科目コード：ENS415

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／ピアノ専門／4 年次

形態：実習	単位数 2 単位
概要	授業はマスタークラス形式で行う。室内楽演奏に必要な諸要素の、更なるスキルアップを行い、客観的な耳を持って仕上げていくアプローチ法を学ぶ授業である。4 年次は、異なる時代様式の作品を 3 曲取り上げる。担当教員と学生がともに演奏し、聴講する学生を交え、ディスカッションしながら進める。
到達目標	音楽で対話し、ともに音楽を作っていくことで、演奏する作品の完成度を上げることを目標とする。音楽が有機的であることを体感し、音一つ一つ、ひとりひとりの役割を意識し、柔軟な演奏を習得する。最終的には個々の技術や楽器の枠を超えて音楽そのものに向き合う姿勢を身につけてほしい。
授業計画	担当教員とともに演奏する形態で授業を行う。4 年次は異なる時代様式のソナタを選曲する。

第 1 回	授業の目標、進め方を確認する。課題曲の設定と演奏順を決定	事前 ①三年次までの学修を確認し、今年度の課題を各自把握しておく。②能力分析 事後 ①年間の課題の楽譜を準備し、譜読みをしておく。②課題曲の読譜	140 分 140 分
第 2 回	課題曲Ⅰ ①自らの音、共演者の音を聴き続けることを徹底する ②作品分析を行い、全体の中の個々の役割を確認する	事前 ①形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。②スコアをよく読む 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。②作品全体の構造を把握する。	140 分 140 分
第 3 回	課題曲Ⅰ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②「聴く」とはどのようなことを学ぶ	事前 ①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習。 ②読譜の徹底 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。②全パート全てを聴く。	140 分 140 分
第 4 回	課題曲Ⅰ ①リハーサルを進め方を学ぶ ②音楽の呼吸―フレージングと拍節を確認しながら演奏	事前 ①アンサンブルにおける呼吸、アインザッツを意識しながら練習する。 ②各パートのフレーズ、音楽全体のフレーズの確認。 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②一つの音楽となった時のフレーズ感とバランスを追求する。	140 分 140 分
第 5 回	課題曲Ⅰ 仕上げ 全楽章を通して―構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前 ①曲の全体像から立体的な表現につながるよう効果的に演奏できる工夫をする。 ②作品全体像を確認。 事後 ①課題曲Ⅰの反省と、次の課題の確認。②音楽の呼吸、方向性を明確にする。	140 分 140 分
第 6 回	課題曲Ⅱ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②課題曲Ⅰとの比較。様式の違いによる表現の違いについて	事前 ①課題曲ⅠとⅡの様式感の違いを予習しておく。②課題曲Ⅱを読譜 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②構造、和声、旋律、フレーズ、表示記号などの相違点を比較研究する。	140 分 140 分
第 7 回	課題曲Ⅱ 様式感の特徴から、音色、リズム、デュナーミクを考える	事前 ①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 ②作品の性格を読み取る。 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②リズム、拍子の様々な奏法を試し、演奏に与える違いを感じとる。	140 分 140 分
第 8 回	課題曲Ⅱ 室内楽の魅力を感じながら、音色、響きの調和と強弱のバランスを追求する	事前 ①音色や音の比重バランス、音程などから美しい響きが生み出されることを、再確認する。 ②楽曲分析により響きのイメージを明確にしておく。 事後 ①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②合同練習において追求した響き、バランスを基に更に探求。	140 分 140 分
第 9 回	課題曲Ⅱ ①全楽章を通して―呼吸、音のバランスをポイントとする ②表現の可能性を探る	事前 ①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 ②全体構造や作品の性格、展開、イメージを明確にしておく。 事後 ①アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②バランス、作品の性格に合った表現とその演奏技術の探求。	140 分 140 分
第 10 回	課題曲Ⅱ 仕上げ 全楽章を通して―呼吸、音のバランスをポイントとする	事前 ①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする ②演奏のビジョンを明確にしておく。 事後 ①課題曲Ⅱの反省と、次の課題の確認。 ②全パートで一つの音楽に成り得たか、自己評価。	140 分 140 分
第 11 回	課題曲Ⅲ 課題曲Ⅰ、Ⅱとの比較において、アンサンブルを行う際の問題点を探る	事前 課題曲Ⅲの楽譜を準備し、譜読みをしておく。 事後 異なる楽器の発音体、タイミング、音色を再確認する。	140 分 140 分
第 12 回	課題曲Ⅲ 課題曲の分析を行い、様式感からのアプローチを実践する	事前 課題曲Ⅲに対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分 140 分
第 13 回	課題曲Ⅲ コンサートに向けてのリハーサルの仕方を学ぶ	事前 リハーサルの調整、発表までの計画を立てる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分 140 分
第 14 回	課題曲Ⅲ 仕上げ 全楽章を通して―構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前 共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分 140 分
第 15 回	課題曲Ⅲ 演奏発表と反省	事前 問題点を確認し、良い演奏につながるよう、各自準備する。 事後 演奏の反省と、今後の課題を確認する。	140 分 140 分

フィードバック レッスン形式のため、課題準備に対し、授業内で教員がともに演奏しながらアドバイスをを行うことで、フィードバックする。

成績評価 課題曲についての分析と表現、およびアンサンブルへの積極的な取り組み姿勢で評価する。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて
緒方恵 box-057@mail.uenogakuen.ac.jp
備考 課題曲Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、異なる時代様式のソナタを選曲する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発奮力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

(演) 室内楽Ⅳ

非常勤講師 佐藤裕子

科目コード： ENS415

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／管弦打楽器専門（サクソフォン／ユーフォニアムを除く）／4 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	授業はマスタークラス形式で行う。室内楽演奏に必要な諸要素の、更なるスキルアップを行い、客観的な耳を持って仕上げていくアプローチ法を学ぶ授業である。異なる時代様式の作品を 3 曲取り上げる。担当教員と学生がともに演奏し、聴講する学生を交え、ディスカッションしながら進める。
到達目標	音楽で対話し、ともに音楽を作っていくことで、演奏する作品の完成度を上げることを目標とする。音楽が有機的であることを体感し、音一つ一つ、ひとりひとりの役割を意識し、柔軟な演奏を習得する。最終的には個々の技術や楽器の枠を超えて音楽そのものに向き合う姿勢を身につけてほしい。
授業計画	ピアノ、ピアノ以外の二つのグループに分かれ、それぞれの担当教員とともに演奏する形態で授業を行う。最終学年のため、古典派、ロマン派、近現代の異なる時代様式のソナタを選曲する。

第 1 回	授業の目標、進め方を確認する。課題曲の設定と演奏順を決定	事前	①三次次までの学修を確認し、最終学年の課題を各自把握しておく。②能力分析	140 分
		事後	①年間の課題の楽譜を準備し、譜読みをしておく。②課題曲の読譜	140 分
第 2 回	課題曲Ⅰ ①自らの音、共演者の音を聴き続けることを徹底する ②作品分析を行い、全体の中の個々の役割を確認する	事前	①形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。②スコアをよく読む	140 分
		事後	①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。②作品全体の構造を把握する。	140 分
第 3 回	課題曲Ⅰ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②「聴く」とはどのようなことかを学ぶ	事前	①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習。 ②読譜の徹底	140 分
		事後	①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。②全パート全てを聴く。	140 分
第 4 回	課題曲Ⅰ ①リハーサルを進め方を学ぶ ②音楽の呼吸－フレージングと拍節を確認しながら演奏	事前	①アンサンブルにおける呼吸、アインザッツを意識しながら練習する。 ②各パートのフレーズ、音楽全体のフレーズの確認。	140 分
		事後	①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②一つの音楽となった時のフレーズ感とバランスを追求する。	140 分
第 5 回	課題曲Ⅰ 仕上げ 全楽章を通して－構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前	①曲の全体像から立体的な表現につながるよう効果的に演奏できる工夫をする。 ②作品全体像を確認。	140 分
		事後	①課題曲Ⅰの反省と、次回の課題の確認。②音楽の呼吸、方向性を明確にする。	140 分
第 6 回	課題曲Ⅱ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②課題曲Ⅰとの比較。様式の違いによる表現の違いについて	事前	①課題曲ⅠとⅡの様式感の違いを予習しておく。②古典、ロマン派作品を読譜	140 分
		事後	①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②構造、和声、旋律、ハーモニー、表示記号などの相違点を比較研究する。	140 分
第 7 回	課題曲Ⅱ 様式感の特徴から、音色、リズム、デュナーミクを考える	事前	①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 ②作品の性格を読み取る。	140 分
		事後	①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②リズム、拍子の様々な奏法を試し、演奏に与える違いを感じとる。	140 分
第 8 回	課題曲Ⅱ 室内楽の魅力を感じながら、音色、響きの調和と強弱のバランスを追求する	事前	①音色や音の比重バランス、音程などから美しい響きがうまれることを、再確認する。 ②楽曲分析により響きのイメージを明確にしておく。	140 分
		事後	①問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②合同練習において追求した響き、バランスを基に更に探求。	140 分
第 9 回	課題曲Ⅱ ①全楽章を通して－呼吸、音のバランスをポイントとする ②表現の可能性を探る	事前	①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 ②全体構造や作品の性格、展開、イメージを明確にしておく。	140 分
		事後	①アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 ②バランス、作品の性格に合った表現とその演奏技術の探求。	140 分
第 10 回	課題曲Ⅱ 仕上げ 全楽章を通して－呼吸、音のバランスをポイントとする	事前	①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする ②演奏のビジョンを明確にしておく。	140 分
		事後	①課題曲Ⅱの反省と、次回の課題の確認。 ②全パートで一つの音楽に成り得たか、自己評価。	140 分
第 11 回	課題曲Ⅲ 課題曲Ⅰ、Ⅱとの比較において、アンサンブルを行う際の問題点を探る	事前	課題曲Ⅲの楽譜を準備し、譜読みをしておく。	140 分
		事後	異なる楽器の発音体、タイミング、音色を再確認する。	140 分
第 12 回	課題曲Ⅲ 課題曲の分析を行い、様式感からのアプローチを実践する	事前	課題曲Ⅲに対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	140 分
		事後	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分
第 13 回	課題曲Ⅲ コンサートに向けてのリハーサルの仕方を学ぶ	事前	リハーサルの調整、発表までの計画を立てる。	140 分
		事後	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分
第 14 回	課題曲Ⅲ 仕上げ 全楽章を通して－構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前	共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。	140 分
		事後	アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分
第 15 回	課題曲Ⅲ 演奏発表と反省	事前	問題点を確認し、良い演奏につながるよう、各自準備する。	140 分
		事後	演奏の反省と、今後の課題を確認する。	140 分

フィードバック レッスン形式のため、課題準備に対し、授業内で教員がともに演奏しながらアドバイスをを行うことで、フィードバックする。

成績評価 課題曲についての分析と表現、およびアンサンブルへの積極的な取り組み姿勢で評価する。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて
佐藤裕子 ball.60000137@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング マスタークラス形式で授業を行っているため、演奏を聴講している学生からも、何が問題で、どのように解決すればよいかを発言させている。

備考 課題曲Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、異なる時代様式のソナタを選曲する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

音楽学概論-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS107

対象コース／専門／学年：GLAコース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽についての身近な問題について、講義のなかで各自が学術的にアプローチし、音楽および音楽学の意義や問題点を考える。

到達目標	身近な問題を音楽学に結びつけ、分析力、解決力を養いながら研究方法を身につける。 調査を通して音楽学の多様性を体験的に学び、自分自身の音楽環境を客観視する。
------	--

授業計画		
第 1 回	自己の音楽体験 疑問、関心、悩み、批判、感動、共感等(ガイダンス)	事前 シラバスに目を通し、自分の音楽体験をじっくり振り返る 100 分 事後 講義をヒントに、自分の音楽体験や身近な音楽について研究の可能性を考える 180 分
第 2 回	「音楽学」と隣接諸学、ウィキペディア批判、新グローヴ批判(音楽学概説)	事前 Wikipedia・『ニューグローヴ世界音楽大事典』の「音楽学」の項目に目を通す 100 分 事後 『ニューグローヴ』「音楽学」から問題となる箇所を引用し、批判を加える 180 分
第 3 回	音楽趣味・嗜好性の背後にあるもの(社会学)	事前 自分の音楽の趣味について理由や音楽の特徴などを分析してみる 100 分 事後 現代の多様な音楽について、その歴史的背景や社会的位相を考えてみる 180 分
第 4 回	音楽を知る資料・史料(書誌学)	事前 音楽を知るための資料・史料にどのようなものがあるかを数え上げてみる 100 分 事後 講義で知ったそれぞれの調査の道具に実際に触れ、興味をもった事柄について調べる 180 分
第 5 回	音楽家を調べる 音楽家の分化、専門化 東と西(研究方法・比較文化史)	事前 興味のある音楽家についてさまざまな角度から考えてみる 100 分 事後 興味のある音楽家について、どのような先行研究があるかを調べてまとめる 180 分
第 6 回	美的価値判断の基準 西洋芸術音楽を相対化・客体視する(比較文化)	事前 好きな芸術音楽を取り上げ、どのような所が良いのか、その理由を考える 100 分 事後 日本の伝統音楽との比較を通じ西洋芸術音楽の「発展史」についてまとめる 180 分
第 7 回	音楽科教科書の批判的検討 何を目指すのか(音楽教育)	事前 中学・高校で使っていた音楽の教科書に目を通し、講義に持参する 100 分 事後 講義を踏まえ、自分ならどのような音楽の教科書を作るか、目次を作ってみよう 180 分
第 8 回	レポートテーマの設定と対策(レポートの書き方・調査方法)	事前 シラバスを参考に興味ある研究テーマをいくつかリストアップし、下調べをする 100 分 事後 講義で学んだレポートの基礎を踏まえ、期末レポートのテーマを選びプランを立てる 180 分
第 9 回	視る音楽、象徴としての音楽 日本と西洋(図像学)	事前 日本、欧米について音楽が表現された美術をそれぞれ探してみよう 100 分 事後 図像史料の有用性について具体例を用いてまとめてみよう 180 分
第 10 回	音楽の力 音楽の祭典・芸術競技と社会(社会学)	事前 知っている音楽祭、音楽コンクールについて調べてみよう 100 分 事後 オリンピック開閉会式の音楽や講義で取り上げた音楽祭について考えてみよう 180 分
第 11 回	音を創る装置 日本と西洋(楽器学)	事前 これまでに使ったことのある楽器について調べてみよう 100 分 事後 楽器について、さらに他の文化の同種の楽器と比較してまとめよう 180 分
第 12 回	音を創る身体(演奏の科学)	事前 自分の演奏体験を振り返り、テクニックに関する意識・知識について考えてみよう 100 分 事後 演奏技術に関する科学研究の有用性について、自分に当てはめて考えてみよう 180 分
第 13 回	音を共有する場・享受する場の歴史 古代の劇場からイヤホンまで(享受史)	事前 音楽を聴くさまざまな場について、その長所、短所を考えてみよう 100 分 事後 音楽を聴く場の変遷を振り返り、その文化的背景を考えてみよう 180 分
第 14 回	評論と研究 音楽表現へのアプローチ(研究方法)	事前 身近な音楽評論を読んでみよう 100 分 事後 評論と研究の違いについての講義を踏まえ、それぞれの意義を考えてみよう 180 分
第 15 回	まとめとレポート指導	事前 レポート執筆に取り組み、疑問点や問題点をまとめる 100 分 事後 指導内容を踏まえ、レポートをまとめる 180 分

フィードバック 毎時の小課題評価、講義時間内外の質疑応答

成績評価 毎時の取り組み（小課題と講義内の発言や身近な問題に対する適切な方法による解決力）50％ 期末レポート 50％

テキスト 毎時講義資料を配布（オンライン授業中はメールにて配信）

オフィスアワー 水曜 11:00-12:00 日本音楽史研究所（2F）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐

音楽学概論-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS108

対象コース／専門／学年：GLAコース／全専門／4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽についての身近な問題について、講義のなかで各自が学術的にアプローチし、音楽および音楽学の意義や問題点を考える。

到達目標 身近な問題を音楽学に結びつけ、分析力、解決力を養いながら研究方法を身につける。
調査を通して音楽学の多様性を体験的に学び、自分自身の音楽環境を客観視する。

授業計画

第1回	紙の上の音楽 楽譜の意外な機能 東と西	事前 使ったことのある楽譜について、その機能を考えてみよう 事後 楽譜の多様性についての知見をまとめよう	100分 180分
第2回	印刷楽譜の歴史的価値 日本と西洋	事前 日頃使っている楽譜の印刷がいつ頃から始まったのかを調べてみよう 事後 初期印刷楽譜の事例を振り返り、印刷の文明的意義を考えよう	100分 180分
第3回	近代五線譜の効能、発展と限界、記さない音楽の伝承(フォークロアとエスノロジー)	事前 近代五線譜の長所と短所について考えてみよう 事後 五線譜に適さない音楽について理由を考え、どのように伝承されるかをまとめよう	100分 180分
第4回	作品を調べる(研究方法)	事前 興味のある音楽作品について調べてみよう 事後 先行研究の参考文献などを利用し追跡調査をしよう	100分 180分
第5回	レポートテーマの設定と対策(レポートの書き方・調査方法)	事前 シラバスを参考に興味ある研究テーマをいくつかリストアップし、下調べをする 事後 講義で学んだ執筆方法を踏まえ、期末レポートのテーマを選びプランを立てる	100分 180分
第6回	楽書とは 説話と音楽理論	事前 音楽理論書や音楽に関わる古い逸話にはどんなものがあるか思い出してみよう 事後 理論書や音楽説話が作られる背景や意義を考えてみよう	100分 180分
第7回	音の組織化 調律・旋法・調性 音楽文明の羅針盤、東と西	事前 調律や調性の歴史を調べてみよう 事後 調律・調性についての東西の共通性と相違を振り返り文明史における意義を考えよう	100分 180分
第8回	文学と音楽芸能 古代ギリシャと古事記(横断的アプローチ)	事前 古代ギリシャの音楽と文学について調べてみよう 事後 芸能としての文学の在り方、文学に描かれる音楽についての事例を考えよう	100分 180分
第9回	現代音楽としての日本音楽 東西の接点とその背景(音楽史)	事前 西洋音楽史の中に現れる日本音楽にはどんなものがあるか考えてみよう 事後 現代音楽における日本について様々なレベルで考えよう	100分 180分
第10回	音と環境デザインの今昔(環境学)	事前 自分を取り巻く環境の音を意識してみよう 事後 昔と今の音の変化について考えよう	100分 180分
第11回	様々なテキスト・クリティーク(研究方法)	事前 レポートの実証性を高めるための工夫について考えてみよう 事後 史料批判の重要性を改めて理解し、レポート執筆に活かそう	100分 180分
第12回	レポートの中間報告会と指導1(プレゼンテーション)	事前 発表資料の準備と発表の練習 事後 質疑応答を踏まえてレポートを修正する	100分 180分
第13回	レポートの中間報告会と指導2(プレゼンテーション)	事前 発表資料の準備と発表の練習 事後 質疑応答を踏まえてレポートを修正する	100分 180分
第14回	音楽学の多様性と日本における問題点	事前 講義で扱った以外の音楽学の領域について調べてみる 事後 日本における音楽学研究の現状と課題について自分なりの考えをまとめよう	100分 180分
第15回	まとめとレポート指導	事前 期末レポートを完成させる 事後 期末レポートで出来たこと出来なかったことを反省し今後の展望を明確化する	100分 180分

フィードバック 毎時の小課題評価、講義時間内外の質疑応答

成績評価 毎時の取り組み（小課題と講義内の発言や身近な問題に対する適切な方法による解決力）50％ 期末レポート 50％

テキスト 毎時講義資料を配布（オンライン授業中はメールにて配信）

オフィスアワー 水曜 11:00-12:00 日本音楽史研究所（2F）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐

対象コース／専門／学年： 全コース/全専門/4 年次

形態：講義・実習

単位数 1 単位

概要

この授業では、現在の文化芸術を巡る環境と社会との関係について学術的な視点で書かれた英語文献を取り上げて通読する。前・後期共にある程度平易な英文で書かれている「An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art」を翻訳しながら、近年の芸術祭の隆盛に代表されるアートプロジェクトの定義、現代の社会環境と芸術との関係性、今後の音楽を含めたアートの未来の姿などを考える。各回で日本国内のアートプロジェクトの実践を紹介する。

到達目標

学術的文献の精読を通して、まずは英語の読解力の向上を目的とする。その上で、テキストが扱う事例を補完する文献リサーチ等を通して、現代の文化政策の重要な要素のひとつとなっている「文化芸術と社会の関わり」の概要と具体を理解することを目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション Introduction を通読する。	事前	特になし	分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	40 分
第 2 回	Introduction 本書の目的	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 3 回	What are “Art Projects”? ① アートプロジェクトとは何か？その歴史と地域との関係性	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 4 回	What are “Art Projects”? ② 日本型のアートプロジェクト	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 5 回	What are “Art Projects”? ③ アートプロジェクトの特徴・定義	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 6 回	The prehistory of Art Projects ① 1960 年代から 70 年代のアーティストを取り巻く環境	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 7 回	The prehistory of Art Projects ② 1980 年代のアーティストを取り巻く環境	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 8 回	The prehistory of Art Projects ③ 1990 年代のアーティストの問い	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 9 回	The prehistory of Art Projects ④ 1990 年代に生まれた概念：助成金・ファンドレイジング	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 10 回	The prehistory of Art Projects ⑤ 1990 年代の消費文化の行き詰まり	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 11 回	The prehistory of Art Projects ⑥ 社会的な文脈への介入	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 12 回	The prehistory of Art Projects ⑦ 先駆的な事例：アートキャンプ白州	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 13 回	The prehistory of Art Projects ⑧ 先駆的な事例：ミュージアム・シティ・天神 etc	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 14 回	The prehistory of Art Projects ⑨ 阪神・淡路大震災の影響	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 15 回	The prehistory of Art Projects ⑩ まとめ・期末課題の解説	事前	指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分

フィードバック 各自が作成してきた和訳に対する講評

成績評価 毎回各自が準備する和訳のクオリティ（40%）期末課題の提出（60%）

テキスト

“An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art”
Written by Sumiko Kumakura and Yuichiro Nagatsu with a contribution by Justin Jesty
Published by Arts Council Tokyo
テキストは初回の授業で PDF 版を紹介する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考 本授業では各回、学生に和訳準備と発表を課す。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	☑

対象コース／専門／学年： 全コース/全専門/4 年次

形態：講義・実習

単位数 1 単位

概要

前期に引き続き「An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art」を扱い、地域型アートプロジェクトおよび企業がアートプロジェクトを支援する理由に焦点を当てて学修する。後期は各自が音楽をテーマにしたアートプロジェクトの事例をリサーチ分析し、毎回持ち回りで発表をおこなう。

到達目標

学術的文献の精読を通して、まずは英語の読解力の向上を目的とする。その上で、テキストが扱う事例を補完する文献リサーチ等を通して、現代の文化政策の重要な要素のひとつとなっている「文化芸術と社会の関わり」の概要と具体を理解することを目標とする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 前期までの振り返りと後期の授業の進め方、リサーチ課題について	事前 特になし 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	分 40 分
第 2 回	Regional Art Projects ① 地域型芸術祭の興盛	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 3 回	Regional Art Projects ② 中規模アートプロジェクト	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 4 回	Regional Art Projects ③ 日本のアートプロジェクトの特色	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 5 回	Regional Art Projects ④ なぜ社会はアートプロジェクトに関心を示すのか	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 6 回	Regional Art Projects ⑤ 大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレの実施の背景	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 7 回	Regional Art Projects ⑥ 大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレでの地域住民の意識の変化	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 8 回	Regional Art Projects ⑦ 大型フェスティバルの成功	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 9 回	Regional Art Projects ⑧ まとめ・コミュニティオリエンテッドアートの内実	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 10 回	Companies and Art Projects: Why Companies Support Art Projects ① 企業が支援する背景	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 11 回	Companies and Art Projects: Why Companies Support Art Projects ② 事例：アサヒビール	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 12 回	Companies and Art Projects: Why Companies Support Art Projects ③ 事例：千島土地	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 13 回	Art Projects and Society : Social inclusion and Art ① アートプロジェクトの社会領域との交接	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 14 回	Art Projects and Society : Social inclusion and Art ② 事例：Breaker Project・KOTOBUKI クリエイティブアクション	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分
第 15 回	Art Projects and Society : Social inclusion and Art ③ まとめ・地域が芸術の実験場となる	事前 指定した範囲を通読し、わからない単語を予め調べ、下訳を準備しておく。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	60 分 30 分

フィードバック

各自が作成してきた和訳に対する講評およびリサーチ課題に対するフィードバック

成績評価

期末課題の提出（60%）毎回各自が準備する和訳のクオリティ（20%）リサーチ課題の発表と提出（20%）

テキスト

“An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art”
Written by Sumiko Kumakura and Yuichiro Nagatsu with a contribution by Justin Jesty
Published by Arts Council Tokyo
テキスト該当場所は初回の授業で指示する。

オフィスアワー

月曜 V 駒 研究室にて

備考

本授業では各回、学生に和訳準備と発表を課す。加えてリサーチ課題も持ち回りで課す。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□

民族音楽学 1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：MUS111

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。 民族音楽学 1 では「アフリカ」「南アジア」「東南アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画				
第 1 回	オリエンテーション アフリカ（1）儀礼と音楽	事前	教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 2 回	アフリカ（2） 太鼓の諸相	事前	教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 3 回	アフリカ（3） 音楽構造の特徴と原理	事前	教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 4 回	アフリカ（4） アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	事前	教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 5 回	南アジア（1） 言語・文化の多様性	事前	教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 6 回	南アジア（2） 古典音楽と地方の伝統音楽	事前	教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 7 回	南アジア（3） 古典音楽の理論と楽器	事前	教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 8 回	南アジア（4） 古典舞踊	事前	教科書の p.95～97 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 9 回	南アジア（5） ポピュラー音楽	事前	教科書の p.98～100 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 10 回	東南アジア（1） 民族文化的背景	事前	教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 11 回	東南アジア（2） 青銅のひびき	事前	教科書の p.104～106 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 12 回	東南アジア（3） ガムラン音楽	事前	教科書の p.106～110 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 13 回	東南アジア（4） 竹のひびき	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 14 回	東南アジア（5） 現代に生きる伝統音楽	事前	教科書の p.112～116 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 15 回	総括 理解度確認テスト	事前	第 1 回～14 回までの授業内容の復習	220 分
		事後	理解が不十分だった箇所を復習する。	60 分

フィードバック

- ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
- ・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価

期末試験 60％ プレゼンテーション 20％ 小テスト 20％

テキスト

- ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
- ・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

アクティブ・ラーニング

興味を持った音楽ジャンル、楽器について各自調べ授業中にプレゼンする。

備考

- ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
- ・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□

特殊講義（日本音楽史）-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS205

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／4 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／4 年次生

形態：講義 単位数：2 単位

概要	日本音楽史研究は、史料の搜索および研究が前提となるが、とりわけ古代については近年様々な史料が発掘され、それに伴い、古代東アジア世界における文物の交流の様相が次第に明らかになりつつある。日本にどのような音楽史料が存在し、どう活用し得るのか。これまでの研究史の問題点を踏まえ、最新の成果を実践的に検証する。受講生の適正に応じ講義内容を調整する。
----	--

到達目標	音楽史学の方法論の基礎を身につける。日本にはどのような音楽史料があるのか、それぞれがどのような意味を持つのかについて、講義で得た知見を応用して自身で設定した課題に取り組むことができる。アジアの中の日本の位置を確認しながら、実証的音乐史研究について正しく認識し、講義で提示された問題点について考察を深めることが出来る。
------	--

授業計画

第1回	史料による実証的日本音楽史—史料から何が分かるか。参考文献の紹介	事前 事後	シラバスを熟読し、本科目の概要を把握する。質問事項をまとめておく。 様々な史料形態とその特徴をまとめる。『古典音楽文献解題』を読む。	40 分 240 分
第2回	考古学史料に見る音楽—残るものと残らないもの（見学準備を含む）	事前 事後	音楽関係の出土史料について国内外のものを検索する。 特に興味を抱いたモノについて調査を進める。	90 分 190 分
第3回	【AL】実地見学—東京国立博物館の埴輪・銅鐸・鏡など（形状・意匠・素材・技巧） （グループワーク）	事前 事後	見学調査の準備をする。 調査結果をまとめ、特に注目すべき点について意見交換し、考察する。	120 分 160 分
第4回	コトの変遷—種類、機能、象徴性、宗教性、技術等	事前 事後	様々なコトの種類やその象徴的意味について事前調査をする。 古典文学のコト、出土したコトの意匠、コトの多様性や変遷について考察する。	40 分 240 分
第5回	東アジアの中の日本—外交と音楽—なぜ音楽の輸入が必要だったのか	事前 事後	古代中国の世界史的位置やその音楽について事前調査をする。 遣唐使が伝えた音楽の源流について追跡調査を行い、その意義を考察する。	250 分 30 分
第6回	東大寺大仏開眼供養と正倉院宝物	事前 事後	東大寺大仏建立および正倉院の歴史について事前調査をする。 論点を絞り、大仏開眼供養および正倉院宝物の音楽史的意義を考察する。	90 分 190 分
第7回	【AL】文献史料から国家公務員としての音楽家組織や編成を知る	事前 事後	雅楽寮および楽所についての事前調査を行う。 講義で扱った史料の再読し、史料の意義を考察する。	110 分 170 分
第8回	【AL】文献史料としての楽譜を読む—日本音楽の記譜法と解説の歴史	事前 事後	日本に現存する世界最古の楽譜が何か、またその信憑性を調べる。 古楽譜解説の追跡調査を行い、その適否を検証する。	110 分 170 分
第9回	【AL】文献史料としての『国家珍宝帳』を読む—至宝としての楽器の博物学的記述	事前 事後	『東大寺献物帳』について事前調査を行う。 奈良時代の楽器の多様性と現代雅楽の編成とを比較し、相違の理由を考察する。	80 分 100 分
第10回	【AL】『国家珍宝帳』記載史料と現存楽器とを照合してみよう	事前 事後	前回の調査結果を踏まえ、『国家珍宝帳』の記述の疑問点をまとめる。 現存する正倉院宝物と対応関係について考察する。	230 分 50 分
第11回	【AL】図像史料から分かること—『舞楽散楽図』の諸本調査（1）	事前 事後	『舞楽散楽図』（通称「信西古楽図」）について事前調査を行う。 何がどのような順に描かれていたかを整理し、次回に備える。	110 分 170 分
第12回	【AL】日本の文献調査（史料批判）実体験—『舞楽散楽図』の諸本調査（2）	事前 事後	個々の絵（ジャンル、楽器、演目など）についての調査を行う。 音楽史研究における諸本調査の意義と重要性について考察する。	140 分 140 分
第13回	日本の権門と音楽	事前 事後	ヨーロッパ及び日本の音楽の担い手と権力者との関係について事前調査する。 権門の音楽上の業績と音楽史における意義について考察する。	190 分 90 分
第14回	【AL】『梁塵秘抄口伝集』断簡を調査する	事前 事後	『梁塵秘抄』についての事前調査を行う。 調査結果をまとめながら、文献史料調査の基本を定着させる。	140 分 140 分
第15回	前期総括—史料と日本音楽史	事前 事後	これまでの講義における諸問題を整理する。 日本音楽史における史料の意義について考察する。	130 分 150 分

フィードバック 各講義内の課題についての質疑応答や、課題の取り組みやその成果物に対し、添削・講評を付して返却し、相互に理解度を確認できるようにする。

成績評価 講義内の課題への取り組み姿勢（積極性、計画性、創造性、協調性、実行力等）30%、期末評価 40%、成果物 30%

テキスト 授業内プリント配布。
参照資料：日本音楽史研究所編『日本音楽史料叢刊 1』ほか、適宜紹介。

オフィスアワー 水曜 11:00-12:00 日本音楽史研究所 (2F)

アクティブ・ラーニング 講義で扱った楽器について各自 1 種を選択し、調査を行い、Youtube 内の演奏例を含め楽器紹介のプレゼンテーションを行う。
参加者は全員感想を述べる。平安時代の龍笛譜から音を復元し、現代雅楽との比較をグループで行う。

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

特殊講義（日本音楽史）-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS206

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／4 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日本音楽史研究は、史料の搜索および研究が前提となるが、とりわけ古代については近年様々な史料が発掘され、それに伴い、古代東アジア世界における文物の交流の様相が次第に明らかになりつつある。日本にどのような音楽史料が存在し、どう活用し得るのか。これまでの研究史の問題点を踏まえ、最新の成果を実践的に検証する。受講生の適正に応じ講義内容を調整する。
到達目標	音楽科教育における日本音楽史の基礎を形成する。日本にはどのような音楽史料があるのか、それぞれがどのような意味を持つのかについて、講義で得た知見を応用して自身で設定した課題に取り組むことができる。アジアの中の日本の位置を確認しながら、実証的音楽史研究について正しく認識し、講義で提示された問題点について考察を深めることができる。

授業計画		
第 1 回	歴史的存在としての音楽家—なぜ日本の歴史的音楽家の名を知らないのか	事前 明治維新以前の日本の音楽家を調べる。 120 分 事後 自国の歴史的音楽家に対する自身の知識について考察する。 160 分
第 2 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（1）奈良時代編—遣唐使	事前 奈良時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 60 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 220 分
第 3 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（2）平安時代編—殿上と地下	事前 平安時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 170 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 110 分
第 4 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（3）鎌倉・南北朝時代編—一家家	事前 鎌倉・南北朝時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 70 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 210 分
第 5 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（4）室町時代編—声明・猿楽・当道等	事前 室町時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 90 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 190 分
第 6 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（5）江戸時代編—箏・三味線・尺八等	事前 江戸時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 130 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 150 分
第 7 回	【AL】世界最古の音楽家の出演料を調べよう—東大寺文書	事前 世界における古い音楽家の出演料を調べる。 120 分 事後 古文書の音楽史的意義を考察する。 160 分
第 8 回	【AL】世界の印刷文化と日本の印刷楽譜—文明四年版（声明集）調査	事前 世界における古い印刷技術や印刷楽譜を調べる。 70 分 事後 上野学園大学日本音楽史研究所の音楽史的意義を考察する。 210 分
第 9 回	【AL】実地見学—職人の聖地浅草を歩く—宮本卯之助商店見学	事前 浅草の音楽文化史上の意義を調べる。 100 分 事後 浅草に現存する、江戸以来の音楽文化の意義について考察する。 180 分
第 10 回	【AL】楽器史料調査（1）楽器編成と楽器の構造変化を調べる	事前 唐楽における編成の変遷（打楽器）を調べる。 70 分 事後 調査結果をまとめながら、楽器調査の基礎を定着させる。 210 分
第 11 回	【AL】楽器史料調査（2）楽器の意匠とその意味を調べる	事前 唐楽における編成の変遷（管または絃楽器）を調べる。 100 分 事後 調査結果をまとめながら、楽器調査の基礎を定着させる。 180 分
第 12 回	【AL】音楽史料としての文学—作品に描かれた音楽場面	事前 古典文学作品に描かれた音楽場면을調べる。 100 分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 180 分
第 13 回	【AL】音楽史料としての文学—作品に描かれた音楽家	事前 古典文学作品に描かれた音楽家を調べる。 80 分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 200 分
第 14 回	【AL】音楽史料としての文学—作品に描かれた楽器	事前 古典文学作品に描かれた楽器を調べる。 80 分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 200 分
第 15 回	後期総括—日本音楽史は歴史学・美術史・宗教史・古典文学史とともにある	事前 これまでの講義で調査した様々な史料を振り返り、各々の観点を復習する。 120 分 事後 日本の音楽史料の豊富さと多様性について考察する。 160 分

フィードバック 各講義内の課題についての質疑応答や、課題の取り組みやその成果物に対し、添削・講評を付して返却し、相互に理解度を確認できるようにする。

成績評価 講義内の課題への取り組み姿勢（積極性、計画性、創造性、協調性、実行力等）30%、期末評価 40%、成果物 30%

テキスト 授業内プリント配布。
参照資料：日本音楽史研究所編『日本音楽史料叢刊 1』ほか、適宜紹介。

オフィスアワー 水曜 11:00-12:00 日本音楽史研究所（2F）

アクティブ・ラーニング 『日本の伝統音楽鑑賞ガイド』冊子を作成する。企画、分担執筆、編集、印刷業者の選定、入稿、配本までの一連のすべての作業をグループワークとして受講生のみが行う。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	□	□	☑	☑	□	□	□	□	□	□

特殊講義（音楽教育 A）-1

教授 山内雅子

科目コード: EDU201

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／4 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／4 年次生

形態：講義と討論

单位数：2 单位

概要	「人を教える」ということについて幅広い視点から考えていく。学校の音楽科教育に限らず、器楽でも声楽でも、あるいはスポーツやその他の領域、更に一般企業に就職しても「新人を育てる」ことは重要である。これまでの様々な師との出会い、オリンピックや国内外のスポーツ選手の成長、あるいは動物の調教と何が違うのか等、幅広い視点から検討し、これからの時代に求められる指導者像を考える。
----	--

到達目標	本学で学ぶ学生の一人一人が、卒業後の人生の中で、音楽を教えることに関わる可能性は大きい。個人レッスン、合唱団、社会教育の中の公民館でのサークル、学校の部活指導員、学校の非常勤講師、支援員、介助員他、「教える、育てる、支援する」ことに関わっていく際に、自分の理想とする「指導者像」をもって社会に出ていくことができるようにする。
------	---

授業計画	【AL】 始めの問題提起は教員が行い、資料を提示するが、基本的に学生が調べたり討論したりして主体的に考えを広げ、深めていくようにする。
------	--

第1回	オリエンテーション 「人を教えること」 について自由に思いを交流すると共に授業計画について検討する。	事前 「人を教えること」 に関して自分なりに考えてみる。	130 分
		事後 講義内容と討論した内容を振り返り、 今心にある自分の考えをメモしておく。	140 分
第2回	「音楽科教育」 において、「人を教えること」 ができる教師とは、 また確実に生徒を教えることができる音楽授業とは？。 講義とそれを受けて、それを踏まえて討論する。	事前 事前に配布された文章を読んでくる。	130 分
		事後 生徒が主体的・対話的に学びを深め、成長する授業が成立する条件をまとめる。	140 分
第3回	ピアノ、管楽器、打楽器等の個人レッスンにおいて「人を教えること」 とは？ 提案をもとに討論する。	事前 前時の学びを受けて、自身が幼い頃から現在に至るまで受けている指導を振り返る。	130 分
		事後 自身が受けた音楽に関する専門的な学びについて、その価値付けを行う。	140 分
第4回	学校の働き方改革が求められる今日であるが、学校の部活指導（吹奏楽部・合唱部）において「人を教えること」 とはどういうことか。 講義と討論から考えを深める。	事前 学校の働き方改革の中での部活動対策の現状について配布資料を読んでくる。	130 分
		事後 理想の部活動の姿、部活動に関わる教師の姿を自分の言葉で文字にしてみる。	140 分
第5回	学校教育において「獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかと予測されるこれからの時代の学力観について考える。	事前 これからの学力観について、配布資料を読んでくる。	130 分
		事後 授業中、討論の中で課題になったことについて、自分の考えをまとめる。	140 分
第6回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	①「大谷翔平が受けた教育と、大谷の生き様の関わり」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第7回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	②「羽生弓弦が受けた教育と、羽生の生き様の関わり」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第8回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	③「平野歩が受けた教育と、平野の生き様の関わり」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第9回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	④「鍵山優馬が受けた教育と、鍵山の生きざまの関わり」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第10回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	⑤「辻井伸行が受けた教育と、辻井の生き様の関わり」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第11回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	⑥「 が受けた教育と、 の生き様の関わり」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第12回	担当者は十分な準備を行いプレゼンテーションを行う。 それを受けて履修者全員で討論する。	事前 自分が設定した人物の生い立ちや受けた教育、現在の状況についてまとめる。	130 分
	⑦「動物の調教と人育て」とは何かが違うのか」	事後 友達の発表内容並びにそれをもとに考えたことについてまとめる。	140 分
第13回	将来、自分に子供ができたら、その子にどのような教育を受けさせたいか。 提案をもとに討論する。	事前 現在の幼児～小学生の習い事についての最新の調査結果を読み込んでくる。	130 分
		事後 現在の日本の習い事の状況について、自分なりの考えをもって文章にする。	140 分
第14回	これまで調べたり考えたり討論してきた「人を教えること」 ことから根拠を見出し、「これからの時代に求められる指導者像」 について討論する。	事前 これまで考えてきたことを見直していく。	130 分
		事後 「これからの時代に求められる理想の指導者像」 についてレポートを書く。	140 分
第15回	レポート課題を共有し、それぞれが考えから学びあう。	事前 「これからの時代に求められる理想の指導者像」 についてのレポートを提出する。	130 分
	学修のまとめ。 これからの音楽科教育について。 教育の不易と流行を考える。	事後 大きな時代の変化の中で、指導者に求められる資質の不易と流行を考える。	140 分

フィードバック	提出物はコメントを入れて返却する。 最終レポートは、評価して返却する	授業内での討論内容の価値づけと模擬授業と振り返りへのコメント、分析・考察へのコメントを行う。
---------	---------------------------------------	--

成績評価 事前学習課題の状況 (20%) プレゼンテーションの内容と考察 (30%) 授業中の討論の様子 (20%) 最終レポート課題 (30%)

テキスト ・ 随時、必要な資料や研究成果物は配布する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて Eメールにても随時対応する

備考 教職科目の履修者でなくても共に学びを深めていくことができる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒

特殊講義（音楽教育 A）-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU202

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／4 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽が得意な子供も苦手意識をもっている子供も、障害を有する子供も、全ての子供が他者と関わり合いながら、音楽活動を真に楽しみ、音楽的な基礎力を身に付け、音楽的成長と人間的成長を実現していく授業について、事例を分析しながら共に考えると共にワークショップで実際に体験する。
到達目標	授業担当者の研究専門分野である日本の伝統音楽・郷土の音楽の指導を通しての子供の変容とその根拠を、最新の研究成果も紹介しながら、「なぜ日本の子供が日本の音楽を教材として音楽活動をしたとき、どの子も大きく変容していくのか」をその指導法と共に理解する。
授業計画	提示した課題についての討論が中心となっており展開する授業であるが、実技も適宜取り入れていく。

第 1 回	オリエンテーション どの子供も生き生きと取り組む授業とは	事前 参観した授業や自分が受けた授業で生徒が生き生きと取り組んだ授業をまとめる。	180 分
第 2 回	事例研究 1 地域のお雛子の実践による子供の変容	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにメモしておく。	100 分
第 3 回	事例研究 2 能の謡の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
第 4 回	事例研究 3 民謡「斉太郎節」の実践による子供の変容	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 5 回	事例研究 4 唱歌を用いた和太鼓の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 6 回	事例研究 5 自国の音楽の価値や魅力を、自分の言葉で語ることのできる子供の育成 ～そこに至るまでの教材研究・教材作成・授業の仕掛け～	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
第 7 回	事例 1 ～ 5 の授業分析と考察	事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
第 8 回	ろう学校での音楽授業から学ぶ	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 9 回	特別支援教育での音楽授業から学ぶ	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 10 回	日本語を話す声での歌唱活動による音楽的・人間的成長の軌跡 ～音声スペクトルの変容から明らかにする～	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
第 11 回	自然で無理のない豊かで響きのある声で歌う子供の育成 ～山内の実践から、有効な指導法・子供の声が変容した「点」について～	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 12 回	「自然で無理のない豊かで響きのある声」とは音声生理学的にどのような声か ～最新の研究成果より～	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
第 13 回	世界の民俗音楽の授業実践「箏のルーツを探ろう」より	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 14 回	全ての子供が輝き、成長する音楽授業を実践するために必要な教師の資質・能力を考える。	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
第 15 回	学修を振り返り、最終レポートを執筆する。	事前 特殊講義学びを振り返り、事前に与えられたテーマについて考えてくる。	200 分
		事後 教員のコメントが記載された最終レポートを読み直し、教職への理解を更に深める。	80 分

フィードバック 日々の授業は、提示した課題の検討となる。授業の中でフィードバックを行う。

成績評価 授業に臨む姿勢・発言（50％） 最終レポート（50％）

テキスト ・毎時間、必要な資料を配付する。

オフィスアワー 授業の前夜に対応する。E メールでの相談にも随時応じる。

備考 教職科目を履修していない学生も共に学んでいくことができる内容である。
和楽器や伝統的歌唱の実技も取り入れながら、授業を展開していく。

学位授与の方針との関連														
授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☑	☐	☑	☐	☑	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☑	☐

特殊講義（ビジネス経営論）-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MGT203

対象コース／専門／学年：器楽・GLA・演奏家コース／全専門／4年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	現代日本の音楽教育者にとって、西洋音楽史の理解は不可欠となっている。ただし、なぜそうであるのか、あるいはそうある必要性の如何について、その根底から改めて問うことは、実は十分になされていないのではなからうか。本科目では一方的な知識供与ではなく、受講者各人が自由で素朴な観点から意見を出し合い、現代の文明社会と西洋文化史・音楽史との相関について捉え直す場とする。
到達目標	西洋文化史の一角を成す音楽史を各人が自由に再編することで、受講者一人一人が音楽教授者として将来家庭や学校、さまざまな場面で音楽を教える際の礎とすると同時に、なぜ自分が音楽を演奏するのか、あるいは教えるのか、なにをどのように教えるのかを構想し、自身の考えを受講者同士で分かち合う場とする。

授業計画

第1回	音楽教育理念の古今東西・古代文明の音楽史料	事前 事後	シラバスを熟読し、各回の事前学習について準備を進める。 それぞれの音楽史料から何がわかるのかを自分なりにまとめる。	140分 140分
第2回	中世 教会音楽と世俗音楽 単旋から多声へ スコラ・カントルム、半音はどこか？	事前 事後	ノートルダム楽派、マショー、ランディエーニの曲を聴いておく。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第3回	近世 ルネサンス 大航海時代の国際化と楽器の多様化 宗教改革と楽譜印刷	事前 事後	ブルゴーニュ楽派、フランドル楽派、ヴェネツィア楽派の曲を聴いておく。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第4回	近世 バロック 対比による感情表現 モノディーと通奏低音 フィレンツェの盛儀とオペラ ヴェネツィアのサンマルコ大聖堂の複合唱とビエタ	事前 事後	カッチーニ、モンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、バッハの曲を聴いておく。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第5回	近世 バロック 楽器と音楽 演奏習慣と記譜について	事前 事後	コレリ、F.クープラン、テレマンの器楽曲を聴いておく。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第6回	近世 古典派 「古典派」を創ったのは誰？ 啓蒙思想・市民革命と音楽 ハイドンとモーツァルト バリ音楽院 宮廷楽師から家庭教師へ	事前 事後	ハイドン、モーツァルトの曲を聴き、自分の印象を書き留める。 古典派に特徴的なジャンルとその理由をまとめておく。	140分 140分
第7回	近世 古典派からロマン派へ ベートーヴェン 19世紀音楽の温床	事前 事後	ベートーヴェンの曲を聴き、自分の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第8回	近代 ロマン派 文学と音楽 ドイツ・リートの確立 シューベルトの悩み	事前 事後	シューベルトの歌曲を聴き、自分の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第9回	近代 ロマン派 シューマンとショパン ショパンのピアノ・レッスン	事前 事後	シューマン、ショパンの曲を聴き、自分の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第10回	近代 ロマン派 ベルリオーズ 標題音楽と『管弦楽法』	事前 事後	ベルリオーズの曲を聴き、自分の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第11回	近代 ロマン派 政治とオペラ ヴェルディとヴァーグナー	事前 事後	ヴェルディ、ワグナーの代表的オペラ作品を聴き、自身の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第12回	近代 世界地図の再編と民族主義の音楽	事前 事後	国民楽派の曲を聴き、自分の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第13回	「近代フランス音楽」とは何か フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルという規範（カノン） 普仏戦争後から第一次世界大戦へ——ロマン派から印象主義、そしてその後——	事前 事後	フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルの作品について、自身の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第14回	現代（20世紀） 世界大戦と音楽家 バルトークほか	事前 事後	バルトーク・ベールの代表的作品を調べて聴き、自身の印象を書き留める。 取り上げられた話題について自分がどう生かせるかをまとめる。	140分 140分
第15回	現代の日本 「西洋音楽」の作曲家？ 明治維新・戦後の音楽科 伊沢次徳、諸井三郎とトレナー少佐、実験工房	事前 事後	武満徹・福島の代表的作品を調べて聴き、自身の印象を書き留める。 これまでの授業を振り返り、自分なりの音楽史を作成する。	140分 140分

フィードバック 主として授業時間内の意見交換について、その場でフィードバックする。授業時間以外の質問や意見は常時メールで受け付け、逐次返信する。

成績評価 授業時間の主体的参加（意見交換）、各時間の小クイズやミニレポート（以上、平常点 40%）
 期末レポート（60%）

テキスト 『山川 詳説世界史図録（第4版）』木村靖二・岸本美緒・小松久男監修、山川出版社（2021年第4版）定価946円
その他、講義時の配布資料。

主要参考文献は 『西洋音楽の歴史』(高橋浩子ほか著、東京書籍、1996年)、坂崎紀『西洋音楽史 譜例と解説』アカデミア・ミュージック(1998年)。

その他の参考文献は講義時に紹介する。

オフィスアワー 水曜日 11:00-12:00 日本音楽史研究所

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会、自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・3科	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☑	☐	☐

特殊講義（ビジネス経営論）-2

形態：講義と討論

単位数：2 単位

概要

【丸山】本授業では、世界の伝統音楽の中から、ミャンマーとインドの古典音楽を取りあげ、それぞれの音楽ジャンルの音楽的特徴とその背後にある文化の特色について考察する。楽器に触れて音を鳴らす時間を取り入れることによって、それぞれの音楽ジャンルの特色を身体で感じ取ることができる授業を目指す。

【佐野】音楽ビジネス経営において、重要な柱のひとつであるマーケティングを主に学修します。すぐに使えるスキルを身につけるために、ある演奏会企画に対してマーケティング戦略や計画を考え、それらを反映させたビジュアルや宣伝材料などコミュニケーションツール制作に活かす経験を積みます。

【山内】世界の公教育の現状、多様な公教育への考え方、世界に通用する人材育成に携わってきたゲスト、卒業しても更に学びを続け、自己実現を果たしている先輩の講和、今の子供たちの習い事の現状等を基に討論し、自身の考えを記述することを通して考えを深める。

到達目標

【丸山】ミャンマーとインドの古典音楽という、普段あまり馴染みがない音楽について学ぶことを通して、世界の音楽の多様性を理解する。演奏する時の身体のあり方が、鳴り響く音とどのように関わっているのかについて、実技の基礎を学ぶことを通して自分なりに考察することができるようになる。

【佐野】企画に必要なリサーチスキルと、想いを伝えるためのマーケティング思考力、行動力を身につけることを到達目標とする。

【山内】世界の公教育の現状を知ることを通して、自身が受けてきた日本の公教育の意義を改めて考えと共により、ゲストの講和等を通して多様な「教育」を知り、教育観を広げ、教育への意識を高くもって社会に出ていくことができるようにする。

授業計画			
【AL】			
第 1 回	オリエンテーション&ミャンマーの音楽文化概観	事前 シラバスを読んで、授業の概要と目標を理解する。 事後 レジュメに記した URL ページで参考動画を視聴し、理解を深める。	120 分 160 分
第 2 回	ミャンマー古典音楽（2）リズム楽器「スィーワー」による拍子の取り方	事前 前回の授業のレジュメを読み直し、疑問点について調べる。 事後 レジュメに記した URL ページで参考動画を視聴し、理解を深める。	120 分 160 分
第 3 回	ミャンマー古典音楽（3）パッター（竹琴）の演奏技法	事前 前回の授業のレジュメを読み直し、疑問点について調べる。 事後 レジュメに記した URL ページで参考動画を視聴し、理解を深める。	120 分 160 分
第 4 回	インド古典音楽（1）インドの音楽文化概観	事前 インドの音楽文化について調べ、疑問点についてまとめる。 事後 レジュメに記した URL ページで参考動画を視聴し、理解を深める。	120 分 160 分
第 5 回	インド古典音楽（2）タブラー（太鼓）の演奏技法	事前 前回の授業のレジュメを読み直し、疑問点について調べる。 事後 レジュメに記した URL ページで参考動画を視聴し、理解を深める。	120 分 160 分
第 6 回	マーケティングの基礎知識を学ぶ 4P/4C/経験価値/プロダクト志向・カスタマー志向	事前 過去どのような演奏会の体験がよかったかを言語化し、プレゼン準備する 事後 過去自分の体験した演奏会の分析を試みる	100 分 170 分
第 7 回	既存の演奏会企画をマーケティング視点から分析する 前回の授業で学修したフレームワークを使ったマーケティング分析とリサーチの方法	事前 分析結果の発表の準備をする 事後 過去体験した演奏会に関連したマーケティングリサーチをおこなう。	100 分 170 分
第 8 回	小プロジェクトとマーケティングリサーチの実施 課題の実施に必要なリサーチを実施した上で、マーケティング基本戦略を立てる。	事前 小課題に関連したマーケティングリサーチをおこなう。 事後 自分なりのマーケティング戦略を立てる	100 分 170 分
第 9 回	マーケティング基本戦略をコミュニケーションツールに落とし込む チームでプレスリリース作成・チラシ作成をおこなう。	事前 プレスリリース・チラシを作成する 事後 プレスリリース・チラシの修正をする	100 分 170 分
第 10 回	プレゼンテーション 仮想的なプレス発表会をおこなう。	事前 プレゼンテーションの準備をする 事後 指摘を受けた箇所の修正をし、最終版として提出する	100 分 170 分
第 11 回	公教育の意義を考える レクチャーと討論	事前 事前配布資料を読んで、考えてくる。 事後 レクチャーと討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	130 分 140 分
第 12 回	世界に通用する「人材教育」を知る 元ホテルオークラ総支配人・フューネラル・グランコ ンシェルジュ評価認定委員 立花 真氏のレクチャーと討論	事前 事前配布資料を読んで、考えてくる。 事後 レクチャーと討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	130 分 140 分
第 13 回	大学を卒業してからの仕事・学び・夢 ～GLA の先輩を招いて～	事前 事前配布資料を読んで、考えてくる。 事後 レクチャーと討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	130 分 140 分
第 14 回	医師・作曲家 相田純久氏の歩みから学ぶ お話と質疑応答 教育サービス産業の現状と課題 ～お稽古事で子供が育つもの～ 資料提供と討論	事前 事前配布資料を読んで、考えてくる。 事後 レクチャーと討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	130 分 140 分
第 15 回	次の世代の子供たちが平和で幸せに生きていくために「教育」に期待されていること レクチャーと討論	事前 事前配布資料を読んで、考えてくる。 事後 レクチャーと討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	130 分 140 分

フィードバック 【丸山】授業の中で質疑応答の時間をとる。提出されたレポートの内容について、フィードバックする。
【佐野】事前・事後学修のアウトプットに対してコメントを行う。
【山内】提出物はコメントを入れて返却する。 授業内での討論に対しては適切にコメントする。

成績評価

3 名の教員により総合的に評価する。

【丸山】レポート 50％ 授業中のコメントおよび参加姿勢 50％
【佐野】プレゼンテーション課題（80％）、授業態度 20％
【山内】授業中の討論の状況（30％） 毎回のレポート課題の内容（70％）

テキスト

【丸山】参考文献については授業中に適宜紹介する。
【佐野】必要に応じてプリントを配布する
【山内】必要に応じて、資料を配布する。

オフィスアワー 【丸山】授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。hiromaru886@hotmail.com または ball.60000622@mail.uenogakuen.ac.jp
【佐野】研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）
【山内】授業開始前又は授業終了後 教室にて E メールにてても随時対応する

備考

教職科目の履修者でなくても共に学びを深めていくことができる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐		☑

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	「伝わるシンプルな英語」の習得を目指し、正確に速く伝わる文章を「3 語」で表現する組み立ての方法論を学びます。教科書は予習を前提に、授業では解説と応用、そして練習本のテキストを使ってアウトプットを練習することに時間を使います。これまでなかなかしゃべることが難しいと感じていた人にも、テンプレートを使いながらシンプルに意思を伝えることを目指します。
到達目標	日本人にありがちな英語を「3 語の英語」に組み立て直す練習を通して、英語が楽になり、話すことが楽しくなることを目指します。また主に動詞を強化する英文法が身につきます。英語で伝えるための基本を習得します。

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション、授業概要と教材の解説。進め方	事前 教科書の目次を読み、内容をつかむ 事後 練習本の予習をする	60 分 210 分
第 2 回	Chapter 1 「日本人の英語」が伝わらない理由① 「3 語」で話すための 10 のコツ①	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 3 回	Chapter 1 「日本人の英語」が伝わらない理由② 「3 語」で話すための 10 のコツ②	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 4 回	Chapter 1 「日本人の英語」が伝わらない理由③ 練習本 Chapter 1 自分・家族・友人のことを話してみよう①	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 5 回	Chapter 2 「3 語の英語」は動詞が決め手① 練習本 Chapter 1 自分・家族・友人のことを話してみよう②	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 6 回	Chapter 2 「3 語の英語」は動詞が決め手② 練習本 Chapter 1 自分・家族・友人のことを話してみよう③	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 7 回	Chapter 2 「3 語の英語」は動詞が決め手③ 練習本 Chapter 2 見たまま、感じたまま何でも話してみよう①	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 8 回	Chapter 3 「3 語の英語」の組み立てパターン① 練習本 Chapter 2 見たまま、感じたまま何でも話してみよう②	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 9 回	Chapter 3 「3 語の英語」の組み立てパターン② 練習本 Chapter 2 見たまま、感じたまま何でも話してみよう③	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 10 回	Chapter 3 「3 語の英語」の組み立てパターン③ 練習本 Chapter 2 見たまま、感じたまま何でも話してみよう④	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 11 回	Chapter 3 「3 語の英語」の組み立てパターン④ 練習本 Chapter 3 日本の魅力を伝えよう①	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 12 回	Chapter 3 「3 語の英語」の組み立てパターン⑤ 練習本 Chapter 3 日本の魅力を伝えよう②	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 13 回	Chapter 3 「3 語の英語」の組み立てパターン⑥ 練習本 Chapter 3 日本の魅力を伝えよう③	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 14 回	Chapter 1-3 までのふりかえり 練習本 Chapter 3 日本の魅力を伝えよう④	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	90 分 180 分
第 15 回	試験とフィードバック	事前 試験の準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	180 分 90 分

フィードバック 授業では予習してきた内容を問う形で進めるので、その際にフィードバックをおこなう。

成績評価 期末試験 60% 小課題 20% 会話練習など授業態度 20%

テキスト 中山裕木子『会話もメールも英語は 3 語で伝わります』ダイヤモンド社
中山裕木子『英語は 3 語で伝わります【どんどん話せる練習英文 100】』ダイヤモンド社

オフィスアワー 研究室にて （事前に Email にて連絡が望ましい。ball60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

アクティブ・ラーニング プレゼンテーション、プロジェクト型学習、ワークショップ型アプローチ

備考 両方の教科書を毎回使用します。

学位授与の方針との関連														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐

准教授 佐野直哉

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：講義

单位数：2 单位

概要	前期に引き続き「伝わるシンプルな英語」の習得を目指し、正確に速く伝わる文章を「3語」で表現する組み立ての方法論を学びます。教科書は予習を前提に、授業では解説と応用、そして練習本のテキストを使ってアウトプットを練習することに時間を使います。これまでなかなかしゃべることが難しいと感じていた人にも、テンプレートを使いながらシンプルに意思を伝え
----	--

到達目標	日本人にありがちな英語を「3語の英語」に組み立て直す練習を通して、英語が楽になり、話すことが楽しくなることを目指します。また主に動詞を強化する英文法が身につきます。英語で伝えるための基本を習得します。
------	--

授業計画

第1回	前期の復習と後期の授業内容についてのオリエンテーション	事前 教科書の目次を読み、内容をつかむ	60 分
		事後 練習本の予習をする	210 分
第2回	Chapter 4 「3語の英語」に情報を足していく① 練習本 Chapter 4 仕事の話で深めよう①	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第3回	Chapter 4 「3語の英語」に情報を足していく② 練習本 Chapter 4 仕事の話で深めよう②	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第4回	Chapter 4 「3語の英語」に情報を足していく③ 練習本 Chapter 4 仕事の話で深めよう③	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第5回	Chapter 4 「3語の英語」に情報を足していく④ 練習本 Chapter 4 仕事の話で深めよう④	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第6回	Chapter 5 実践「3語で伝える」ために、ここはバサッリ捨てましょう① 練習本 Chapter 5 気持ちと要求を伝えよう①	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第7回	Chapter 5 実践「3語で伝える」ために、ここはバサッリ捨てましょう② 練習本 Chapter 5 気持ちと要求を伝えよう②	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第8回	Chapter 5 実践「3語で伝える」ために、ここはバサッリ捨てましょう③ 練習本 Chapter 5 気持ちと要求を伝えよう③	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第9回	復習：主語と動詞で組み立てる① SVO を中心に	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第10回	復習：主語と動詞で組み立てる② SV と SVC も活かそう	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第11回	復習：組み立てを円滑にする動詞の決まりごと① 時制・態の選択、助動詞ほか	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第12回	復習：組み立てを円滑にする動詞の決まりごと② 時制・態の選択、助動詞ほか	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第13回	復習：組み立てを強化するお助けアイテム① 冠詞、前置詞、副詞ほか	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第14回	復習：組み立てを強化するお助けアイテム① 冠詞、前置詞、副詞ほか	事前 教科書の該当箇所を予習する	90 分
		事後 学修箇所を改めて復習し、小課題テストに備える。	180 分
第15回	試験とフィードバック	事前 試験の準備をする	180 分
		事後 理解不足の箇所を復習する	90 分

フィードバック 授業では予習してきた内容を問う形で進めるので、その際にフィードバックをおこなう。

成績評価 期末試験 60% 小課題 20% 会話練習など授業態度 20%

テキスト 中山裕木子『会話もメールも英語は3語で伝わります』ダイヤモンド社
中山裕木子『英語は3語で伝わります【どんどん話せる練習英文100】』ダイヤモンド社

オフィスアワー 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

アクティブ・ラーニング プレゼンテーション、プロジェクト型学習、ワークショップ型アプローチ

備考 両方の教科書を毎回使用します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐

イタリア語Ⅱ-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR205

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	イタリア語の中級文法を学ぶ。初級の学習を終えた学生を対象とする。 初級文法を復習・補足しながらさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	初級文法をより完全なものにすること、受動態、最上級・比較級、関係詞といった中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画	履修生のレベルに即した配布教材を使いながら授業を進める。
------	------------------------------

第 1 回	オリエンテーション（授業概要、成績評価に関する説明ほか） 初級イタリア語の復習・補足（挨拶とアルファベート）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、挨拶とアルファベートの復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	初級イタリア語の復習・補足（名詞と冠詞、形容詞、所有形容詞）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、名詞と冠詞、形容詞、所有形容詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 3 回	初級イタリア語の復習・補足（動詞 - 規則活用・不規則活用）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、動詞 - 規則活用・不規則活用の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 4 回	初級イタリア語の復習・補足（補助動詞）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、補助動詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 5 回	初級イタリア語の復習・補足（再帰動詞と代名動詞、直接・間接補語人称代名詞）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、再帰動詞、直接・間接補語人称代名詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 6 回	初級イタリア語の復習・補足（近過去）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、近過去の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 7 回	初級イタリア語の復習・補足（半過去）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、半過去の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 8 回	初級イタリア語の復習・補足（未来形）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、未来形の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 9 回	受動態（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 10 回	受動態（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 11 回	比較級・最上級（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 12 回	比較級・最上級（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 13 回	関係詞（che）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 14 回	関係詞（che）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 15 回	第 9-14 回のまとめ	事前 事後	第 9-14 回の復習 授業内容の復習、期末試験準備	120 分 150 分

フィードバック	期末試験については解説を行う。
---------	-----------------

成績評価	主に期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。 【評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】
------	--

テキスト	毎回教材を配布する。 イタリア語Ⅰで使用した教科書（マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語ははじめの一步 ―』（朝日出版社））も使う。
------	--

オフィスアワー	質問や相談等は原則、授業時間内に受付ける。
---------	-----------------------

備考	イタリア語Ⅰからの継続講義となるので、イタリア語Ⅰの単位取得者を対象とする。 イタリア語の辞書を購入することが望ましい。辞書については初回の授業で紹介する。
----	---

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□	

イタリア語Ⅱ-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR206

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	イタリア語の中級文法を学ぶ。イタリア語Ⅱ-1 からの継続講義。 イタリア語Ⅱ-1 の学習内容をふまえた上でさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	動詞の用法（ジェルンディオ、条件法、接続法）を中心とする中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画	履修生のレベルに即した配布教材を使いながら授業を進める。
------	------------------------------

第 1 回	受動態、比較級・最上級、関係詞（che）の復習	事前	イタリア語Ⅱ-1 の配布資料を使い、受動態、比較級・最上級、関係詞（che）の復習	120 分
		事後	授業内容の復習	150 分
第 2 回	関係詞（cui ほか）（解説）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で解説された箇所の復習	150 分
第 3 回	関係詞（cui ほか）（演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で演習した箇所の復習	150 分
第 4 回	ジェルンディオ（解説）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で解説された箇所の復習	150 分
第 5 回	ジェルンディオ（演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で演習した箇所の復習	150 分
第 6 回	条件法（条件法現在）（解説）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で解説された箇所の復習	150 分
第 7 回	条件法（条件法現在）（演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で演習した箇所の復習	150 分
第 8 回	条件法（条件法過去）（解説）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で解説された箇所の復習	150 分
第 9 回	条件法（条件法過去）（演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で演習した箇所の復習	150 分
第 10 回	接続法（接続法現在）（解説）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で解説された箇所の復習	150 分
第 11 回	接続法（接続法現在）（演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で演習した箇所の復習	150 分
第 12 回	接続法（接続法過去時制）（解説）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で解説された箇所の復習	150 分
第 13 回	接続法（接続法過去時制）（演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業で演習した箇所の復習	150 分
第 14 回	接続法（仮定文）（解説、演習）	事前	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認）	120 分
		事後	授業内容の復習	150 分
第 15 回	第 2-14 回のまとめ	事前	第 2-14 回の復習	120 分
		事後	授業内容の復習、期末試験準備	150 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 10％、期末試験 90％】

テキスト 毎回教材を配布する。
イタリア語Ⅰ で使用した教科書（マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』（朝日出版社））も使う。

オフィスアワー 質問や相談等は原則、授業時間内に受付ける。

備考 イタリア語Ⅱ-1（前期）からの継続講義となるので、イタリア語Ⅱ-2 の単位取得者を対象とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□

心理学 1&2（合同クラス）

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT101／NAT102

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態： 講義

単位数 2 単位

概要 心理学は、心について科学的に理解しようとする経験科学であり、私たち自身や他者の心や行動についての理解に有益な知見を提供してくれる。「心理学 1 & 2」では、心理学の日常的なテーマについて、何がどこまでわかっているかを講じる。基礎・応用の研究を広く俯瞰するとともに、心理学の歴史と未来についても学び考える。

到達目標 授業目標は、心理学の基礎と応用分野を広く俯瞰し、重要な諸知見について学ぶ。そして社会に出てからも有益な心理学の全体像を身につけ、人間理解を深めることである。特に、性格/パーソナリティ、発達、健康、社会心理についての理解は、教員志望の学生には重要である。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：心理学とはなにか〜基礎と応用の領域	事前 教科書はしがきを読む。 20 分 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 2 回	臨床心理学：歴史、理論、活動	事前 教科書第 9 章を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 3 回	パーソナリティ（1）：性格の理論と発達	事前 教科書第 8 章の前半を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 4 回	パーソナリティ（2）：性格の測定と診断	事前 教科書第 8 章の後半を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 5 回	社会的行動（1）：自己と他者	事前 教科書第 10 章の前半を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 6 回	社会心理学（2）：対人認知と対人行動	事前 教科書第 10 章の後半を読む 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 7 回	健康心理学（1）：ストレス対処法	事前 各自のストレス対処法について考えておく 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 8 回	健康心理学（2）：感情と健康	事前 プリントを読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 9 回	発達心理学（1）：乳幼児期	事前 教科書第 6 章第 1〜3 節を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 10 回	発達心理学（2）：児童・青年期	事前 教科書第 6 章第 4 節以降を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 11 回	知覚・認知・記憶（1）：知覚のシステム	事前 教科書第 1 章前半を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 12 回	知覚・認知・記憶（2）：記憶のしくみ	事前 教科書第 1 章後半を読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 13 回	芸術心理学を学ぶ：美術・音楽・詩歌	事前 プリントを読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 14 回	心理学の歴史：心はどう探究されてきたか	事前 プリントを読む。 60 分 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 15 回	まとめ：心理学の未来	事前 授業ノート全体を見直しておく 80 分 事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る 20 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 相馬寿明（編著）『心理学 For you』八千代出版
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後、教室にて対応する。

備考 この授業では心理学の主要な領域を中心に広範囲な内容を学ぶ。パーソナリティ理論、ストレス対処法、対人認知/対人行動などは自分や他者の客観的理解に役立つはずである。授授業の進度等によっては内容の順序が前後することもあり得る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑

ドイツ文化と芸術

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：HUM203

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	ドイツ文化と芸術を、音楽の領域を中心に据えて様々な角度から考察する。毎回の授業にしっかり取り組み、その時間に得たもの、考えたことなどを、授業後に書く小文の内容に反映させる。

到達目標	概要欄に記した考察をとおして、広く音楽を学ぶにあたっての、また作品を演奏するにあたっての礎を築く一助となることを目標とする。
------	--

授業計画	基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個々人によって異なる（基準：各回 270 分）。
------	--

第 1 回	講義のガイダンスと問題提起	事前	ドイツ文化を自分はどう捉えているかを考える。	135	分
		事後	ドイツ文化とされるものに、自分が関わる音楽を関係づけて考える。	135	分
第 2 回	ドイツ・オーストリアの文化史と音楽（中世）	事前	配布資料の中世部分を一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 3 回	ドイツ・オーストリアの文化史と音楽（中世―近世）	事前	配布資料の中世―近世部分を一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 4 回	ドイツ・オーストリアの文化史と音楽（近世―現代）	事前	配布資料の近世―現代部分を一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 5 回	ドイツの作曲家とオーストリアの作曲家 / ヴィーンと作曲家たち	事前	自分の知っているドイツおよびオーストリアの作曲家を確認する。	135	分
		事後	ウィーンという都市の音楽上の特性を確認する。	135	分
第 6 回	詩の韻律とリート 総論	事前	自分が演奏したことのあるリート、鑑賞したことのあるリートを確認する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 7 回	詩の韻律とリート ①古典派以前・古典派の詩によるリートの場合	事前	取り上げる詩①の対訳を一読する。	135	分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135	分
第 8 回	詩の韻律とリート ②ゲーテの詩によるリートの場合(1)	事前	取り上げる詩②の対訳を一読する。	135	分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135	分
第 9 回	詩の韻律とリート ③ゲーテの詩によるリートの場合(2)	事前	取り上げる詩③の対訳を一読する。	135	分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135	分
第 10 回	詩の韻律とリート ④ロマン派の詩によるリートの場合	事前	取り上げる詩④の対訳を一読する。	135	分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135	分
第 11 回	詩の韻律とリート ⑤ロマン派後の詩によるリートの場合	事前	取り上げる詩⑤の対訳を一読する。	135	分
		事後	詩について学びリートを鑑賞した結果、自分の演奏等に参考になる点を確認する。	135	分
第 12 回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ① W・A・モーツァルト作曲「後宮からの誘拐」(前半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 13 回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ② W・A・モーツァルト作曲「後宮からの誘拐」(後半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 14 回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ① A・ベルク作曲「ヴォツェック」(前半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分
第 15 回	オペラのテキストに含まれる諸テーマ ② A・ベルク作曲「ヴォツェック」(後半)	事前	該当部分のあらすじを一読する。	135	分
		事後	授業を通じて関心を持った点について、書物にあたるなどして知識を広げ、考えを深める。	135	分

フィードバック 前回の講義内容を確認し、必要に応じて小文の内容にコメントを加えることによりフィードバックする。

成績評価 毎時間、小文を書いてもらい、それを成績判定の基準とする。

テキスト 必要に応じて参照資料を配布する。

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐

ピアノ教育法

教授 山崎紫乃／准教授 星子知美／准教授 干野宜大

科目コード：EDU403

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4 年次、GLA コース／音楽教育専門／4 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	【星子】ピアノ学習者の年齢層、学習環境、目的などは年々多様化しており、指導にも柔軟性や工夫が必要となってきた。この授業では様々なケースについて留意点を整理し問題解決法を考案しながら、指導の可能性について考える。 【山崎】アンドラゴジー（成人教育）についての考え方を学び、それをどのようにピアノ教育に生かしていけるかを様々な角度から考える授業である。 【干野】自信を持って後進へのアドヴァイスが出来るように、楽譜の中の作曲家のメッセージを的確に読み取れるように考え研究していく。

到達目標	【星子】ピアノ教育についての知識を会得し、自ら考察して、実践的なピアノ指導の力を養う。 【山崎】少子高齢化が進む中、高齢になってからピアノを始める人も増えている。また、大人を対象とした教室は生徒数を増やしている。子供とは違った工夫も必要な大人に対する指導について、様々な角度から考え、その指導力を養う。 【干野】音楽やピアノへの親しみや喜びを後進に伝えるという事は、ピアノ教育導入時を含め大きな責任をとまなう。しっかりとした理由と音楽への理解を指導者が持っている事の大切さの認識と自覚を授業を通して養っていく。
------	---

授業計画

第 1 回	【星子】ピアノ教育の留意点と導入・初心者の指導	事前 自分が受けてきたピアノ教育について様々な視点で考え、使用した教材を見直す 事後 指導者の役割、教育の目的について考える	135 分 135 分
第 2 回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究①幼児	事前 幼児の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分 135 分
第 3 回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究②中級	事前 中級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分 135 分
第 4 回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究③上級	事前 上級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分 135 分
第 5 回	【星子】ピアノ教室開室と運営	事前 ピアノ教室開室と運営の方法と可能性を考えておく 事後 これまでの授業をふり返り、指導の可能性をまとめる	135 分 135 分
第 6 回	【山崎】大人に対するピアノ教育の現状	事前 事後 復習をしておく	 280 分
第 7 回	【山崎】身体的方面からの指導の工夫と留意点と アンドラゴジーの考え方について	事前 前回の授業内容の確認 事後 復習をしておく	140 分 140 分
第 8 回	【山崎】教材研究 検証と考察	事前 前回までの授業内容を確認しておく 事後 グループごとに、次の授業で発表する内容をまとめておく	140 分 140 分
第 9 回	【山崎】教材研究 発表と議論	事前 グループごとに、発表内容の確認 事後 他のグループの意見を踏まえ、各グループの考察内容をまとめる	140 分 140 分
第 10 回	【山崎】大人のピアノ教育における可能性	事前 これまでの授業を踏まえ、自らの意見を考えておく 事後 授業の復習と、自分なりの意見をまとめる	140 分 140 分
第 11 回	【干野】音楽との出会い：年齢に合わせたサポート方法を探る 奏法（力の伝達等）の指導法について	事前 事後 講義後に授業で扱った楽曲、又は自分が勉強中の楽曲で実践する	 280 分
第 12 回	【干野】音楽上の文法(1) の理解	事前 講義前に伝えた楽曲の楽譜を準備し、予習する 事後 講義内容の復習と演奏上でそれがどう反映するかを確認する	140 分 140 分
第 13 回	【干野】音楽上の文法(2) の指導法を考える	事前 前回の講義で理解した事を第三者にどのように伝えられるかをシミュレーションする 事後 講義前にシミュレーションした指導法が的確であったかどうかを考える	140 分 140 分
第 14 回	【干野】楽譜を読み解く：作曲家の意図、理由と方法を導く	事前 講義前に伝えた楽曲の楽譜を用いて第3回までの内容を復習する 事後 講義で扱った楽曲をより多面的な楽譜の読み方を試み理解する	140 分 140 分
第 15 回	【干野】教材研究とまとめ	事前 実践的なレッスンをシミュレーションし、アドヴァイスすべき内容がある程度決めておく 事後 全5回の講義の内容をまとめ、自らのピアノ実技に役立てていく	140 分 140 分

フィードバック	【星子】授業での課題とレポートについて、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。 【山崎】授業内で書いたレポートに対し、コメントによりフィードバックする。 【干野】レポート（全5回の講義を経て学んだ事について）を課し、コメントによりフィードバックする。
---------	---

成績評価	※山崎教授、星子准教授、干野准教授による総合評価。 授業への取り組み方、授業態度等による。
------	--

テキスト	【星子】随時授業内で発表 【山崎】必要に応じてプリントを配布する 【干野】その都度例に取り上げる楽曲を発表
------	---

オフィスアワー	授業終了後教室にて
---------	-----------

アクティブ・ラーニング	ピアノレッスンにおいて想定できる問題点について、どのように対処できるか、その方法・可能性を少人数制のグループごとに考察・発表
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	☑		☑

オーケストラⅠ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS120／ENS219

ENS319／ENS416

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／4 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいて個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画 オーケストラ演奏技術の習得のみならず、作品への深い理解と知識を通して、常に創造的なイメージを持って、楽曲に取り組む。今年度演習予定曲は、昨年度に引き続きウィーン古典派のベートーヴェンの交響曲第 7 番 イ長調 Op.92 とウィーン古典派の先達である W.A. モーツァルトの後期 3 大交響曲の一つである交響曲第 39 番 変ホ長調 K.543 を中心としたプログラムで演奏会（11/24）を予定している。それ以外の授業での曲目は後日、掲示で伝達する。

第 1 回	ガイダンス ベートーヴェン譜読み	事前 今年度取り上げる楽曲に関しての知識を習得しておく。	50 分
		事後 ガイダンス中でのオーケストラ授業履修で心掛けること他、注意ポイントを再度確認、認識する。	50 分
第 2 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番 全体把握	事前 ベートーヴェン（交響曲）ポイント把握、作品に関しての知識を習得しておく。	50 分
		事後 作品全体を俯瞰した今回の授業での問題点を認識、復習をする。	50 分
第 3 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番（第 1,2 楽章）	事前 前回、大きく概観した作品の中、今回授業で取り上げる第 1,2 楽章での技術課題の予習、練習をする	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 4 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番（第 3,4 楽章）	事前 交響曲（第 3,4 楽章）での技術課題の予習、練習をする。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 5 回	分奏（ベートーヴェン：交響曲第 7 番）	事前 弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50 分
		事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 6 回	W.A. モーツァルト：交響曲第 39 番 変ホ長調 K.543	事前 楽曲に関しての知識を習得しておく。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 7 回	W.A. モーツァルト：交響曲第 39 番 変ホ長調 K.543	事前 技術課題の予習、練習をする。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 8 回	W.A. モーツァルト：交響曲第 39 番 変ホ長調 K.543	事前 技術課題の予習、練習をする。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 9 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習する。	50 分
		事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 10 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習をする。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 11 回	分奏（ベートーヴェン）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 12 回	分奏（モーツァルト）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 13 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番	事前 前週の分奏での課題を合奏で確認する。	50 分
		事後 セクションごとの問題点、課題を復習する	50 分
第 14 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番	事前 これまでの練習内容を復習する。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 15 回	ベートーヴェン：交響曲第 7 番	事前 これまでの練習内容を復習する。	50 分
		事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度定期演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア（予め各自で用意しておくこと）
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
(入手し難いスコアの関しては、相談すること)

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

オーケストラⅠ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS121／ENS220

ENS320／ENS417

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／4 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいての個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

第 1 回			ベートーヴェン	事前	ベートーヴェン作品の技術面以外の表現ニュアンス等を含めて考察、予習をする。	50 分
				事後	授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 2 回			ベートーヴェン	事前	モーツァルトの技術面以外の表現ニュアンスを含めて考察、予習をする。	50 分
				事後	授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 3 回			定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/モーツァルト他)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (Ⅰ)	50 分
				事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (Ⅰ)	50 分
第 4 回			定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/モーツァルト他)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (Ⅱ)	50 分
				事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (Ⅱ)	50 分
第 5 回			定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/モーツァルト他)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (Ⅲ)	50 分
				事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (Ⅲ)	50 分
第 6 回			定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/モーツァルト他)	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (Ⅳ)	50 分
				事後	演奏会本番に向けての課題を認識する (Ⅳ)	50 分
第 7 回			定期演奏会 (ベートーヴェン/モーツァルト他)	事前	今までの練習してきたことのとまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	50 分
				事後	公開演奏の際の諸問題を認識する (Ⅰ)	50 分
第 8 回			定期演奏会 (ベートーヴェン/モーツァルト他)	事前	オーケストラ定期演奏会本番の課題、問題点を認識する。	50 分
				事後	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する (Ⅱ)	50 分
第 9 回			未定	事前	各作品に関しての知識を習得と譜読みをしておく。	50 分
				事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 10 回			未定	事前	前半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	50 分
				事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 11 回			未定	事前	後半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	50 分
				事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 12 回			未定	事前	分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50 分
				事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 13 回			未定	事前	分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50 分
				事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分
第 14 回			未定	事前	オーケストラ内のアンサンブルの問題を考察、予習をする。	50 分
				事後	授業での問題点、課題を復習する。	50 分
第 15 回			未定	事前	今までの練習してきた作品のまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	50 分
				事後	演奏会本番時のソリストとのアンサンブルの問題等を振り返り、問題点を認識する。	50 分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア (予め各自で用意しておくこと)
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
(入手し難いスコアの関しては、相談すること)

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

短大教授 飯島和久／非常勤講師 福田洋介

科目コード：ENS122／ENS221

ENS321／ENS418

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	合奏基礎 1 スケール、ユニゾン① 美中の美 / J.P.スーザ、ワシントン・ポスト / J.P.スーザ	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	合奏基礎 2 スケール、ユニゾン② 美中の美 / J.P.スーザ、ワシントン・ポスト / J.P.スーザ	事前	課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	合奏基礎 3 スケール、ユニゾン③ 水上の音楽 / G.F.ヘンデル	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	合奏基礎 4 ハーモニー、バランス① イギリス民謡組曲 / R.v.ウィリアムズ	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	合奏基礎 5 ハーモニー、バランス② イギリス民謡組曲 / R.v.ウィリアムズ	事前	課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	合奏基礎 6 ハーモニー、バランス③ 陽はまた昇る / P.スパーク	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	合奏基礎 7 テンポ、リズム① ブスタ / J.v.d.ロースト	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	合奏基礎 8 テンポ、リズム② ブスタ / J.v.d.ロースト	事前	課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	合奏基礎 9 テンポ、リズム③ 美中の美 / J.P.スーザ、ワシントン・ポスト / J.P.スーザ	事前	課題曲三回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	合奏基礎 10 セクションのアンサンブル① 水上の音楽 / G.F.ヘンデル	事前	課題曲三回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	合奏基礎 11 セクションのアンサンブル② イギリス民謡組曲 / R.v.ウィリアムズ	事前	課題曲三回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	合奏基礎 12 セクションのアンサンブル③ 陽はまた昇る / P.スパーク	事前	課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	小人数合奏実践① フレキシブル譜を使用した合奏の作り方	事前	課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	小人数合奏実践② フレキシブル譜を使用した合奏の作り方	事前	課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	全曲	事前	公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後	指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応します。予約も可能。
---------	--------------------

備考	曲目を変更する可能性がある。
----	----------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

短大教授 飯島和久／非常勤講師 福田洋介

科目コード：ENS123／ENS222

ENS322／ENS419

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	ブスタ / J.v.d.ロースト	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	仮面幻想 / 大栗裕	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	仮面幻想 / 大栗裕	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	組曲「ニュー・シネマ・パラダイス」 / E.モリコーネ	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	ポップス作品実践①	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	ポップス作品実践①	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	オーケストラ編曲作品実践① ハンガリー舞曲集 / ブラームス	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	オーケストラ編曲作品実践② ハンガリー舞曲集 / ブラームス	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	吹奏楽作品実践①	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	吹奏楽作品実践②	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	吹奏楽作品実践③	事前 課題曲三回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応します。予約も可能。
---------	--------------------

備考	曲目を変更する可能性がある
----	---------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1（ピアノ）

各実技担当教員

科目コード：IND108／IND207

対象コース／専門／学年： ピアノ以外の全専門／4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	音楽を学ぶ者にとっての基礎能力を育成するために欠かせないピアノの学習を個人レッスンによって行う。グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。
到達目標	運指や音階等の基本的な訓練を中心に、正しい読譜力を養うことを目標とする。

授業計画 前期 15 回 毎週 20 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス 学習計画を立てる	事前 過去の学習状況を踏まえ現状を自己分析。 事後 担当教員と協議の上グレードの設定。課題曲の選定。	80 分 130 分
第 2 回	基礎訓練	事前 基礎教材を使って反復練習。 事後 手指のフォームを意識して反復練習。	80 分 130 分
第 3 回	基礎技術の向上	事前 様々な音型を反復練習。 事後 両手を弾き分ける訓練。課題曲の読譜。	80 分 130 分
第 4 回	奏法	事前 様々な強弱、テンポで練習し指を鍛える。 事後 手指のフォームを正しくコントロールしながら反復練習。課題曲の読譜。	80 分 130 分
第 5 回	運指について	事前 課題曲の反復練習。 事後 より効率のよい運指について考え、試してみる。	80 分 130 分
第 6 回	運指の決定	事前 課題曲の反復練習。 事後 指使いを決定し、反復練習を行う。	80 分 130 分
第 7 回	正確な読譜（リズムと拍子）	事前 楽譜をよく見直す。 事後 生きたリズムと拍感を意識して反復練習を行う。	80 分 130 分
第 8 回	正確な読譜（強弱）	事前 強弱記号をよく見る。 事後 強弱記号が示す意味を考えて表現につなげる。	80 分 130 分
第 9 回	楽曲分析 楽曲 A	事前 作品の和声進行を意識して練習。 事後 構造、形式を把握する。	80 分 130 分
第 10 回	スムーズな演奏	事前 作品の構造を意識して各部の表情を大切に。 事後 強弱、テンポ正確に。暗譜。	80 分 130 分
第 11 回	音階練習	事前 片手の練習。両手の練習。 事後 指使いを徹底して反復練習。	80 分 130 分
第 12 回	音階練習(カデンツ)	事前 カデンツの定型を覚える。 事後 徹底的な反復練習。	80 分 130 分
第 13 回	音階練習(テンポアップ)	事前 両手で正確に反復練習。 事後 少しずつテンポアップ。拍子、テンポ正確に。	80 分 130 分
第 14 回	仕上げ	事前 指使い、強弱、リズムの確認。暗譜の確認。 事後 表情、構造を明確に反復練習。	80 分 130 分
第 15 回	前期 成果の発表	事前 技術、音の確認。 事後 自己評価。課題の自覚。	80 分 130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。（副科ピアノ課題曲表参照のこと）

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（ピアノ）

各実技担当教員

科目コード：IND109／IND208

対象コース／専門／学年： ピアノ以外の全専門／4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	ピアノの学習を個人レッスンにより行い、更なる向上を目指す。 グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 基礎訓練と共に様々な練習方法を演奏向上に結びつける過程を学ぶことを目標とする。

授業計画 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

第 1 回	課題の設定	事前 課題曲の設定。 事後 読譜。	80 分 130 分
第 2 回	指使いの決定	事前 楽譜を丁寧に読譜。反復練習。 事後 正しい指使いの決定。反復練習。	80 分 130 分
第 3 回	楽曲分析 楽曲 B	事前 作品の全体像を把握する。 事後 和声、形式を分析し、構造を理解する。	80 分 130 分
第 4 回	演奏技術の鍛錬	事前 構造を意識して各部の表情をつかむ。 事後 表現に必要な奏法の伝授。反復練習。	80 分 130 分
第 5 回	様々な表現	事前 イメージを明確にして行く。 事後 奏法、テンポ設定、強弱の工夫。	80 分 130 分
第 6 回	分散和音(和声感、調性感)	事前 音、指使いを正確に和声をよく聴きながら反復練習。 事後 手首の使い方、手のフォームの習得し、和音としてとらえる練習。	80 分 130 分
第 7 回	練習方法の工夫（リズム練習）	事前 様々な音型を反復練習。 事後 リズム練習による技術向上を目指して反復練習。	80 分 130 分
第 8 回	形式の整理	事前 全体の構造をつかむ。 事後 主題の扱い、調性、性格を整理する。	80 分 130 分
第 9 回	表現	事前 構造を明確に整理する。 事後 作品の性格、主題の性格、楽譜の指示を基に的確な表現を追求する。暗譜。	80 分 130 分
第 10 回	練習方法の工夫（分析練習）	事前 構成を理解する。 事後 各声部に分けて練習、またはハーモニーごとにまとめて練習。	80 分 130 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	事前 各声部丁寧に読譜。指使いの決定。 事後 指のコントロールと耳を使って同時に弾き分ける。	80 分 130 分
第 12 回	ペダルの練習	事前 イメージを明確にしておく。 事後 レガートペダル、アクセントペダル、音色のためのペダルを考える。	80 分 130 分
第 13 回	暗譜について	事前 構造を理解する。 事後 ハーモニー、楽曲分析と結びつけて整理する。	80 分 130 分
第 14 回	仕上げとまとめ	事前 音楽理解、ピアノ演奏技術の方法を整理する。暗譜。 事後 学習内容の復習と反復練習。暗譜。	80 分 130 分
第 15 回	後期 成果の発表	事前 暗譜と技術の確認。 事後 自己評価。	80 分 130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。（副科ピアノ課題曲表参照のこと）

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1（管打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND108／IND207

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門のみ 1～4 年次、これ以外全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	専門外の楽器を習得することで、幅広く音楽を学ぶことを目標とする。初心者も含まれることから、各学生の能力、進度に応じ課題を設定する。

到達目標	楽器の扱い方、構え方、基本的な奏法を知り、楽曲を演奏してゆく。既にある程度の能力を持つものに関しては、さらに確実なものとしてゆく。
------	---

授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	レッスンの進め方、楽器の選び方について	事前 学修計画案をたてる	105 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分
第 2 回	楽器の取り扱い方および音の出し方	事前 教員の指示による	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 3 回	姿勢、呼吸法、音階を学ぶ①	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 4 回	姿勢、呼吸法、音階を学ぶ②	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 5 回	良い音を探求する	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 6 回	練習曲①確認	事前 練習曲①の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	105 分
第 7 回	練習曲①仕上げ	事前 練習曲①の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲①のまとめを行う	105 分
第 8 回	練習曲②確認	事前 練習曲②の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	105 分
第 9 回	練習曲②仕上げ	事前 練習曲②の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲②のまとめを行う	105 分
第 10 回	練習曲③確認	事前 練習曲③の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 11 回	練習曲③仕上げ	事前 練習曲③の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲③のまとめを行う	105 分
第 12 回	曲①確認	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 13 回	曲①仕上げ	事前 曲①の完成を目指す	105 分
		事後 曲①のまとめを行う	105 分
第 14 回	曲②確認	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 15 回	曲②仕上げ	事前 練習曲②の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲②のまとめを行う	105 分

フィードバック	各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。
---------	---------------------------------

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（管打楽器）

各実技担当教員

科目コード：IND109／IND208

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門のみ 1～4 年次、これ以外全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	専門外の楽器を習得することで、幅広く音楽を学ぶことを目標とするが、副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1(管楽器)で得たものをさらに確実なものとしてゆく。

到達目標 副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1(管楽器)で得たものを、より確実なものとしてゆく。

授業計画 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

第 1 回	後期のレッスンの進め方について	事前 前期の取り組みの問題点を確認する	105 分
		事後 後期に向けての課題に取り組む	105 分
第 2 回	練習曲④確認	事前 練習曲④の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 3 回	練習曲④仕上げ	事前 練習曲④の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲④のまとめを行う	105 分
第 4 回	練習曲⑤確認	事前 練習曲⑤の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 5 回	練習曲⑤仕上げ	事前 練習曲⑤の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲⑤のまとめを行う	105 分
第 6 回	曲③確認	事前 曲③の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 7 回	曲③表現の工夫	事前 曲③の表現に取り組む	105 分
		事後 曲③の表現を身に付ける	105 分
第 8 回	曲④確認	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 9 回	曲④表現の工夫	事前 曲④の表現に取り組む	105 分
		事後 曲④のまとめを行う	105 分
第 10 回	発表会に向けて 曲①	事前 発表会に向けて準備する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 11 回	発表会に向けて 曲②	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 12 回	発表会に向けて 曲③	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 13 回	発表会に向けて 曲④	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 14 回	発表会に向けて 曲⑤	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 15 回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。	105 分
		事後 来年度への取り組みについて考える	105 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 レッスンへの積極的な取り組み、習熟度によって行う。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年： 全コース・全専門／4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	オルガン作品の演奏を通じ、専門楽器での表現力を向上する。

到達目標	本学でオルガン・古楽部門に属し実際に学べる楽器（オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ）や、当学の古楽器コレクションを通して、主に 17、18 世紀の作品の演奏法を研究し、専門の楽器、あるいは声楽の演奏に反映させる。
------	--

授業計画		
第 1 回	ガイダンス。個人の演奏技術の判定。個人の能力に応じて学習用作品を決定。	事前 学ぶ楽器について下調べ。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。80 分
第 2 回	作品 A に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 3 回	作品 A に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 4 回	作品 A に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 5 回	作品 A に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 6 回	作品 A に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 学ぶ作品の楽譜探索。80 分
第 7 回	作品 B に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 8 回	作品 B に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 9 回	作品 B に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 10 回	作品 B に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 11 回	作品 B に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 学ぶ作品の楽譜探索。80 分
第 12 回	作品 C に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 13 回	作品 C に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 14 回	作品 C に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分
第 15 回	作品 C に取り組む 4（総合、仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。80 分 事後 学ぶ作品の楽譜探索。80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（オルガン・古楽）

各実技担当教員

科目コード：IND109／IND208

対象コース／専門／学年： 全コース・全専門／4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	オルガン作品の演奏を通じ、専門楽器での表現力を向上する。

到達目標	当学でオルガン・古楽部門に属し実際に学べる楽器（オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ）や、当学の古楽器コレクションを通して、主に 17、18 世紀の作品の演奏法を研究し、専門の楽器、あるいは声楽の演奏に反映させる。
------	--

授業計画	GLA コース／文化創造マネジメント専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導（オプショナル金制） 上記以外の全コース／全専門 年間 15 回 隔週 20 分の個人指導
------	---

第 1 回	作品 D に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 2 回	作品 D に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 3 回	作品 D に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 4 回	作品 D に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 5 回	作品 D に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分
第 6 回	作品 E に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 7 回	作品 E に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 8 回	作品 E に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 9 回	作品 E に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 10 回	作品 E に取り組む 5（仕上げ）。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 11 回	学習した作品をすべて復習する 1（A、B、C）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 12 回	学習した作品をすべて復習する 2（D、E）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 13 回	学習した作品のストップの組み合わせを考える。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 14 回	学習した作品をすべて演奏する。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 15 回	発表会準備	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 該当楽器で特に興味を持った点を深めてみる。	80 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。
---------	---------------------------

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒		☐	☒	☐	☐	☐	☐

副科声楽Ⅰ-1・Ⅱ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

各実技担当教員	科目コード：IND110／IND209
---------	---------------------

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の基本的な技術、音楽を学ぶ 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる
到達目標	①発声の基本を確立する。 ②伊、独、仏歌曲、オペラおよび共通教材を含む日本歌曲を中心的題材として、言語を伴った声楽の表現を学びながら、それぞれの専門 実技に応用できるように的確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。 ③コンコーネ 50 番や歌曲をピアノ伴奏で歌う。
授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導 実技演習においては、個々の学生の特性を見極め、その進捗に則して課題を選択しレッスンをする。

第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	これまでの声楽に関する学修を確認し学習計画を練る	80 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	80 分
第 2 回	エチュード・イタリア古典歌曲 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 3 回	エチュード・イタリア古典歌曲 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 4 回	エチュード・イタリア古典歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 5 回	エチュード・イタリア古典歌曲 声域の拡大と歌唱技術の向上をはかる	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 6 回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（言葉の意味に留意する）	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 7 回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクションに留意する）	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 8 回	イタリア古典歌曲 声域・カテゴリーの確立	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクションに留意する）	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 9 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 10 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 11 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 12 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 14 回	ピアノ伴奏を伴い表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	伴奏合わせを重ねる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、表現の確立をはかる	80 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 試験の成績による。

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、
別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

古楽研究（古楽概説）-1

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS307

対象コース／専門／学年： 全コース／文化創造マネジメント専門以外／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画		
第 1 回	「古楽」が意味するもの	事前 「古楽」について自分なりの定義を考える 事後 「古楽」に関する記述を調べる 110 分 170 分
第 2 回	「古楽」と「古楽でないもの」	事前 演奏における「正しさ」について考える 事後 「古楽」がどのように捉えられてきたかを整理する 140 分 140 分
第 3 回	「古楽器」が意味するものⅠ 管楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような管楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180 分 100 分
第 4 回	「古楽器」が意味するものⅡ 弦楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような弦楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180 分 100 分
第 5 回	「古楽器」が意味するものⅢ 鍵盤楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような鍵盤楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180 分 100 分
第 6 回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する 240 分 40 分
第 7 回	音律Ⅰ 音律の基礎	事前 音律について調べる 事後 音律に関する基礎的な事項を整理する 110 分 170 分
第 8 回	音律Ⅱ ビタゴラス音律	事前 ビタゴラス音律について調べる 事後 ビタゴラス音律の特性を整理する 180 分 100 分
第 9 回	音律Ⅲ 純正律	事前 純正律について調べる 事後 純正律の特性を整理する 180 分 100 分
第 10 回	音律Ⅳ 中全音律	事前 中全音律について調べる 事後 中全音律の特性を整理する 180 分 100 分
第 11 回	音律Ⅴ 不均等音律	事前 不均等音律について調べる 事後 不均等音律の特性を整理する 180 分 100 分
第 12 回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する 240 分 40 分
第 13 回	言葉と音楽	事前 言葉と音楽の関係に関する自分なりの具体例を考える 事後 言葉と音楽の関係を音楽史的視点から整理する 240 分 40 分
第 14 回	修辞学と音楽	事前 マドリガリズムについて調べる 事後 音楽修辞学について整理する 210 分 70 分
第 15 回	バッハのカンタータ	事前 バッハのカンタータを聞く 事後 音楽と社会の関わりについて整理する 220 分 60 分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	□

古楽研究（古楽概説）-2

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS308

対象コース／専門／学年： 全コース／文化創造マネジメント専門以外／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画			
第 1 回	装飾法Ⅰ	装飾例の分析	事前 ヘンデルのオペラアリアの演奏を聴き装飾例を調べる 220 分
			事後 装飾のパターンについて整理する 60 分
第 2 回	装飾法Ⅱ	イタリア式装飾	事前 17 世紀初期の作品の演奏を聴き装飾例を調べる 220 分
			事後 イタリア式装飾について整理する 60 分
第 3 回	装飾法Ⅲ	フランス式装飾	事前 18 世紀フランスの作品の演奏を聴き装飾例を調べる 220 分
			事後 フランス式装飾について整理する 60 分
第 4 回	装飾法Ⅳ	16,17 世紀の文献検討	事前 デミニューションについて調べる 140 分
			事後 デミニューションを実践してみる 140 分
第 5 回	装飾法Ⅴ	18 世紀音文献の検討	事前 レオポルド・モーツァルトの「ヴァイオリン奏法」の中の装飾に関する項を読む 180 分
			事後 様々な装飾を実践してみる 100 分
第 6 回	装飾法Ⅵ	装飾実習	事前 簡単な装飾を考える 210 分
			事後 装飾によって音楽の方向性がどのように変わるか整理する 70 分
第 7 回	通奏低音Ⅰ	カデンツの実習	事前 通奏低音について調べる 100 分
			事後 実習した課題をもう一度実践してみる 100 分
第 8 回	通奏低音Ⅱ	簡単な楽曲の実習	事前 リアリゼーションを考える 170 分
			事後 実習した課題をもう一度実践してみる 110 分
第 9 回	演奏実習	弦楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 240 分
			事後 演奏解釈上の視点について整理する 40 分
第 10 回	様々な表現	テンポ・ルバート	事前 いわゆる「古乐的な」演奏について自分のイメージをまとめる 110 分
			事後 歴史的情報に立脚した演奏表現について考える 170 分
第 11 回	様々な表現	ポルタメント、ヴィブラート	事前 様式感について自分の考えを整理する 140 分
			事後 いわゆる「古乐的な」演奏について考え方を整理する 140 分
第 12 回	演奏実習	管楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 240 分
			事後 演奏解釈上の視点について整理する 40 分
第 13 回	アーティキュレーションの諸相		事前 アーティキュレーションについて調べる 110 分
			事後 演奏における様々なアーティキュレーションの処理について整理する 170 分
第 14 回	フレージングとアーティキュレーション		事前 フレージングについて調べる 110 分
			事後 演奏におけるフレージングとアーティキュレーションの関係について整理する 170 分
第 15 回	音楽におけるヒエラルキーの概念		事前 ヒエラルキーについて調べる 110 分
			事後 音楽におけるヒエラルキーについて整理する 170 分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

鍵盤和声-1

講師 高畠亜生

科目コード：SLF205

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA・演奏家コース／全専門／4 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	一人一人ピアノを使い、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付、即興演奏、初見視奏、ピアノ弾き歌い、連弾や歌曲伴奏初見、鍵盤和声分析、数字付通奏低音による演奏などを通して、和声感と演奏、即興など総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。②音楽的フレーズ感を身につける。③同じ旋律で様々な和声付けの可能性あることを体験する。④音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑤ヤマハやカワイのグレード試験にも役立てる。これらを目標として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	--

授業計画	メロディー伴奏付、即興演奏、移調伴奏、初見視奏、ピアノ弾き歌い、管弦楽曲の連弾や歌曲伴奏などの初見、鍵盤和声分析、数字付通奏低音によるピアノ演奏
第 1 回	オリエンテーション／力試し 事前 和声進行、カデンツ、終止、近親調など音楽の基本理論を復習しておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 30 分 60 分
第 2 回	旋律の伴奏付け基本編①／二部形式、カデンツ、終止形 事前 第 1 回の力試しで苦手だった箇所の練習に取り組む。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 30 分 60 分
第 3 回	旋律の伴奏付け基本編②／和声付け、コード付け、コードネーム 事前 コードネームの読み方を未だ知らない学生は調べておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 4 回	旋律の伴奏付け基本編③／和声の転回形の響きと伴奏アレンジへの活用 事前 和声の転回形を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 30 分 60 分
第 5 回	旋律の伴奏付け応用編①／三部形式、カデンツ、終止形 事前 カデンツ 3 種類をピアノで弾いておく。二部と三部形式の違いを確認しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 30 分 60 分
第 6 回	旋律の伴奏付け応用編②／7 や 9 の和音のコード付け、変化和音や付加和音 事前 各長・短音階の固有音上の 7・9 和音をピアノで弾いておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 7 回	旋律の伴奏付け応用編③ ／借用 D を使った経過和音を入れたコード付けと伴奏アレンジ 事前 借用和音について復習 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 8 回	旋律の伴奏付け応用編④ ／借用 D を使った経過和音や対旋律を入れた伴奏アレンジ 事前 第 7 回で完成した伴奏を元にオブリガート（対旋律）を作る。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 50 分 40 分
第 9 回	弾き歌い バッハの対位法楽曲シンフォニア、フーガ等）を使ったソルフェージュ 事前 ピアノ初見読譜力を訓練しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 10 回	スコアリーディング 管弦楽曲をピアノで演奏する 事前 各種音部記号（ト音、ヘ音、ハ音）の読み方を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 11 回	メロディー弾き歌い①／コードネーム付 中級・上級編 事前 コードネームの読み方を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 12 回	即興演奏／変奏 中級・上級編 事前 非和声音（転位音）の使い方を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。 45 分 45 分
第 13 回	ピアノ連弾① バッハのブランデンブルク協奏曲第 5 番 事前 バッハ：ブランデンブルク協奏曲第 5 番を聴いておく。 事後 授業の課題をピアノで練習しておく。 45 分 45 分
第 14 回	ピアノ連弾② モーツァルト交響曲第 40 番 事前 モーツァルト：交響曲第 40 番を聴いておく。 事後 授業の課題をピアノで練習しておく。 45 分 45 分
第 15 回	ピアノ連弾③ モーツァルト交響曲第 41 番ジュピター 事前 モーツァルト：交響曲第 41 番を聴いておく。 事後 授業の課題をピアノで練習しておく。 45 分 45 分

フィードバック 授業内で実施する各自実施する弾き歌い、伴奏付け、初見ピアノを聴いたり、添削して改善点や今後の学習方法を伝える。

成績評価 試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 五線紙とファイルを用意すること。

その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング コードネームを読めるように学習して、前期試験では、各自任意のピアノ弾き語りで発表会する。演奏者以外の履修者は鑑賞して、最後に全員で互いの講評会をして意見を述べ合う。

備考 履修の条件：ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。課題を積極的に実施すること。学生の専攻楽器や希望、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒

鍵盤和声-2

講師 高畠亜生

科目コード：SLF206

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA・演奏家コース／全専門／4 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	一人一人ピアノを使い、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付、即興演奏、初見視奏、ピアノ弾き歌い、連弾や歌曲伴奏初見、鍵盤和声分析、数字付通奏低音による演奏などを通して、和声感と演奏、即興など総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。②音楽的フレーズ感を身につける。③同じ旋律で様々な和声付けの可能性あることを体験する。④音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑤ヤマハやカワイのグレード試験にも役立てる。これらを目指して学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	---

第 1 回	前期まとめ／定期試験 1（実技）	事前 第 1～15 回の復習と定期試験 1 に向けて練習する。 事後 定期試験 1 で苦手だった箇所の練習に取り組む。	80 分 10 分
第 2 回	コード付き伴奏による旋律とコードの聴音	事前 今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。 事後 コードの種類による響きの違いを耳で聞き取る練習をする。	50 分 40 分
第 3 回	コードネームの各種、ピアノによる聴取訓練	事前 今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50 分 40 分
第 4 回	旋律の伴奏付け応用編④／移調伴奏 基本編	事前 カデンツの 3 つの型を、全ての長調&短調で弾く。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	60 分 30 分
第 5 回	旋律の伴奏付け応用編⑤／移調伴奏 実践編	事前 前回の続きの課題を練習する。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50 分 40 分
第 6 回	鍵盤ソルフェージュ① ピアノ初見試奏	事前 読譜力を復習しておく 事後 授業の課題を練習する。	45 分 45 分
第 7 回	鍵盤ソルフェージュ② ピアノ初見試奏 新曲視唱の伴奏初見	事前 初見力をつけておく。 事後 授業の課題を練習する。	45 分 45 分
第 8 回	鍵盤ソルフェージュ③ ピアノ初見試奏 シューマン歌曲の伴奏	事前 シューマンの「詩人の恋」を聴いておく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 9 回	ピアノ連弾④ ベートーヴェン交響曲第 3 番「英雄」	事前 ベートーヴェン交響曲第 3 番「英雄」を聴いておく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 10 回	ピアノ連弾⑤ ベートーヴェン交響曲第 5 番「運命」	事前 ベートーヴェン交響曲第 5 番「運命」を聴いておく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 11 回	数字付き低音／基本演習	事前 1 年次の和声の教科書の「数字付き低音」を読んでおく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 12 回	数字付き低音／応用演習 ヘンデルのオペラ	事前 ヘンデル：歌劇「リナルド」を調べておく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 13 回	ピアノ連弾⑥ シューベルト交響曲「グレイト」より	事前 シューベルト交響曲「グレイト」を聴いておく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 14 回	ピアノ連弾⑦ ロマン派のオペラ序曲より	事前 ロマン派のオペラ序曲をいくつか任意で聴いておく。 事後 授業の課題に取り組む。	45 分 45 分
第 15 回	後期まとめ／定期試験 2（実技）	事前 第 1～15 回の復習と定期試験 2 に向けて練習する。 事後 定期試験 2 で苦手だった箇所の練習に取り組む。	80 分 10 分

フィードバック	授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり、添削して改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。
---------	---

成績評価	試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%
------	---

テキスト	五線紙とファイルを用意すること。 その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
------	--

オフィスアワー	授業終了後、教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	後期は新曲の初見の試験をやり、履修生で聴き合いお互いに講評しつつ改善点を見つけて、初見でいかに音楽的な演奏表現を行うかを模索する。
-------------	---

備考	履修の条件：ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。課題を積極的にすること。 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。
----	--

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒

対位法-1

講師 高畠亜生／非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF209

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義・実習

単位数：2 単位

概要 対位法の基礎となる 2 声対位法の書法を学び、音楽を水平方向に捉える力を養う。

到達目標 課題の実習を通し 2 声対位法を理解する。 2 声対位法で得られた知識・技術をもとに 2 声の平行カノンを試作する。

授業計画 実習を中心に授業を進める。また適宜楽曲の分析も行い、楽曲中での対位法の応用例を確認する。ただし履修者の習熟度に応じて予定を変更する場合もある。

第 1 回	【高畠】対位法についての概説	事前 対位法について調べる。	100 分
		事後 対位法学習に必要な楽典の知識を復習する。	170 分
第 2 回	【高畠】2 声対位法 第一類(全音符)についての解説	事前 授業で示された楽曲の分析・演奏に取り組む。	100 分
		事後 テキストの第一類対位法の実施例を確認する。	170 分
第 3 回	【高畠】2 声対位法 第一類(全音符)の実習	事前 第一類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後 実施した課題の誤りを確認し、必要に応じ再実施する。	170 分
第 4 回	【高畠】2 声対位法 第二類(二分音符)についての解説	事前 実施した課題の演奏に取り組む。	100 分
		事後 テキストの題二類対位法の実施例を分析・演奏する。	170 分
第 5 回	【高畠】2 声対位法 第二類(二分音符)の実習	事前 第二類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後 実施した課題に禁則がないか確認し、必要に応じ訂正を施す。	170 分
第 6 回	【井元】2 声対位法 第三類(四分音符)についての解説	事前 実施した課題が理想的な旋律となっているか、実際に歌い確認する。	100 分
		事後 テキストの第三類対位法の実施例をピアノで演奏する。	170 分
第 7 回	【井元】2 声対位法 第三類(四分音符)の実習	事前 第三類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後 実施した課題を見直し、訂正、再実施に取り組む。	170 分
第 8 回	【井元】2 声対位法 第四類(移勢)について解説	事前 実施した課題を演奏し響きを確認する。	100 分
		事後 テキストの第四類対位法の実施例を分析・演奏する。	170 分
第 9 回	【井元】2 声対位法 第四類(移勢)の実習	事前 第四類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後 実施した課題に禁則がないか見直し、訂正・再実施に取り組む。	170 分
第 10 回	【井元】2 声対位法 第五類(華麗)についての解説	事前 実施した課題を歌い、理想的な旋律になっているか確認する。	100 分
		事後 テキストの第五類対位法の実施例を確認する。	170 分
第 11 回	【井元】2 声対位法 第五類(華麗)の実習	事前 第五類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後 実施した課題を良く見直し、必要に応じ再実施を行う。	170 分
第 12 回	【井元】2 声対位法のまとめ	事前 2 声対位法の諸規則を復習する。	100 分
		事後 第一類～第五類対位法が正しく理解できているか、課題の実施を通し確認する。	170 分
第 13 回	【井元】カノンについての概説	事前 実施した課題に禁則がないか、また理想的な旋律となっているか確認する。	100 分
		事後 授業で示された楽曲の分析・鑑賞を行う。	170 分
第 14 回	【井元】2 声の平行カノンの試作・演奏	事前 カノンの技法で書かれた楽曲を調べ、分析・鑑賞を行う。	100 分
		事後 平行カノン以外のカノンの試作を実施する。	170 分
第 15 回	【井元】2 声対位法・2 声のカノンの総復習	事前 2 声対位法、2 声のカノンについて復習する。	100 分
		事後 実施した課題や与えられた譜例の分析・演奏に取り組む。	170 分

フィードバック 対位法、カノンの練習課題を添削し、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 70%、課題 20%、授業態度 10%

テキスト 山口博史『バリ音楽院の方式による厳格対位法』（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp （高畠）
授業終了後教室にて。（井元）
備考 実施した課題や配布された資料等を演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐		☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

対位法-2

講師 高畠亜生／非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF210

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義・実習	単位数：2 単位
概要	3 声対位法の書法を学び、水平方向と垂直方向の両方から音楽を把握する感覚を養う。また対位法的楽曲のうちインベンション及びフーガの分析・試作を通し対位法への理解を深める。

到達目標	対位法の諸規則を遵守しつつ豊かな旋律線を書く。対位法的楽曲の分析力を高めるとともに、様々な楽曲中に用いられている対位法的な要素を把握する力を身につける。
------	--

授業計画	実習および楽曲分析を中心に授業を進める。ただし履修者の習熟度に応じて予定を変更する場合もある。
------	---

第 1 回	【高畠】 3 声対位法 第一類(全音符)についての解説	事前	テキストを読み諸規則を確認する。	110 分
		事後	テキストの実施例を演奏し和音と旋律線を確認する。	160 分
第 2 回	【高畠】 3 声対位法 第一類(全音符)の実習	事前	第一類対位法の実施法を復習する。	110 分
		事後	実施した課題を見直し誤り等がないか確認し、必要に応じ再実施に取り組む。	160 分
第 3 回	【高畠】 3 声対位法 第二類(二分音符)についての解説	事前	実施した課題を演奏し、響きを確認する。	110 分
		事後	テキストの実施例の分析・演奏を行う。	160 分
第 4 回	【高畠】 3 声対位法 第二類(二分音符)の実習	事前	第二類対位法の実施法を復習する。	110 分
		事後	実施した課題を分析し、誤りがないか確認する。必要に応じ再実施に取り組む。	160 分
第 5 回	【高畠】 J.S.BACH 作曲インベンションについての概説 J.S.BACH 作曲インベンション第 1 番の分析	事前	インベンション第 1 番の楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏する。	110 分
		事後	分析結果を演奏にどのように結びつけるか考えつつ演奏に取り組む。	160 分
第 6 回	【井元】 J.S.BACH 作曲インベンション第 6 番の分析 インベンション提示部について	事前	インベンション第 6 番の楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏する。	110 分
		事後	分析した楽譜を確認しつつ様々な演奏を鑑賞し表現法を研究する。	160 分
第 7 回	【井元】 インベンション提示部の作成 インベンション移行部について	事前	インベンションの提示部の作成法を復習する。	110 分
		事後	作成した提示部を演奏し、必要に応じて訂正を施す。	160 分
第 8 回	【井元】 インベンション移行部の作成 インベンション終結部の作成	事前	分析したインベンションの移行部を見直し、演奏する。	110 分
		事後	移行部及び終結部を見直し、インベンションを完成させる。	160 分
第 9 回	【井元】 フーガについての概説 A.ROWLEY 作曲ミニチュア・フーガ第 1 番及び第 2 番の分析	事前	フーガとはどのようなものかを調べる。	110 分
		事後	授業で得た知識を元に、これまでに触れたフーガの構造等を観察する。	160 分
第 10 回	【井元】 J.S.BACH 作曲平均律第 1 巻より第 16 番フーガの分析 変応について	事前	平均律第 1 巻第 16 番フーガの楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏を鑑賞する。	110 分
		事後	改めて演奏を確認し、分析前と分析後での聴こえ方の違いを確認する。	160 分
第 11 回	【井元】 フーガの素材の準備 主要提示部について	事前	変応について復習し変答唱の作成を試みる。	110 分
		事後	与えられた主唱を元に答唱・対唱を作成する。	160 分
第 12 回	【井元】 副提示部について 主要提示部及び副提示部の作成	事前	任意のフーガの主要提示部を分析し、素材がどのように扱われているか確認する。	110 分
		事後	作成した提示部をピアノ等で演奏し響きを確認する。	160 分
第 13 回	【井元】 追迫部について 追迫部の作成	事前	カノンについて復習しておく。	110 分
		事後	追迫部を完成させピアノ等で演奏し響きを確認する。	160 分
第 14 回	【井元】 嬉遊部について 嬉遊部及び終結部の作成	事前	インベンションの移行部についての復習をする。	110 分
		事後	嬉遊部と終結部を加え、フーガを完成させる。	160 分
第 15 回	【井元】 総まとめ	事前	これまでに実施した課題を分析・演奏し、知識を確認する。	110 分
		事後	様々な楽曲を分析し、その中に用いられている対位法的要素を確認する。	160 分

フィードバック	対位法課題、試作品を添削し、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------

成績評価	試験 40%、3 声対位法課題提出 10%、試作品 40%、授業態度 10%
------	--

テキスト	山口博史『パリ音楽院の方式による厳格対位法』（音楽之友社） その他、適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	---

オフィスアワー	授業終了後、教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp （高畠）
備考	授業終了後、教室にて（井元） 実施した課題や配布された資料等を演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

音楽基礎演習-1

講師 高畠亜生

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数：認定科目による
概要	音楽基礎演習は、次の科目の複合クラスとする。 「楽式論・2」「楽典：基礎」「楽典：発展」「ソルフェージュⅡ・1」「ソルフェージュⅡ・2」

到達目標	時代や様式ごとの作曲家楽譜の読譜力を深めることを目標に、ソルフェージュと音楽理論の双方の演習により取り組む。 主に「歌唱」、「リズム」、「弾き歌い」、「初見視唱&視奏」、「即興演奏」等のソルフェージュと楽典復習と「和声法」、「楽曲分析」を通して演奏表現や楽曲解釈の向上を目指す。
------	--

授業計画	●基礎楽典の復習 ●楽典発展（西洋と東洋の音楽理論比較） ●ソルフェージュ全般 ・初見視唱、視奏 ・リズム ・ピアノ弾き歌い ・アンサンブル（ピアノ連弾、室内楽、合唱） ・スコアリーディング ・伴奏付け ・楽器聴音・和声聴音 ・聴奏 ・即興演奏 ●楽式論 ・和声法 ・楽式 ・楽曲分析 課題実習と演習において適宜組み合わせる。		
第1回	オリエンテーション 音楽基礎能力の確認 総合演習 1 楽典① 音・記譜法の歴史／音名・音部記号／音符・休符・リズム／小節・拍子	事前 今まで学習した音楽基礎演習を振り返り、自らの得手不得手を確認しておく。 事後 音楽基礎演習の目的を理解する。総合演習 1 の復習。	50 分 40 分
第2回	総合演習 2 ソルフェージュ① ルネサンス期の音楽のリズム・拍子の読譜、無伴奏合唱、連符や様々なリズム①	事前 第1回のルネサンス期の拍子や記譜法について特に復習しておく。 事後 授業で行った楽曲課題の復習をする。	50 分 40 分
第3回	総合演習 3 楽典② 音程・転回音程／教会旋法／長音階・短音階	事前 音程についてとテトラコルドと教会旋法について調べておく。 事後 ルネサンス期の作品を何か一つ聴いてみる。	50 分 40 分
第4回	総合演習 4 ソルフェージュ② ルネサンス・バロック期の音楽 バッハ音楽作品の聴取分析と合奏／音程と音楽療法への使用	事前 ルネサンスとバロック期の作曲家の音楽作品を聴いてみる。 事後 バッハの無伴奏作品を聴いて様々な音程跳躍の感知の違いを捉える。	50 分 40 分
第5回	総合演習 5 楽典③ 移調・移調楽器／管弦楽のスコア バッハ：ブランデンブルグ協奏曲のスコアリーディング	事前 クラリネットやサクソ、トランペットやホルンなどの移調楽器の記譜音と実音の違いを調べる。 事後 ブランデンブルグ協奏曲のスコアを見ながら音源を聴く。	50 分 40 分
第6回	総合演習 6 ソルフェージュ③ 移調楽器の聴音／移調唱・演奏・伴奏／バッハのシンフォニアより 楽器合奏や初見視奏	事前 バッハのシンフォニアをどれか聴いておく。移調楽器の復習。和音カデンツの確認。 事後 バッハのシンフォニアをピアノで弾く。	50 分 40 分
第7回	総合演習 7 楽典④ 近親調・転調／調判定	事前 近親調と遠隔調の確認。古典派音楽のモーツァルト作品をどれか聴いておく。 事後 授業で行った課題を復習する。	50 分 40 分
第8回	総合演習 8 ソルフェージュ④ 近親転調を含む視唱・旋律・和声聴音／聴取による調判定／バッハ管弦楽組曲第2番の合奏	事前 バッハの管弦楽組曲第2番を聴いておく。 事後 古典舞曲を調べておく。	50 分 40 分
第9回	総合演習 9 楽典⑤ 5音音階／教会旋法／ジプシー音階・ブルース音階／多調性／無調・12音音階	事前 様々な音階について調べておく 事後 授業で行った課題を復習する。	50 分 40 分
第10回	総合演習 10 ソルフェージュ⑤ 様々な音階で作られた楽曲の聴唱や聴奏／ドビュッシー・ストラヴィンスキー作品聴取分析	事前 第9回で取り上げた音階を歌と自分専門楽器とピアノで演奏しておく。 事後 授業で取り上げた楽曲を全部聴いておく。	50 分 40 分
第11回	総合演習 11 楽典⑥ 3和音・7の和音／数字付通奏低音	事前 長・短音階上の和音度と各3和音と7の和音とその種類を調べておく。 事後 授業で行った課題を復習する。	50 分 40 分
第12回	総合演習 12 ソルフェージュ⑥ バッハのコーラル合唱、聴取による和声分析、和声・多声聴音	事前 課題曲を復習する。 事後 コーラルについて調べる。	50 分 40 分
第13回	総合演習 13 楽式論① 和声法 転調を含む課題／終止形カデンツ／借用和音について	事前 バッハのコーラルの音源を聴く。 事後 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第14回	総合演習 14 楽典⑦ 楽語 速度・強弱標語／曲想や奏法に関する標語と記号／裝飾音と裝飾記号／省略記号 新しい音楽の記譜法	事前 4声体和声の属七の和音までの実習を復習しておく。 事後 授業で行った課題の見直しや訂正をする。	50 分 40 分
第15回	前期のまとめと試験	事前 音楽用語全般を調べておく。自分の専門楽器で取組み中の楽曲の楽語を調べておく。 事後 現代音楽の特殊奏法の記譜法について復習する。	50 分 40 分

フィードバック 課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。

成績評価 事前学習 20％、授業への積極的参加 50％、試験・レポート 30％

テキスト ●野崎 哲著『新しい楽典』（音楽之友社）又は 新装版 楽典理論と実習（音楽之友社）
●総合和声「実技・分析・原理」（音楽之友社）

授業中で使用する楽譜は持っていれば持参すること。
J.S.Bach 『ブランデンブルグ協奏曲 全曲』／『管弦楽組曲全曲』（オーケストラスコア、全音楽譜出版社）
J.S.Bach 『インヴェンションとシンフォニア』出版社は任意。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連														
授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☑	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☑	☐	☐

音楽基礎演習-2

講師 高畠亜生

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数：認定科目による
概要	音楽基礎演習は、次の科目の複合クラスとする。 「楽式論・2」「楽典：基礎」「楽典：発展」「ソルフエージュⅡ・1」「ソルフエージュⅡ・2」

到達目標	時代や様式ごとの作曲家楽譜の読譜力を深めることを目標に、ソルフエージュと音楽理論の双方の演習により取り組む。 主に「歌唱」、「リズム」、「弾き歌い」、「初見視唱&視奏」、「即興演奏」等のソルフエージュと楽典復習と「和声法」、「楽曲分析」を通して演奏表現や楽曲解釈の向上を目指す。
------	--

授業計画	●基礎楽典の復習 ●楽典発展（西洋と東洋の音楽理論比較） ●ソルフエージュ全般 ・初見視唱、視奏 ・リズム ・ピアノ弾き歌い ・アンサンブル（ピアノ連弾、室内楽、合唱） ・スコアリーディング ・伴奏付け ・楽器聴音・和声聴音 ・聴奏 ・即興演奏 ●楽式論 ・和声法 ・楽式 ・楽曲分析 課題実習と演習において適宜組み合わせる。			
第 1 回	総合演習 1 楽典発展① 日本音楽のリズム 能楽子と謡のリズムや拍子について 特別講師を招いてレクチャー	事前	能について調べておく。	50 分
		事後	レクチャー内容を復習する。	40 分
第 2 回	総合演習 2 楽典発展② 世界の民族音楽 インド音楽の拍子やリズムについて 特別講師を招いてレクチャー	事前	インド音楽について調べておく。	50 分
		事後	レクチャーで演習した歌をうたう。	40 分
第 3 回	総合演習 3 楽典発展③ 西洋と民族音楽と日本音楽の声楽（語り）の比較について 特別講師を招いてレクチャー	事前	歌と語りと朗読の違いについて考える。	50 分
		事後	レクチャーで取り上げたことで理解できなかったことを調べておく。	40 分
第 4 回	総合演習 4 楽式論① さまざまな D2 和音／ドッペルドミナントー四声体和声実習	事前	ドッペルドミナントの和音を予習する。	50 分
		事後	授業で行った課題で間違った個所を訂正して、新しい課題を実施する。	40 分
第 5 回	総合演習 5 楽式論② ソルフエージュ① ドッペルドミナントを含む楽曲分析 モーツァルトの交響曲作品より合奏	事前	モーツァルトの 3 大交響曲のどれかを聴いておく。	50 分
		事後	授業で行った楽曲分析を復習する。	40 分
第 6 回	総合演習 6 楽式論③ ドッペルドミナントを含む D2 諸和音のまとめ／四声体書式の総合問題	事前	カデンツ 2 型に様々な D2 和音を当てはめてピアノで弾く。	50 分
		事後	授業で行った課題で間違った個所を訂正して、新しい課題を実施する。	40 分
第 7 回	総合演習 7 ソルフエージュ② モーツァルトの「レクイエム」より和声分析、合唱、合奏	事前	モーツァルトの「レクイエム」を聴いておく。	50 分
		事後	授業で行った楽曲分析を復習する。	40 分
第 8 回	総合演習 8 楽式論④ ドリアのⅣ、ナボリの和音（実習と楽曲分析）	事前	ドリアのⅣとナボリの和音について調べておく。	50 分
		事後	授業で行った課題で間違った個所を訂正して、新しい課題を実施する。	40 分
第 9 回	総合演習 9 ソルフエージュ③ ベートーヴェン月光ソナタ、ショパンのパラード等の和声分析、合奏	事前	ベートーヴェン月光ソナタを聴いてみる	50 分
		事後	授業で行った楽曲分析を復習する。	40 分
第 10 回	総合演習 10 楽式論⑤ ソルフエージュ④ さまざまな S 和音（実習と楽曲分析）讃美歌の合唱	事前	変終止を調べる。ルネサンス期のジョスカンデブレやオケゲムの声楽作品等を聴く。	50 分
		事後	授業で行った課題で間違った個所を訂正して、新しい課題を実施する。	40 分
第 11 回	総合演習 11 楽式論⑥ 転位音・修飾音／四声体和声ー理論と実習①	事前	転位音についてし調べておく。	50 分
		事後	授業で行った課題で間違った個所を訂正して、新しい課題を実施する。	40 分
第 12 回	総合演習 12 ソルフエージュ⑤ ドイツ歌曲とフランス歌曲より分析、視唱 歌詞とメロディの関連性について	事前	シューマンの歌曲「女の愛と生涯」か「詩人の恋」のどちらかを聴く。	50 分
		事後	授業で行った楽曲分析を復習する。	40 分
第 13 回	総合演習 13 楽式論⑦ 自由ソプラノ課題／四声体和声ー実習	事前	授業で取り組む自由ソプラノ課題をよく歌っておく。	50 分
		事後	授業で行った課題で間違った個所を訂正して、新しい課題を実施する。	40 分
第 14 回	総合演習 14 楽式論⑧ ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」とブラームス晩年のピアノ作品から和声と楽式分析	事前	ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」を聴いてみる。	50 分
		事後	授業で行った楽曲分析を復習する。	40 分
第 15 回	総合演習 15 後期のまとめと試験	事前	授業内の不明点を確認する。	50 分
		事後	授業内で理解できなかった内容について復習する。	40 分

フィードバック 課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。

成績評価 授業課題への取組み 20%、授業への積極的参加 50%、試験・レポート 30%

テキスト 島岡謙（執筆責任）『総合和声〜実技・分析・原理』音楽之友社

五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜は可能な範囲で準備すること（コピー楽譜可）。テキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☑	☐	☐	☐

音楽理論特殊講義 1

講師 高畠亜生 科目コード：SLF211

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 大作曲家の主要作品を、歴史的、社会的視点から深く洞察し、研究する。
また、緻密で発想豊かな分析を行うことによって、更なる作品の理解を深めて行く。

到達目標 楽曲解析と作曲技法との総合的実践から、作曲家とその作品のより深い理解を養い、より豊かな演奏表現に繋げていくことを目標とする。
18 世紀から 19 世紀前半の作曲家の様式や作曲技法の理解を到達目標とする。

授業計画 「18 世紀から 19 世紀の作曲技法と演奏様式」
バッハの音楽からその延長線にある 19 世紀の作曲家をテーマに楽曲分析と作曲技術の観点から探っていく。

第 1 回	授業ガイダンスと「クラシック音楽」全般について 18 世紀の音楽について	事前 西洋音楽史の 18 世紀の音楽の特徴を調べておく。 事後 18 世紀音楽の様式についての整理をする。	140 分 140 分
第 2 回	ルネサンス期の音楽について（拍子や記譜法について）	事前 ルネサンス期のジョ スカンデブレ等の声楽曲の録音を聴いておく。 事後 バロック期への記譜法変換を再確認しておく。	160 分 120 分
第 3 回	バッハのコラールと通奏低音	事前 数字付通奏低音について調べておく。 事後 バッハのコラールの録音を聴き、楽譜を視て読譜しておく。	120 分 160 分
第 4 回	模倣、カノン、フーガについて	事前 バッハのインベンションとシンフォニアをピアノで弾いておく。 事後 カノンの課題で指摘された箇所を再度実践してみる。	120 分 160 分
第 5 回	平均律クラヴィーア曲集について	事前 バッハの平均律クラヴィーア曲集より任意の曲をピアノで弾いておく。 事後 授業で解析された作品を再度ピアノで弾いてみる。	130 分 150 分
第 6 回	フーガの技法について	事前 バッハの平均律のフーガをピアノで弾き、特徴を調べる。 事後 フーガの技法の解析で理解不足だった部分を復習する。	140 分 140 分
第 7 回	バッハのオルガン作品と受難曲作品（マタイ受難曲について）の分析	事前 オルガンの楽器の特性と受難曲を調べておく。 事後 受難曲とカンタータ、コラールの関係性について復習する。	140 分 140 分
第 8 回	バロック様式による作曲法①コラール書法	事前 過去に学習した和声法の内容をあらかじめ復習する。 事後 指摘された部分や理解不足だった部分を復習する。	140 分 140 分
第 9 回	バロック様式の舞曲について	事前 バロック舞曲について CD や辞典などで調べておく。 事後 誤りを指摘された部分を再度やり直してみる。	130 分 150 分
第 10 回	協奏曲について	事前 協奏曲について、音楽辞典などで調べておく。 事後 授業で取り上げられた協奏曲作品を再度録音で聴いてみる。	150 分 130 分
第 11 回	ソナタの概念について	事前 ソナタ形式の構造原理を調べておく。 事後 授業で学んだ内容のノートを再度読み直して記憶する。	150 分 130 分
第 12 回	ベートーヴェンの様式について／ピアノソナタ・交響曲	事前 ベートーヴェンのピアノソナタの楽譜をあらかじめ読譜する。 事後 授業で解析された作品を再度録音で聴いてみる。	160 分 120 分
第 13 回	19 世紀ソナタの分析 ブラームス	事前 19 世紀の音楽の特徴を CD や楽譜などであらかじめ調べる。 事後 19 世紀のソナタの構造原理について復習する。	150 分 130 分
第 14 回	ロマン派の室内楽	事前 ロマン派の室内楽曲をあらかじめ CD など聴いてみる。 事後 授業で取り上げられた作品を再度録音で聴いてみる。	140 分 140 分
第 15 回	19 世紀前半の音楽様式のまとめ	事前 ベートーヴェンの後期作品について調べておく。 事後 理解不足だった部分の復習をする。	120 分 160 分

フィードバック 随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学年末試験（60％）と授業への取り組み（40％）

テキスト 授業で扱う楽曲の楽譜を可能な限り用意すること。（出版社は問わない。）

適宜プリントや資料を配布する。
五線紙を用意すること。

オフィスアワー 授業前後教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑		☑	□	□	□	□	□	□

音楽理論特殊講義 2

講師 高畠亜生

科目コード：SLF212

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	大作曲家の主要作品を、歴史的、社会的視点から深く洞察し、研究する。 また、緻密で発想豊かな分析を行うことによって、更なる作品の理解を深めて行く。

到達目標	楽曲解析と作曲法との総合的実践から、作曲家とその作品のより深い理解を養い、より豊かな演奏表現に繋げていくことを目標とする。 20 世紀前半までの音楽様式とその作曲技法の理解を到達目標とする。
------	--

授業計画	「作曲法の実践と 20 世紀までの多様な音楽様式」 後期ロマン派音楽から 20 世紀音楽作品における作曲技法の変遷をテーマに理論と実践の観点から授業を進める。
------	--

第 1 回	授業ガイダンスと前期で学習した内容の概略	事前 前期で学んだ授業内容を復習しておく。	150 分
第 2 回	古典派様式の作曲法 (1) ソナタ形式 モーツァルトのピアノソナタと交響曲第 41 番	事後 授業で学んだ内容のノートを再度見直してみる。	130 分
		事前 任意で選んだピアノソナタを自ら分析しておく。	130 分
		事後 指摘された箇所を再度やり直して完成する。	150 分
第 3 回	古典派様式の作曲法 (2) 緩徐形式 モーツァルトのピアノソナタと交響曲	事前 モーツァルトの緩徐楽章を CD で聴いてみる。	130 分
		事後 緩徐楽章の形式についてまとめを作る。	150 分
第 4 回	ショパンの音楽様式について (1) バラード	事前 ショパンの主要作品を辞典などであらかじめ調べておく。	130 分
		事後 4 曲のバラードの構造の相違点を再度見直してみる。	150 分
第 5 回	ショパンの音楽様式について (2) ポロネーズ、マズルカ	事前 ポーランドの民族舞曲についてあらかじめ辞典で調べる。	130 分
		事後 初期と後期作品の相違点を再度読譜し直す。	150 分
第 6 回	シューマンの音楽様式について	事前 シューマンの主要作品についてあらかじめ CD など聴いてみる。	130 分
		事後 シューマンの作品のアナリーゼを再度試みる。	150 分
第 7 回	ロマン派様式の作曲法の実践 旋律課題及び低音課題 ワーグナーのトリスタン和声について	事前 19 世紀の和声法について特徴を参考図書で調べる。	130 分
		事後 誤りを指摘された箇所を再度やり直して仕上げる。	150 分
第 8 回	ブラームスの晩年のピアノ小品の解析	事前 半音階的和声について参考図書などで調べておく。	130 分
		事後 シューマンやブラームス室内楽作品において対位法と和声法の融合を再度確認する。	150 分
第 9 回	近代フランス音楽について	事前 ビゼー、サンサーンス、フランクなどの作曲家を辞典で調べる。	120 分
		事後 フォーレの和声について再度楽譜で分析してみる。	160 分
第 10 回	ドビュッシーの音楽様式について／ドビュッシー：プレリュードの分析	事前 ドビュッシーの作品を一つ CD など聴いておく。	160 分
		事後 ドビュッシー音楽の特徴を楽譜で再度見直す。	120 分
第 11 回	近代フランス様式の作曲法(1) 旋律課題及び低音課題 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」和声法の解析	事前 ドビュッシーとラヴェルの作品の特徴を参考図書で調べておく。	170 分
		事後 近代フランスの和声法の特徴を楽譜から読み取る。	110 分
第 12 回	ラヴェルとその作品について	事前 ラヴェルの作品をどれか一つ CD など聴いておく。	140 分
		事後 ラヴェル作品の解析で不十分な点を再度分析し直す。	140 分
第 13 回	オペラ「歌劇」の様式変換／モーツァルトとブッチャーニのオペラ作品より解析	事前 オペラの発祥と歴史的な作品を調べておく。	130 分
		事後 授業で取り上げた作品を再度スコアを観ながら鑑賞する。	150 分
第 14 回	多調性と無調音楽、音列技法による作曲法 ストラヴィンスキー、アルバン・ベルク	事前 無調と 1 2 音列技法について調べておく。	150 分
		事後 授業で取り上げた作品を再度聴きながら、調性音楽との相違を感じ取る。	130 分
第 15 回	後期まとめと現代音楽について	事前 大戦後の音楽について下調べする。	140 分
		事後 理解不足の部分を再度ノートを読み直してみる。	140 分

フィードバック	随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	期末試験(60%)と授業への取り組み(40%)
------	-------------------------

テキスト	授業で扱う楽曲の楽譜を可能な限り用意すること。(出版社は問わない。)
	適宜プリントや資料を配布する。 五線紙を用意すること。

オフィスアワー	授業前後教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑		☑	□	□	□	□	□	□

作曲法（編曲法を含む）
※教育職員免許状取得に関わる科目

講師	高島 亜生	科目コード	SLF306
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3・4 年次			
形態	演習	単位数	2 単位
概要	メロディのコード付け、変奏曲、カノンの作曲、モチーフを使った作曲、歌曲の作曲、無調現代曲の作曲、特殊編成への編曲など		

到達目標	将来、音楽活動や教育の現場で、様々なニーズに応じた作曲・編曲を求められることも少なくない。この授業では、創作の基本的な実技（モチーフの各形式による作曲や伴奏付け、コード付け、合奏&合唱曲の編曲・作曲など）や具体的な書法テクニックを演習させながら、出来るだけ多く自分で楽譜を書いたり、PC に打ち込み楽譜製作をしたりする。またそれらを実際に試演するなど実際の音にして音楽的体験をすることを目標とする。
授業計画	教室内で演奏不可の学生は音源を CD 等で用意すること。

第 1 回	ガイドダンス／作曲とは？メロディの秘法 ポピュラー対位法の解説	事前 事後	終止形（カデンツ）、終止、和音進行、コードネーム、音楽基礎理論を復習しておく。 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120 分 150 分
第 2 回	ポピュラー対位法の実践 童謡に様々なオブリガート（対旋律）を作って編曲する メロディの伴奏付	事前 事後	前回の内容を復習しておく。 授業の課題を仕上げる。	120 分 150 分
第 3 回	前回の実践課題から室内楽（移調楽器を含む）に編曲しよう	事前 事後	移調楽器（ClnB、inA、HrinF、Tp inB、Alto Sax inEs）の記音と実音の関係を調べておく。 室内楽編曲を仕上げておく。	135 分 135 分
第 4 回	前回の室内楽編曲からオーケストラに編曲する（PC 室）	事前 事後	PC ファイル保存用の USB メモリを準備する。 オーケストラ編曲を完成させる。	120 分 150 分
第 5 回	第 3 回で編曲した作品の発表	事前 事後	室内楽編曲の発表のための演奏者手配や練習をしておく。 楽譜と実際の音の違いや改善点を見つける。	135 分 135 分
第 6 回	二部、三部形式のモチーフによる創作（解説と実践）	事前 事後	形式についてと、近親転調について復習しておく。 授業の課題を仕上げる。	120 分 150 分
第 7 回	二部、三部形式のモチーフによる創作（実践と発表とフィードバック）	事前 事後	発表の準備と練習をする。 全体構成とモチーフの展開や時間の流れを客観的にとらえて改善点を見つける。	120 分 150 分
第 8 回	変奏曲の作曲（解説と実践）	事前 事後	変奏曲について調べておく。変奏用のテーマ旋律を見つけておく。 授業の課題を仕上げる。	135 分 135 分
第 9 回	与えられたコード又はセブンス反復進行上に旋律を作曲しよう（ジャズ）	事前 事後	和声の反復進行とセブンスコードについて調べておく。 授業で参考に挙げた反復進行を含む楽曲の音源を探して聴いてみる。	150 分 120 分
第 10 回	多声的な音楽の創作（カノン）	事前 事後	混声三部（Sop、Alto、男声）声域の確認。ルネサンス期の作曲家の声楽作品を着てみる。 授業の課題を仕上げる。	150 分 120 分
第 11 回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう 1（演習）	事前 事後	様々な歌の歌詞のイントネーションを研究する。旋律の動きや伴奏リズムとの関係や音域など。 歌のメロディや伴奏部分を仕上げる。	100 分 170 分
第 12 回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう（発表）	事前 事後	クラス全員で歌えるように、全員の楽譜を準備しよう。 自分の創作した歌の歌詞と旋律線が自然で合っていたか検討して、改善点を見つける。	135 分 135 分
第 13 回	教会旋法やブルースノート、特殊音階、音列を使った作曲や現代音楽の作曲に挑戦。 （レクチャーと実践）	事前 事後	ルネサンス期の旋法音楽や世界の民族音楽やジャズ、日本音楽法など様々なジャンルの音楽を聴いてみてどのような音階が使われているか、意識してみる。 近代、現代の作曲家の作品を聴いてどのように感じたか感想を書いてみる。	170 分 100 分
第 14 回	打楽器（日常雑貨を使用した創作楽器も可）や民族楽器や邦楽器（箏、三味線、篠笛、能管、尺八、琵琶、和太鼓等）を作って特殊編成のための創作や編曲をしてみよう（レクチャーと即興創作）	事前 事後	どんな音が自分の自らの独創的創作に必要なかを澄まして音楽材を探す。一つの楽器で特殊奏法を探してみよう。 授業の課題を修正して改善点を見つける。	170 分 100 分
第 15 回	自由作曲（様式、形式、編成、演奏時間 3 分）の発表会	事前 事後	発表会に備えて、パート楽譜準備、演奏者手配、リハーサル等、各自準備をする。 発表会で他の学生の作品を聞いて、参考にするアイデアを得る。	250 分 20 分

フィードバック 課題を講師が添削して次週返却するので、それをしっかり復習して次の課題にも生かしていく。
最後の提出作品ではその積み重ねの総合力を出せるように、基礎的な作曲技術を身につけていく。

成績評価 学年末作品と試演発表会 40%、宿題や課題 30%、授業への取り組み 30%
学期末作品提出（編成、形式や様式は自由。3 分程度の自由作曲（編曲可））楽譜提出（手書き、コピー、PC いずれも可）。
最後授業日にリハーサル室等で作品発表会を実施する。演奏は自作自演、また履修生以外に依頼可。
教室内で演奏不可の学生は全員が聴ける音源を用意すること。
※スマホ等で音量が小さすぎ全員が聞くことができない機器は不可。未提出、発表会不参加の学生は単位は与えない。

テキスト PC 室のフィナーレを使って楽譜打込をする事があるので各自必ず USB メモリ等を用意すること。
五線紙や筆記用具も用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。
適宜、プリントを配布する。
また演奏する場合に備え、専門楽器も各自持参することが望ましい。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。または E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング ・履修者の楽器編成で可能な室内楽編成グループに分かれて、例えばピアノ連弾曲、フルートとオーボエとピアノの曲を二人、三人で共作し相談しながら楽譜にする。
・創作過程では、講師がアドバイスを与えて手直しする。完成後、試演会をして、全員で講評会をしながら感想を述べ合う。

備考 日頃から移調やアレンジや作曲などに興味を持ち挑戦すること。
1401（PC 室）1402 は必要に応じて使用教室が変わります。授業内や学内掲示、大学サイト等、講師からのメール等での指示に必ず従うこと。
PC 楽譜製作のため 1401 室を授業時以外で使用したい学生は担当講師または教務課まで相談すること。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

教育実習（事前事後指導 1 単位を含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授	山内雅子	科目コード：SCH401
----	------	--------------

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数：5 単位
-------	----------

概要	教育実習で十分な成果があげられるよう、実習期間のシミュレーションを行い、留意点について理解する。また、各自が実習校で行う教材の学習指導案を作成し、その教材を用いて実習前に模擬授業を行う。教育実習期間は集中して全力で取り組み、教科指導の実際や学級指導、生活指導、行事への取り組みなどを体験する。実習後は、経験を交流し学び合う中で、教職への理解を深める。ICT を活用した授業への対応も事前に学修し、対応できるようにする。
----	---

到達目標	教育実習に臨む心構え、留意事項、学習指導要領の内容と学習指導案の書き方などを実習前に理解する。教育実習を通して、教科指導、学級指導、特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制等を理解する。事後は、教育実習を通して得られた知識や経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。
------	---

授業計画				
第 1 回	教育実習の概要と心得 音楽科学習指導案の作成について	事前	中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を読んでくる。	160 分
		事後	中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を再度読んで、理解を深める。	110 分
第 2 回	教育実習で行う教材・題材の検討（1） 歌唱領域 学習指導案の作成	事前	事前配布資料を熟読して、意見を述べられるようにしてくる。	160 分
		事後	主体的・対話的で深い学びのある授業の条件をレポートにまとめる。	110 分
第 3 回	教育実習で行う教材・題材の検討（2） 歌唱領域 学習指導案の作成	事前	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第1編を読む	160 分
		事後	歌唱教材の学習指導案を書く。	110 分
第 4 回	教育実習で行う教材・題材の検討（3） 器楽領域 学習指導案の作成	事前	歌唱教材の学習指導案を書きあげ、授業前日までにメールで提出する。	160 分
		事後	歌唱教材の学習指導案の修正をする。または器楽教材の指導案を書く。	110 分
第 5 回	教育実習で行う教材・題材の検討（4） 創作領域 学習指導案の作成	事前	書き上げた指導案を、授業前日までにメールで提出する。	160 分
		事後	歌唱、器楽教材の指導案の修正をする。または創作教材の指導案を書く。	110 分
第 6 回	教育実習で行う教材・題材の検討（5） 鑑賞領域 学習指導案の作成	事前	書き上げた指導案を授業前日までにメールで提出する。	160 分
		事後	鑑賞教材の指導案を書く。	110 分
第 7 回	教育実習で行う教材・題材の検討（6） 事前打ち合わせを受けて 学習指導案の作成	事前	書き上げた指導案を、授業前日までにメールで提出する。	160 分
		事後	教育実習で扱う教材の学習指導案を書く。	110 分
第 8 回	教育実習で行う教材・題材の検討（7） 事前打ち合わせを受けて 学習指導案の作成	事前	書き上げた指導案を、授業前日までにメールで提出する。	160 分
		事後	教育実習で活用できる指導案を自身のパソコンに保存する。	110 分
第 9 回	教育実習を振り返って（1）	事前	学習指導要領解説総則編 p.91-p.94 を熟読し、重要と考える部分にマーカーを引く。	160 分
		事後	授業で学び、討論等を通して自身の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	110 分
第 10 回	教育実習を振り返って（2）	事前	中学校学習指導要領解説総則編 P.95-p.104 を熟読し、重要部分にマーカーを引く。	160 分
		事後	授業で学び、討論等を通して自分の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	110 分
第 11 回	教育実習を振り返って（3）	事前	中学校学習指導要領解説総則編 P.104-p.113 を熟読し、重要部分にマーカーを引く。	160 分
		事後	授業で学び、討論等を通して自分の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	110 分
第 12 回	教育実習を振り返って（4）	事前	中学校学習指導要領解説総則編 P.113-p.120 を熟読し、重要部分にマーカーを引く。	160 分
		事後	授業で学び、討論等を通して自分の考えが広がったこと等をメモにまとめる。	110 分
第 13 回	教員採用試験の小論文に教育実習での学びを書くことを経験する。(将来受験する時のために)	事前	教育実習全般を通して、最も心に残ったことや、学んだこと、考えたことをメモする。	160 分
		事後	教育実習で学んだこと、考えたこと、心に残ったことを二事例挿入して、800字でまとめる。	110 分
第 14 回	生徒理解、支持的な学級風土を醸成する音楽授業を考える	事前	事前に配布された資料を読んでくる。	160 分
		事後	支持的な学級風土を醸成する音楽授業について、討論をもとにレポートにまとめる。	110 分
第 15 回	生徒の音楽的成長と人間的成長を実現する音楽授業を論じる。	事前	事前に配布された資料を読んでくる。	160 分
		事後	実習日誌を受け取り、全頁を読み直す。	110 分

フィードバック	新学習指導要領に準拠した学習指導案は、提出した次の週の授業で検討すると共に、個々の学生に指導を入れて返却する。授業内での発言、討論の内容についてはその場で、適切に価値づけする等のフィードバックを行う。講義後半で行う論文については、コメントを入れて返却する。
---------	--

成績評価	実習校からの評価（60％） 教育実習日誌の記録（20％） 学習指導案作成への取り組み他平常点（20％）を総合して評価する。
------	---

テキスト	『中学校の音楽』1 年、2・3 年上・下（教育芸術社）／『中学校の器楽』（教育芸術社）／『中学音楽 音楽のおくりもの』1 年、2・3 年上・下（教育出版）／『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版）／『中学校学習指導要領解説音楽編』（平成 29 年、文部科学省）／『中学校学習指導要領解説総則編』（平成 29 年、文部科学省）／『高等学校学習指導要領解説芸術編』（平成 29 年、文部科学省）※高等学校で実習を行う者は大学から貸与する。
------	--

オフィスアワー	授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 myamauchi.159@gmail.com
---------	--

備考	教育実習中及び、事前打ち合わせが授業と重なった場合は、公欠とする。
----	-----------------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐

教職実践演習（中・高）
※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH402

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	4 年間の教職の学びの集大成として、全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとするために、これまで受講した主に教職に関する科目の学修内容と教育実習・介護実習・支援員や学校ボランティアの経験をつなげ、討論を中心として理解を深めていく。
到達目標	全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。
授業計画	振り返りと討論を中心として行う。

第 1 回	教職の意義 教育実習を通して感じた「教師という仕事」	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 2 回	教員の職務と学校現場における課題	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	介護等体験（特別支援学校 社会福祉施設）を振り返って	事前 介護等体験で学んだこと、考えたことを振り返り、まとめる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 4 回	教師としての人権意識	事前 事前に配布された人権についての資料を読み、考えをまとめてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 5 回	生活指導・道徳の指導	事前 生活指導と道徳に関する事前配布資料を読んで、考えをまとめてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 6 回	特別活動と音楽科 行事の音楽・部活指導他	事前 特別活動についての学びを振り返ると共に部活指導を通して育てたい生徒像をメモ 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 7 回	教育原理・知識と実践のつながり	事前 教育原理の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 8 回	GIGA スクール構想の中での音楽授業を考える	事前 提示された実践事例について内容を把握しておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	令和日本文型学校教育を考える	事前 事前配布資料を読み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の事例を考えてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	音楽科の評価を考える	事前 事前配布資料を読み、音楽科の評価について考えてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	「共生社会」の実現のために、学校教育ができること	事前 事前配布資料を読み、「共生社会」について考えてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	世界に通用する「人材教育」を学ぶ 元ホテルオークラ総支配人・グランコンシェルジュ評価認定委員のレクチャーと討論	事前 事前配布資料を読み、考えをまとめてくる。 事後 「世界に通用する人勢教育」の講義を受けてのレポートを書き、提出する。	160 分 110 分
第 13 回	公教育の意義と教師の役割を考える	事前 日本国憲法、教育基本法の関連箇所を読んでくる。 事後 講義と討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	160 分 110 分
第 14 回	「何を教えるか」VS「誰が教えるか」	事前 理想の音楽教師像をまとめてくる。 事後 講義と討論を通して考えたことをレポートにまとめて提出する。	160 分 110 分
第 15 回	教員免許状を取得して、社会に出ていくということへの自覚と夢	事前 自身の公教育での学びを振り返ってくる。 事後 最終レポート課題を執筆し、提出する。	160 分 110 分

フィードバック 毎回の課題に対して、講義の内容を振り返ると共に、それぞれが教育実習等の経験を踏まえて、自分の考えを述べ、交流する学修が中心となる。討論の中での意見を価値付けたり、適切な助言を行うことでフィードバックする。提出レポートは、コメントを入れて返却する。

成績評価 授業態度：前向きに授業に参加し、意見を述べている（30%）。小テスト：教員としての使命と役割、サービスの厳正、喫緊の課題等について、正しい知識と自分なりの考えをもっている（20%）。提出レポート課題の内容（50%）

テキスト

- ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年度版
- ・毎回、作成したプリントを配布して行う。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 myamauchi.159@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒

音楽授業観察実習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子 科目コード：SCH106

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／4 年次、全コース／全専門／4 年次

形態：実習 単位数：2 単位

概要 特に優れた音楽授業実践で定評のある音楽教師の授業を参観し、お話を伺う。参観と授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽科授業の構成や方法について知る。最寄駅で集合して、制服着用で訪問する。事後のレポートあり。

到達目標 この実習では、特に優れた音楽授業実践をしている音楽教師の授業参観と、授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽授業の構成や方法を知り、教師を目指す学生が目標とする音楽教師像を明確にもって、日々の学びを更に主体的に深めていくことができるようにすることを目標とする。

授業計画 本授業は、不定期集中講義として開講される。新年度に入ってから協力校との交渉で観察日時を決定するためである。授業後、必ず研究協議会を設定し、対話や質疑応答を通して学び合う時間を確保する。

第 1 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する。	30 分
		事後	授業観察を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 2 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 3 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 4 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 5 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 6 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 7 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 8 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 9 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 10 回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 11 回	優れた吹奏楽指導を行う教師に部活経営の話聞き、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 12 回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導参観やその後に聞いた話をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 13 回	特別支援学校の音楽授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 14 回	特別支援学校の音楽授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 15 回	特別支援学校の音楽授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分

フィードバック 研究協議会での発言について講評すると共に、観察実習後のレポートにコメントを入れて返却する。

成績評価 参観態度（20％） 協議会での発言内容（40％） 事後レポート（40％）

テキスト 参観校の先生が音楽科経営案、学習指導案等を用意。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 Myamauchi.159@gmail.com

備考 本授業は、大学4年間で5回以上の参加をもって4年卒業時に単位を出す科目である。
自分の理想とする教師像を描く上でもとても有効な授業であるため、教職履修者は都合がつく限り、何回でも積極的に履修してほしい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐